

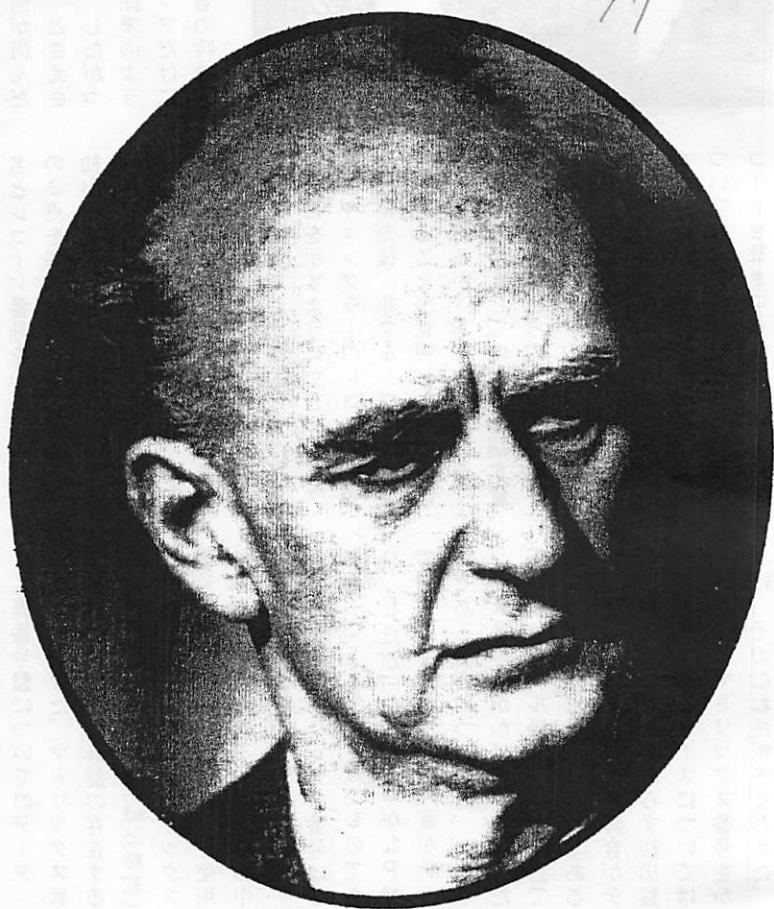
名演奏家【リテカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その①

84/7



あえてクリティカル・ディスコグラフィを

松山浩介

フルトヴェングラーが没してこの十一月三十日でちょうど三十年を迎えるが、今世紀に君臨した大指揮者の中でフルトヴェングラーほど、残した録音に関心がはたわれスタジオ録音のみならず、わずかな実況録音の断片まで文字どおり草の根わけての探索が進められ、次々とレコード化が続けられている人は例をみない。

フルトヴェングラーの残した録音は、一九二二年のベルリン・フィル常任指揮者就任ののちより没年の一九五四年までの約三十年にわたって、現在判明しているだけでも約五〇〇点を数えるが、今ま

でフルトヴェングラーと銘うってこのうち約三七〇点がレコード（ディスク）として登場している（この連載ではそのすべてについて触れることにしたい）。さらに、わが国ではそのうち約三二〇点が何らかの形で国内盤として登場しており、一国でのレコード化の数としてはイタリアとともに屈指のものであり、かけ値なしのフルトヴェングラー・レコード王国と申せるだろう。ちなみに、この三七

〇点という数はトスカニーニの未公開テープがレコード化されたときはあるいはこれをしのぐかも知れないが、それでも一人の音楽家の記録としては未曾有のものともみえていいだろう。

ところで、これら三七〇点のうち七割近い約二五〇点が実況録音のレコード化であり、スタジオ録音は一〇〇点余に過ぎないことが、他の音楽家にみられない独特の傾向——それは愛好家の期待を充すだけのスタジオ録音を残さなかったために生れた、いわば空白を埋めるためのものという一面と、他方、演奏の一回性に再現芸術の真の意義を認めたフルトヴェングラーの美学の当然の帰結ともいえるこれらの記録である実況録音への後世の傾倒——であるとともに、実はこの連載で問題としてとりあげたい主題をも提供することになっている。

ところでフルトヴェングラーの遺産であるこれらのレコードと録音記録のリスト（ディスクグラフィ）を作る企ては、巨匠の逝去と前後して本格的に取り組まれはじめた。初期の労作は没後まもなくフランスのレコード誌「Disque」に、次いでそれを基礎としたディスクグラフィが各国のレコード誌に登場した。因に、わが国でのこの種のものは「レコード芸術」昭和三十年九月号に松本太郎氏が、「フルトヴェングラーのレコード」と題した四ページのリストを紹介

されているのが嚆矢だろう。

この頃まではもっぱらレコード記録に限られていたディスクグラフィも、一九六五年にD・ギリスの「Furtwängler Recalled」（邦題「フルトヴェングラー頌」、仙北谷晃一訳）にM・マーカスが付けたディスクグラフィで初めて実況録音の記録についての分野でも本格的な記述が始り、一九七〇年、デンマークのH・オルセンの労作、「Wilhelm Furtwängler, A Discography」第1版がコペンハーゲンで出版されるに及んで、名実ともに基礎が確立されたのだった。オルセンの労作はその後一九七三年に第2版が上梓され、さらに没後二十五年にあたる一九九九年秋の出版をめざして第3版の編さん作業が進められたが、残念ながらまだ陽の目をみるには至っていない。この間、一九七九年一月にフランス・フルトヴェングラー協会がオルセンの労作第2版のフランス版を作製した折に独自の補遺（Additif）を編さんし、またイギリスのJ・ハントは一九八二年に「The Furtwängler Sound」を出版、ヨーロッパ系のレコード記録として貴重な資料を提供した。

これらの労作と並んで、一方では従来の録音内容の再吟味が幾多の研究家の手で始められ、すでにいくつかの注目すべき結果を発表されている。フルトヴェングラーに限らずレコードに各種のデータが付けられるようになったのはむ



しろ最近になってからであり、とくに同曲異演盤の多いフルトヴェングラーのレコードは他の演奏家と比べて問題の複雑さを想像できようが、研究家の検討を通じてみるならば、これらの同曲異演盤の記録を始めとして一九三〇年代から四〇年代にかけての実況録音盤に問題をかかえているものが少なくなく、いくつかは従来の記録の書きかえがせまれ、あるものについては非フルトヴェングラーとして削除さえされる運命にある。すでに一部の愛好家の間では「このまま放置すると将来フルトヴェングラーのレコードは何が何んだか分らなくなるのでは」とさえささやかれているという。したがって、この連載では単に従来のようなレコードのリストアップだけにとどまらず、先の関係者の吟味を

も念頭に置いて、今後のフルトヴェングラー研究に多少とも役立つものをとの編者のささやかな願いのもとに編さんをしてきた。あえて「クリティカルディスクグラフィ」と題したのである。

ディスクグラフィ記載方法について

①今までにフルトヴェングラーと銘うって登場した約三七〇点のレコードのすべてについて基本データをかかげる。

②該当するすべての国内盤の——SP、EP、LPの——レーベル名とレコード番号をかかげる。

③初出盤を除いた外国盤については国内現役盤の存在する録音の場合

は原則として触れなかった。国内現役盤のないものについては外国現役盤を示し、それも無い場合は

廃盤のうちでも比較的入手が容易なものを示すようにつとめた。フルトヴェングラーのレコードの中には発売後、非フルトヴェングラーであることが判明したものが多い

くつかあるが、本ディスクグラフィでは資料としての十全を期す意味であえてそれらのレコードをす

べてかかげ、非フルトヴェングラーと判明した経緯と真の演奏者名をつとめてかかげるようにした。

また、いわゆるプライベート盤についても（実状としてこの種のレコードを抜きにしてはフルトヴェングラーの録音について語るこ

が不可能であるので）編者が確認できたものは必要な個所にすべてかかげた（プライベート盤には「この印を付した」ただ事の性質上、プライベート盤についてはその全ぼうをつかむことがむずかしいので思わぬ脱落があるかも知れないがご寛容いただきたい。記述の方法は、まず基本データとして、

作曲者、曲名、同一曲の録音回数、オーケストラ名、団体名、独唱（奏）者名、収録月日、収録場所、

初出盤（㉔）と略記、初出盤マトリックス番号（㉕）と略記、マトリックス異番号盤についてのデータ

の順にかかげた。マトリックス異番号盤については異盤の存在するレコード番号および面（sd.と略記）

を示したあとに異なるマトリックス番号を示し、復刻盤によって使用マトリックスの異なるものは注の中でそれぞれの使用原盤を示した。

もちろん、マトリックス番号はSP盤でこそ意味を持つものであるが、したがって初出盤がLP盤で、そのオリジナル録音がテー

プである場合については、マトリックス番号はかかげていない。ただ、オリジナル録音が78回転盤で

ありながら初出盤がLP盤であるケース、逆にオリジナル録音がテープであるにもかかわらず初出盤

がSP盤であるケースについては、例外としてマトリックス番号をか

かげ、そのむね注釈をくわえた。なお、収録月日が特定できないものについては予想される月日をす

べて示し、その下にアンダーラインを引いた。

国内盤（㉔と略記）についてはレコード規格（回転数/径）ごとに、発売会社名、レーベル名、レ

コード番号の順に記載した。なおレコード番号はアルファベット順、番号順に並べたもので発売順ではない。

外国盤（㉕と略記）については規格はかかげなかった（すべて33/30。国名は通常の漢字書きで、デンマーク、スイス、リヒテンシュタイン等は、それぞれ、デ、ス、リ、と表した。なおそれぞれの項のレコード番号の次に、現役盤は「※」、非売盤には「㉖」のしるしをそれぞれ付けた。

注では多くの引用資料をかかげたが、原則として書籍、雑誌等についてはフルネームで示した。しかし、H・オルセン編の「ディスクグラフィ」（H.Olsen: Wilhelm Furtwängler, A Discography）はたびたび引用をしたので、これに限って単に「オルセン」とのみ記し、つづいて「1版」（1970年刊）、「2版」（1973年刊）を示した。また、各国フルトヴェングラー協会についてはそれぞれの国名の次に単に「フ協」といえば「英フ協」の如く）とのみ示した。

なお、国内盤のレーベル名、レコード番号については正確を期すためレコードまたはそれにかわる第1次資料によって確認することを

原則としたが、SP盤や初期のEP、LP盤のいくつかについてはそれがはたせなかったものがあつた。この場合はやむを得ず各種の印刷物からレコード番号などのデータを得たが、この場合も複数の印刷物を参照するなどして正確を期した。しかし、これら印刷物には往々にしてミスプリントがあり、あるいはこのディスクグラフィにそのミスプリントが持込まれてい

るかも知れない。もし、読者のお手持のレコードから誤りにお気づきの場合はぜひご指摘を賜りたい。連載中にも適宜訂正を行うとともに少なくとも国内盤に関しては将来、基礎資料として使い得るものに仕上げることを目ざしたい。

国内盤関係に使用した略記号は次の通りである。

（発売会社名）

T…東芝、C…コロムビア、P…ポリドール、Ph…フォノグラム、K…キング、R…RVC、WP…ワーナー・バイオニア、Te…テイチク、V…ビクター

（レーベル名）

A…エンジェル、WS…ワルター協会、Ro…ロココ、C…コロムビア、G…グラモフォン、Po…ポリドール、Ph…フィリップス、F…フォンタナ、Re…リリーフ、Cet…チェトラ、SS…セブン・シーズ、L…ロンドン、Le…レジェンズ、Op…ミュージック、M…メトロノーム、V…ビクター

33/30: P: G ● MG1476, MG6014, SMG1476

日フ協 ● JPL1044~6.

⑧独DG: 2535821※

▶ベルリンpo.の定期では同年2月3、4日に
とり上げている。

●パッハ/管弦楽組曲第3番より「ア
リア」

ベルリンpo. 不詳, ベルリンでのスタジオ録
音。

⑧独Polydor: 66926. M860Bi 1.

⑧78/30: P: Po ● 60171.

45/17: P: G ● EPX16.

33/25: P: G ● LG1001.

33/30: P: G ● LGM1070~6, MG6017.

日フ協 ● JPL1011~2※

⑧独DG: 2535827※

●シュベルト/劇音楽「ロザムンデ」よ
りバレ音楽第2番①

ベルリンpo. 不詳, ベルリンでのスタジオ録
音。

⑧独Polydor: 66935. M861Bi.

⑧78/30: P: Po ● S4041, 45141, 45214.

45/17: P: G ● EPX16.

33/25: P: G ● LG1001.

33/30: P: G ● LGM1070~6, MG1445,
MG1479, MG9020, SLGM1445, SMG
9020.

日フ協 ● JPL1044~6※

●シュベルト/劇音楽「ロザムンデ」よ
り間奏曲第3番①

ベルリンpo. 不詳, ベルリンでのスタジオ録
音。

⑧独Polydor: 95458. M862Bi.

⑧78/30: P: Po ● S4041

▶L P未復刻。後述のように1930年にもこの
曲を録音しているが (M1102+Bi 1) この方
も95458のレコード番号で発売されている。

●ベートーヴェン/交響曲第2番

ベルリンpo. 不詳。

⑧独Olympic: 8120~7

⑧33/30: Ph: Ph ● SETC7501~7.

▶非フルトヴェングラー盤。1929年の放送用録
音盤から復刻した世界初の巨匠の「第2」と
いうふれこみで登場したが、間もなく非フル
トヴェングラーと判明して姿を消した。正体
はE・クライバー指揮、ベルリン国立Op. Or.
によるS P盤 (独Polydor: 66905~8)。クライ
バーはこの録音以外にもブリュッセル・ナシ
ョナルso.を指揮したテレフンケン盤があり国
内盤 (テレフンケン: 33617~20) もあった。フル
トヴェングラー指揮の「第2」は、目下の
ところ後述の1948年のウィーンpo.盤が唯一の
もの。

▶巨匠初の「第
2」とさわがれた
が実はクライ
バーだった。仏
Polydor: 66907.



1930年

●ワーグナー/歌劇「ローエングリン」第
1幕への前奏曲①

ベルリンPo. 不詳, ベルリンでのスタジオ録
音。

⑧独Polydor: 95408. M1085+Bi 1/1086+
Bi 1 (英Decca CA8089.sd.2—初, および
1086+Bi 1.

⑧78/30: P: Po ● 60187

33/30: P: G ● MG1476, SMG1476.

Te: M ● ULX3001.

日フ協 ● JPL1044~6※

▶最初期の仏Polydor盤はドイツのそれと同じ
レコード番号、同一原盤でプレスされている。
写真は仏Polydor: 95408.

この盤のマトリックス番号システムもそのう
ちの電気録音のそれと同じであることからお
そらく電気録音の初期の録音と考えられる。

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

①

ベルリンpo. 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

⑧独Polydor: 69855~9. M174bm/175bm/
216bm/217bm/218bm/179bm/330+bm/
214bm/215bm.

⑧78/30: P: Po ● 60024~8.

33/30: Ph: F ● PL1020.

日フ協 ● NA121~2※

⑧米Discocorp: RR431.

▶日本で発売された最初のフルトヴェング
ラー。当時の録音技術の水準を反映してカ
オケストレーションに変更が加えられており、
そのうえ第3楽章の236~244小節が収録され
ていない。この部分はsd.5とsd.7の間にあたり、
sd.7のマトリックス番号が他の部分とは大きく
違っていることからみて、当初、sd.7の冒頭に
収録されるはずであったこのピアノシモの
8小節が、ノイズに埋もれてしまったため数
回の収録ののち結局断念したのではないだろ
うか。なお第1楽章提示部の反復も省略され
ている。収録日は不明であるが、マトリッ
クス番号が先の「魔弾の射手」序曲のそれに
引き続いていること、11月28、29日の定期演奏
会でこの「運命」をとり上げていることから
みて収録日もおそらくこの頃と思われる。

▶初出盤の独

Polydor: 69856

のレーベル



●チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏
曲

ベルリンpo. E・ブラウン(vn), 不詳, ⑧
“TLC”: TLC2580~5.

▶非フルトヴェングラー盤。レコードの表示
にはEDDY BROWN, Violinist With FURTWÄ
NGLER Berlin Philharmoniker 1926 となっ
ているが、正確にはF・ワイズマン指揮、ベル
リン国立Op. Or.の未発売におつたオデ
オンのテストプレス盤で、マトリックス番号は68
84~92, 30cm盤片面のみ9枚に録音されてい
る。しかしフルトヴェングラーの指揮したチ
ャイコフスキーの協奏曲に関しては次のよう
な注目すべき資料があり、あるいは実際に録
音を行ったのではないかと考えられる。その
1つはブラウン自身がカナダの著名な音楽学
者J・クレイトンの照会に対して1973年1
月16日付の返信の中で “The recording that I
made with the Berlin Philharmonic under Fur
twängler of the Tchaikowsky violin concerto
was never issued……” と明記していること。
——因に、この手紙は上述のTLC2580~5
の製作者T・クレアが作ったパンフレットの
中に全文のコピーが公表されている。2つ目
はこのクレア氏がクリストファ・野沢氏に宛
てた手紙によれば、ブラウンがクレアに対し
ワイズマンとの録音ののち同曲をふたたび
フルトヴェングラー、ベルリンpo.と録音したが
両録音とも未発売に終わった、と語ったという。
(この項についてはクリストファ・野沢、殿木
敏彦両氏から貴重なご教示をいただいた)

1929年

●メンデルスゾーン/劇音楽「真夏の夜
の夢」序曲①

⑧独Polydor: 66925~6. M857Bi 1/858Bi
1/859Bi 1.

⑧78/30: P: Po ● E210~1, 45213~4,
60170~1.

最初期の録音をめぐる

つい十数年前までは、フルトヴェング
ラーの録音第1号はこのディスコグラフィ
の第2番目にあげたベートーヴェンの
「運命」(1926年録音)と信じられていた
が、偶然の機会から「魔弾の射手」序曲
のレコードが発見され、マトリックス番
号から先の「運命」より1つ前の録音で
あることが判明し目下のところではこの
「序曲」が第1号であるとされている。
本稿でも推定しているようにこの序曲の
収録は1926年10月頃と思われるが、それ
以前にはフルトヴェングラーはまったく
レコーディングを行わなかったかとい
うと必ずしもそれは断言できない。また
この頃以後であっても現在知られてい
るもの以外の録音が行われなかったとも速
断はできない。とくに本稿の3番目に
紹介するような思いがけない証言が出
てくるので1920年代の録音についてはまだ
まだ流動的といえるのではないだろうか。
衆知のようにフルトヴェングラーがニキ
ッシュのあとを継いでベルリン・フィル
の指揮者に就任したのは1922年であり、
すでにこの頃は幾多の指揮者によって
ベルリン・フィルをはじめ、ベルリン国立
Op. Or.などのレコードが多く録音されて
いる。ただ、当時の例としてニキッシュ
の様なトップクラスを除いては指揮者名
はおろかオーケストラ名もレーベルに記
載されていないことが多く、ワルター、
クレンペラー等の例をまづまでもなくフル
トヴェングラーとても単に「大オーケ
ストラ」とのみ記した通俗曲のレコード
にあるいはその若かりし日の姿をとど
めているかも知れない。いや、その可能性
は大きいとさえいえる。一時期、ヨー
ロッパのフルトヴェングラー研究家の手で
オデオン・パーロフォン系の初期レコ
ードの「大オーケストラ」レコードが系統
的に調査されたこともあったが目下のと
ころ「これは」という収獲は得られてい
ない。現在チューリッヒ中央図書館に収
蔵されているフルトヴェングラーの私的
な未公開記録が公刊されればあるいは糸
口が得られるかも知れない。

1926年

●ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」序曲①

ベルリンpo. 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

⑧独Polydor: 66466. M172bm/173bm.

⑧33/30: 日フ協 ● JPL1011~2※

⑧米Discocorp: RR431.

▶目下判明しているところではフルトヴェ
ングラーの録音第1号。初出盤は巨匠のレコ
ードの中でもっとも入手の困難なものの1つ。
数年前オーストラリアの中古S P盤のオーク
ションに登場したときは世界中のマニアが
入札に殺到した。ちなみにこのときの落札価格
は邦価にして約5万円。L Pトランスクリプ
ションは上述の2点のみ。収録日は確認され
ていないが、フルトヴェングラーのスタジオ
録音は直近の演奏会できり上げた曲をしば
しばそのまま行っているの、このときも10月
10、11日のベルリンpo.定期でこの曲をとり
上げていることから、恐らくこの頃に録音され
たものと思われる。またこの録音を従来から
アコースティック録音とする見解があるが、
1926年秋にはすでに電気録音が始まっており、

終止の2つの和音が奏せられるが、何故かこの1930年盤では演奏されていない。1950年8月のザルツブルク盤では和音は演奏されている。



▶ 仏Polydor: 9-5417.

●ロッシェニ/歌劇「どろぼうかきさぎ」序曲

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95427, M1108-BI 1/1109-BI 1.

②78/30: P: Po ●60195, S4039.

33/30: P: G ●MG1479

日フ協 ●JPL1044-6

▶フルトヴェングラーのロッシェニはこの曲と「セビリアの理髪師」序曲の2つのみ。なお、近衛秀磨氏によれば（「フルトヴェングラー大全集」第1集解説書, p4, 昭和36年7月, 東芝）この曲の録音はベルリン高等音楽院講堂で行われ、リハーサルも収録されたがこの録音盤の方は戦災で消滅したという。

●ブラームス/ハンガリー舞曲第1番①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 90190, M2580-BH 1 (独Polydor: 90190→初, および2580-BH 2, 米Brunswick: 85034→2580BH 1)

②78/25: P: Po ●50040.

33/30: P: G ●MG1479.

日フ協 ●JPL1044-6

●ブラームス/ハンガリー舞曲第10番①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 90190, M2587-BH 1.

②78/25: P: Po ●50040.

33/30: P: G ●MG1479.

日フ協 ●JPL1044-6

▶初出盤を含め、SP盤はすべて「第3番」と記載しているが「第10番」の間違い。

1931年

ワグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕への前奏曲②

パイロイト音楽祭Or., 8月18日, パイロイト音楽祭での実況録音。

①独BASF: HB22863-0

②仏フ協: SWF8207

独Acanta: 4028520

▶フルトヴェングラーにとってパイロイトはこの1931年が初登場。7月23日, 8月3日, 18日の3ステージを振ったが、タイトルロールのメルヒオールが舞台監督と衝突して2ステージで降りてしまったため、この前奏曲の収録された最終日のみ、トリスタンはG・ビストルが唱うというハプニングがあった。フルトヴェングラーはこの年のパイロイトでは「トリスタン」3ステージ以外に8月4日に行われたコジマ、ジークフリート追悼演奏会で「エロイカ」を指揮した。

●ワグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」第1幕(断片)

パイロイト音楽祭Or., トッドセン(S), ヘルム(S), ボッケルマン(Bs), ビストル(T), 8月18日, パイロイト音楽祭での実況録音。

①独Danacord: DACO131-3

▶デンマーク放送局資料室の保存録音盤からの復刻で「オルセン」2版で20番として挙げ

と思われるが冒頭のAの音が抜けている。もちろんもとの原盤にはAの音は入っている。

●R. シュトラウス/交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」リハーサル

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①仏フ協: SWF7902/7906

②独DG: 2740260

▶前項の同曲全曲収録に先立つスタジオリハーサルを録音した貴重な記録。フルトヴェングラーのリハーサルは戦後のベートーヴェンの「第7」, 「レオノーレ第3番」, それにシューベルトの「未完成」がレコードとしてすでに公開されているが、この「ティル」は戦後のそれと違い、極めて緻密なリハーサルが行われておりすこぶる興味深い。収録部分は216-346小節, 373-428小節の2つの部分で約8分弱。独DG盤は現在でも入手可能。「オルセン」1版でT186, 同2版で431として挙げているものと同じ録音。

●メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95470, M1098BI 1/1099BI 1 (英Decca: CA8090 sd.2→初, および1099-BI 1)

②78/30: P: Po ●45088, E196.

33/30: P: G ●MG1476, MG6014, SMG1476.

日フ協 ●JPL1044-6

③独DG: 2535821

●ベルリオーズ/劇音楽「ファウストの劫罰」より「ラコッツィ行進曲」①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95411, M1101-BI 1.

②78/30: P: Po ●60189, S4040.

33/30: P: G ●MG1479.

日フ協 ●JPL1044-6



▶フルトヴェングラーの顔写真と名前のかざり文字入りの日本盤S4040.

●シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」より間奏曲第3番②

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95418, M1102-BI 1.

②78/30: P: Po ●45153

33/30: P: G ●MG1479

日フ協 ●JPL1044-6

▶3曲ある「ロザムンデ」の間奏曲のうち、この変ロ長調間奏曲を「第2番」と表示しているレコードがとくにこの1930年録音のものには多い（たとえば英Decca: CA8098, 上述の日本ポリドール盤45153など）が「第3番」が正しい。

●バッハ/ブランデンブルク協奏曲第3番①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95417-8, M1104BI 1/1105-BI 1/1106-BI 1.

②78/30: P: Po ●45152-3.

33/25: P: G ●LG1097.

33/30: P: G ●LGM1070-6, MG1445, MG6017, MG9020, SLGM1445, SMG9020.

日フ協 ●JPL1044-6

③独DG: 2535827

▶この曲は通常、2つの楽章の間にフリギア



●ワグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕への前奏曲①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95438-9, M1087-BI 1/1088-BI 1/1089BI 1 (初出盤sd.3→初, および1089-BI 1, 英Decca: CA8039/CA8156 sd.3→1089-BI 1)

②78/30: P: Po ●60196-7.

33/30: P: G ●MG1476, SMG1476.

日フ協 ●JPL1044-6

▶次項の「愛の死」と同時に録音されているが、いかなる理由からかLPへの復刻はこの前奏曲は少ない。

▶ 仏Polydor: 9-5438.



●ワグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95439, M1089BI 1/1090-BI 1 (初出盤sd.1→初, および1089-BI 1, 英Decca: CA8156 sd.1→1089-BI 1)

②78/30: P: Po ●60197.

33/25: P: G ●LG1097.

33/30: P: G ●LGM1070-6, MG1445, MG1476, MG9020, SMG1476, SLGM1445, SMG9020.

日フ協 ●JPL1044-6

▶「愛の死」のオーケストラ版。フルトヴェングラーはソリスト付きのこの曲の録音は単独のものとしては残していない。

●シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」序曲①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①米Brunswick: 90147, M1091BI 1/1092BI 1.

②33/30: 日フ協 ●JP1101-2

▶独Polydorのスタジオ録音にもかかわらず本国では発売されなかった。またLP復刻も日フ協盤のみという極めてめづらしいケース。

●R. シュトラウス/交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」①

ベルリンPa., 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 95410-1, M1095-BI 1/1096-BI 1/1097BI 1 (英Decca: CA8053-4, sd.1→初, および1093-BI 1, 同sd.3→1097-BI 1)

②78/30: P: Po ●60188-9.

33/30: C: Ro ●DXM176

日フ協 ●JP1101-2

③加Rococo: 2014

独DG: 2740260

▶sd.1の原盤にどちらを使用しているかでLPトランスクリプションも2種類存在する。ロココ系の2つはマトリックス番号1093の方を使用し、その他はすべて1095を使用した復刻盤。ロココ系は、おそらく復刻の際のミス

SMG9020.

日フ協●JPL1044~6●

●独DG: 2535827*

1935年

●ワーグナー／歌劇「タンホイザー」第2幕 第3幕(断片)

ウィーン国立Op. Or., 同da, バシー(S), スヴェッド(Br), ピストル(T)。10月15日, ウィーン国立歌劇場での実況録音。

①“UOR”: UORC242●

▶目下判明している唯一のフルトヴェングラーの「タンホイザー」実況録音。「歌の殿堂」フルトブルグ城の歌合戦の場、「夕星の歌」などの断片を含む合計約21分が収録されている。とくに第3幕のスヴェッドのウォルフラムの唱う「夕星の歌」は全曲収録されているがこれは稀代の名唱。後述の独Acanta: 4023520に含まれている1936年ウィーンでの「タンホイザー」断片はAcantaの表示違いで、このUORC242と同一の録音。日付は1935年が正しい。

●ロッシーニ／歌劇「セビリヤの理髪師」序曲

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 35028, M526+GS/527+GS.

②78/30: P: Pa●65008, S4036.

33/30: P: G●MG1479.

日フ協●JPL1044~6●

●ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲②

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 67108-9, M542+GS/543+GS/544GS.

②78/30: P: Pa●65011-2, E217-8.

33/30: C: Ro●DXM176

P: G●MG6014

日フ協●NA121~2●

●独DG: 2535821*

●ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」第3幕への前奏曲

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 67109, M545+GS

②78/30: P: Pa●65012, E218, S4040.

33/30: C: Ro●DXM176

P: G●MG6014

日フ協●NA121~2●

●独DG: 2535821*



6月号の訂正

小誌6月号掲載の「ワインガルトナー・デイスコグラフィ②」に以下のような誤りがありましたので、御わびして訂正いたします。

●261ページ、右段「ベートーヴェン／交響曲第2番」の写真説明の最後に「レーベル」とありますが、これは「ジャケット写真」

●同上、下から3行目、「SW1048」→「S1048」

●261ページ、中段、最後の行、「2月18日」→「2月16、18日」

●261ページ、左段、「ブラームス／交響曲第1番」の写真説明の最後に「レーベル」とありますが、これも「ジャケット写真」

LGM1105については非フルトヴェングラー盤、MG1449, MG9020, SMG9020, SLGM1449についても、未確認ながら、おそらく非フルトヴェングラー盤。MG6017と日フ協盤については、まふがいなくSP盤の複製である。これはDGで日本ポリドール社のマスターテープ（日本ポリドール社では886号テープと呼ばれている）を作った際に誤って別の演奏者の録音を使ってしまったと想像される原因に依る不幸な例。真の演奏者はF・レーマン指揮、ベルリンpo.で、1950年代中頃にドイツ（独Heliodor: 478074, など）、アメリカ（米Decca: DL9849）で発売されていた。

筆者はかつてこの問題についての詳細な分析を発表したが（→松山:「ステレオ芸術」昭和56年7月号, p126）、大部分のグラモフォンの複製盤とSP盤が別の演奏である、という指摘は郷多郎氏がすでに昭和50年にされている（→郷:「フルトヴェングラー、人と芸術」, p212, 芸術現代社刊, 昭和50年）。この中で氏の見解は複製盤もフルトヴェングラーのもの、というものであった。しかし筆者は上掲誌の中で、各種の証拠から市販SP盤の複製でないことはもちろんのこと、未発売の別テープである可能性も無いことを明らかにし、当時DGに存在したもう一つの「フィガロ」序曲であるレーマン指揮のものを取り違えられた可能性（念のため付け加えると、レーマン盤は日本では発売されていないので取り違えが起るとすればドイツでとしか考えられない）がもっとも大きいことを指摘した。最近になりこのレーマン盤を入手検討の結果、MG6017以外のグラモフォン盤とまったく同一の演奏であることが確認された。SP盤のフルトヴェングラーの演奏とレーマン盤（したがってMG6017以外のグラモフォン盤も）の一番明瞭な相違点は225小節目の第1ヴァイオリンのDの音をフルトヴェングラーは楽譜通りの附点2分音符で演奏しているが、レーマンはこの音符を4分音符3つに分割演奏させている点である。なお、MG6017のみが真正の複製盤であるのは、おそらく、1979年に独DGでフルトヴェングラーのSP複製盤があらたに発売された折に新しく作り直されたマスターテープによって日本でのプレスが行われたため、それ以前のグラモフォン盤と異なったものになったのではないかと想像される。



▶真疑をめぐって問題となった発端のレコードG●LGM1001。これに含まれている「フィガロ」序曲はフルトヴェングラーではなかった。



▶不幸な取り違い事件となったレーマン指揮の「フィガロ」序曲。米Decca: DL9849のジャケット。

●モーツァルト／歌劇「後宮よりの逃走」序曲

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 35013, M738+BE I (英Decca: CA8187→738BE I)

②78/30: P: Pa●45130, S4037

45/17: P: G●EXP34

33/25: P: G●LGM1001

33/30: P: G●LGM1080~7, LGM1105, MG1449, MG6017, MG9020, SLGM1449,

られている録音とは別のもの。収録部分はいずれも第1幕で

①sc.3, sicher Mann elendよりich liess es fallenまで

②sc.3~4, So reichteよりbegleiten, nicht werdまで

③sc.5, Müht euch die?よりdu nicht dir'sまで

収録時間は合計で約11分である。「オルセン」2版が挙げている録音は収録が7月23日、クルヴェナール役をマノワルダとしているがこの年のクルヴェナールはポッケルマンのシングルキャストであるのでオルセンの記載ミスカ、あるいはマノワルダが正しいとするとオルセンの挙げている録音はこのキャストで上演された1930年のエルメンドルフ指揮のものである可能性も考えられる。

1932年

●ウェーバー／舞踏への勧誘

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 67056, M631+BE/632BE I (日Polydor: 45100, E194 sd.1→631+BE Iおよび9631+BE I, 同sd.2→9632+BE I)

②78/30: P: Pa●45100, E194.

33/30: P: G●MG1479, MG6014.

日フ協●JPL1044~6●

●独DG: 2535821*

1933年

●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」より「ジークフリートの葬送行進曲」①

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 67054, M733BE I/734+BE I (英Decca: CA8173 sd.2→734BE I)

②78/30: P: Pa●45093

33/30: P: G●MG1476, SMG1476.

日フ協●JPL1044~6●

●独DG: 2721113

▶独Polydor: 67054



●ベートーヴェン／劇音楽「エグモント」序曲①

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 67055, M735BE I/736BE I.

②78/30: P: Pa●45105, E195

33/25: P: G●LGM1097.

33/30: P: G●MG1482, MG6017.

日フ協●JPL1011~2●

●独DG: 2535827*

●モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」序曲

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

①独Polydor: 35013, M737BE I.

②78/30: P: Pa●45130, S4037

45/17: P: G●EXP34.

33/25: P: G●LGM1001.

33/30: P: G●LGM1070~6, LGM1105, MG1449, MG6017, MG9020, SLGM1449, SMG9020.

日フ協●JPL1044~6●

●独DG: 2535827*

▶戦後日本ポリドールから発売されたもののうち、EXP34, LGM1001, LGM1070~6.

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その②



メロディア盤あれこれ 桧山浩介

三十余年におよぶフルトヴェングラー録音史の中でも、大戦中のベルリンpoとの実況録音の数々は、量的にも質的にも最重要品にあげられるだろうが、詳細にみてみるとこれらには釈然としない部分が多い。とりわけ、ソ連のメロディア盤を初出盤とし、英ユニコーンを窓口としてわれわれに提供されたものの中には大きな混乱をのちの愛好家に与えたものが少くない。

これらの録音をめぐる問題でもっとも大きいものは収録日が明確でない点だ。一九六〇年代に入ってから初めて登場したメロディア盤には収録に関するデータの記載が無く、オルセンが彼のディスコグラフィ第一版の編さんに際し、P・ヴァツカナゲル編の「Die Pro-gramme der Konzerte mit dem Berliner Philharmonischen Orchester 1922-1954」より曲名を

84/8

たよりに推定した日付けが今日ひろく信じられるようになっていく。メロディア盤のもとになった録音は、ナチスが大戦中に開発した磁気録音方式によるもので、大戦末期にソ連軍により接収され、永らくソ連国内にあつたものとされているが、それらにはどうやら正確な録音データが無いらしく——ソ連軍の接収をまぬがれ、最近ドイツで発見された一九四一年十一月の「新世界」も、単に「ドヴォルザーク・交響曲第9／フルトヴェングラー」との記録しか付けられていなかったといわれている——ベートーヴェンの交響曲のようにたまたま演奏されていたものや、明らかに聴衆不在の録音など、演奏会リストのみで推定するには無理な録音も多い。今後、さらに調査が必要とされる点だろう。技術的な問題もいくつか指摘されている。たとえば録音の部分的な欠落、さらにピッチの不正確な点、などだ。欠落についてはレコード化に際して修復されているケースが多いが、これらがさらに問題を生み出しているものがあるし、ピッチの修正についても、欠落の修復よりも簡単な技術上の問題なのに未だに放置されている例が多い。とくにピッチの問題は演奏全体のイメージにも大きな影響を与えるものであり、早急に手がけてほしいものだ。



ウィーン・フィルとリハーサル中のフルトヴェングラー

を使いつながら違う録音のレコードの存在するケースがあることだ。今までに、フランク／交響曲二短調、ベートーヴェン／交響曲第4番、の二例が確認されているが、これ以外にも「合唱」、「英雄」も同一レーベルで二種類のレコードが存在している可能性があり、何故このような事が行われているのかメロディアの真意がはかりかねる。

エリーザベト夫人の回想録によればこれらの録音はステレオ録音だったとみられ、現にカラヤンのように、この時代のステレオ録音がレコードになっている例もあるが、フルトヴェングラーについてもオリジナルの録音の調査もぜひ行われるよう望みたいが、さし当ってはどの様な録音がまだレコード化されずに眠っているのか、ぜひとも知りたいところだ。レコード化の初期にソ連からエリーザベト夫人にもたらされた情報では、メロディアの手には約70点のフルトヴェングラー録音がある、と伝えられているが詳細についてはまったく分らない。夫人はかつてグラスノフの交響曲の録音なども在るはず、とのべておられるが、先の演奏会リストと既出のメロディア盤とを照合してみると、登場しても不思議でない重要な曲がいくつかある。一日も早く陽の目を見るようにしたいものだ。

1936年

●ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」第1幕(断片)

ウィーン国立Op. Or., フェルカー(T), ミュラー(S)。2月13日, 17日, ウィーン国立歌劇場での実況録音。

⑨「GAO」: EJS451⑨

▶収録部分はsc. 1のLabung bietet ichよりDes seimigen Metesまでの約3分。ただし、D・ハミルトンのようにこの録音の信憑性に疑問をさしはさむ声もある。

●ワーグナー／歌劇「ローエングリン」第3幕(抜萃)

バイロイト音楽祭Or., 同da, マノワルダ(B), フェルカー(T), ミュラー(S), クローゼ(A)。7月19日, バイロイト音楽祭での実況録音。

⑨「GAO」: EJS399⑨

⑩33/30: K: SS●K22C234※

▶バイロイト史上に残る名演の録音。第3幕への前奏曲, 「婚礼の合唱」, Das süsse Lied, Heil König Heinrich, In fernem Land, Mein lieber Schwan, の6つが収録されている。初出盤では冒頭に男声のアナウンスが入っている。この年のバイロイトの「ローエングリン」は6回上演され, フルトヴェングラーとティーチエンが3回ずつ指揮した。フルトヴェングラーは7月19日, 21日, 30日全てでシングルキャスト。ティーチエンの指揮した録音も残されている。

▶プライベート盤EJS399のレーベル。本項「ローエングリン」の録音は現在, スウェーデン放送局にオリジナルが保存されている。

●ワーグナー／歌劇「タンホイザー」第2幕(断片)

ウィーン国立Op. Or., 同da, スウェッド(Br), ビストル(T), 不詳, ウィーン国立歌劇場での実況録音。

⑨独Acanta: 4023520※

▶収録日誤記。1935年10月15日付の同曲と同じもの。ただしこのAcanta盤には第2幕ワルトブルク城の歌合戦の場のクライマックス約2分のみしか入っていない。フルトヴェングラーは1936年にもウィーンでタンホイザーを演奏しているが録音は確認されていない。

●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」第2幕(断片)

コヴェントガーデン王立Op. Or., 同da, ライダー(S), メルヒオール(T), ヤンセン(Br)他, 不詳, コヴェントガーデン王立歌劇場での実況録音。

⑨独Acanta: 4023520※

▶非フルトヴェングラー盤。正確には1936年5月14日のコヴェントガーデンでのT・ビーチャム指揮の録音。この年, フルトヴェングラーはコヴェントガーデンで「トリスタンとイゾルデ」は指揮したが「神々のたそがれ」は指揮していない。なお, このAcanta盤に収録されている部分はsc. 4のBrunnhild, die herste Frauよりsc. 4の終りまでの約20分。

●モーツァルト／セレナード第13番「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」①

ベルリンpa, 不詳(1936年~1937年), ベルリンでのスタジオ録音。

⑨独Polydor: 67156-8, M781+GE 1 (1936) 679+GS 1 (1937) 680+GS 1 (1937) 681+GS 1 (1937) 785+GS 1 (1937) (英Decca: X211-3 sd. 1→781GE 1 (1936))

ライダー(S), ホフマン(B), プロハスカ(Br)他, 7月30日, 8月17日, バイロイト音楽祭での実況録音。

⑨仏F協: SWF7802⑨

⑨米Discocorp: RR540

▶一部非フルトヴェングラー, 一部収録日誤記。この1937年バイロイトの「神々のたそがれ」抜萃と称する録音は1977年11月26日に開かれた仏フルトヴェングラー協会総会の席上, 初めてその存在が報告され, 翌年同協会の手によりレコード化されたが公表された内容と実際の録音がまったく食い違っており, 協会盤というオーソライズされたレコードが間違いであったという大きな汚点を残した。

収録されている部分は,

①Act 2 sc.3 Ha ha ha, Gross Glückよりsc.4 Gutrun und Siegfried / まで。

②Act 2 sc.4 Betrug / Betrug / よりsc.4の終りまで。

③Act 3 sc.2 Hohe / よりsc.2の終りまで。

④Act 3 sc.3 Starke Scheiteよりsc.3の終りまで。

以上の録音に対し, 筆者はフルトヴェングラーとするには大いに疑問とし(→松山: 「ステレオ芸術」昭56年10月号, p125), 続いてD・ハミルトンが詳細な批判を発表した(→D. Hamilton: 「High Fidelity」1982年4月号, p58)。それによると, ①および②は後述する1938年6月7日のフルトヴェングラー指揮のコヴェントガーデンでの実況録音。ただし, そのうちジークフリートの吟唱の部分は1950年のスカラ座での録音。③のうち最後の「ジークフリートの死」の部分はヘーガー指揮, 1944年のベルリンでの放送録音で, かつて独BASF: 22-22120でレコード化されたもの, ④の前半の「ブリュンヒルデの自己犠牲」の部分は1920年代終りのライダーの独唱によるHMVスタジオ録音, であるといわれている。なお, ライダーのHMVスタジオ録音盤についてはハミルトンはレコード番号を明らかにしていないが, おそらくコリングウッド指揮ロンドンso.の伴奏による英Grammophon: D 2025-6と思われる。米Discocorp盤は仏F協盤とまったく同じ内容である。この疑問の提起に対し仏フルトヴェングラー協会はただちにSWF7802を廃盤処分としたが, Discocorpは副社長マイセルの反論を発表した(→E. Maisel: 「High Fidelity」(1982年8月号, p6)。しかし, 「同じ録音が」すでに仏F協によりレコード化されているのに, 今まで誰も文句をつけないではないか」というのが唯一の「ホンモノ説」の論拠というのはいささかおもしろい話だ。ただ, ハミルトンの努力にもかかわらず今もって正体の不明な部分(たとえば「ブリュンヒルデの自己犠牲」に続く「エロログ」の部分など。この部分はコンセプションからみて絶対にフルトヴェングラーではない)が残っている。

●ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」②

ベルリンpa, 10月8日, 11月3日, ベルリンでのスタジオ録音。

⑨英HMV: DB3328-32, M2RA 2335-3/2336-3A/2337-3A/2338-4A/2339-3A/2340-1A/2341-3A/2342-2/2343-2A

⑨78/30: C: C●J51-5, W68-72

33/30: T: A●AB7063, AB8093, HA 5101, WF1-9, WF60008※, WF70022

日F協: JPL1057⑨

▶日コロムビア: W68。戦前のフルトヴェングラーの代表盤であったが, マトリックス番号から判断して収録は相当遅行したようにみえる。

⑨78/30: P: P●G60027-9, G108-10

33/25: P: G●LG1097

33/30: P: G●LGM1070-6, LGM1105,

MG1449, MG6017, MG9020, SLGM1449, SMG9020

日F協: JPL1044-6⑨

▶日F協: JPL1044-6の解説書によれば収録日は, 第1楽章: 1936年11月30日, 第2楽章・第3楽章: 1937年7月7日, 第4楽章: 1936年12月22日, であるという。また近衛秀磨氏によれば(→「フルトヴェングラー大全集」第1集解説書, p4, 東京, 昭36年7月)収録場所はベルリン高等音楽院講堂。

1937年

●J.シュトラウス／喜歌劇「こうもり」序曲

ベルリンpa, 不詳, ベルリンでのスタジオ録音。

⑨独Polydor: 67121, M786+GE/787+GE 1

⑨78/30: P: P●S4038, G111

33/30: P: G●MG1479

日F協: JPL1044-6⑨

▶独Polydor: 6-7121



●ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」第3幕

コヴェントガーデン王立Op. Or., ミュラー(S), フラグスタート(S), ボッセルマン(B)他, 5月26日, コヴェントガーデン王立歌劇場での実況録音。

⑨「GAO」: EJS450⑨

⑩33/30: 日F協: JPL1020-2⑨

⑨米Discocorp: RR417

独Acanta: 4023520※

▶ジョージ6世祝賀祝賀公演の録音。この時の「ワグネル」はEMIの手により全曲が録音されたといわれており, P・ビリーによれば(→P・ビリー: 「レコードのフルトヴェングラー」(横山一雄訳, p144, 音楽之友社, 昭58年), この「ワルキューレ」第3幕全曲は, 米国国会図書館に保管されている録音盤からの復刻であるという。

●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」(抜萃)

コヴェントガーデン王立Op. Or., 同da, メルヒオール(T), フラグスタート(S), ヤンセン(Br), ウェーバー(B)他, 6月1日, コヴェントガーデン王立歌劇場での実況録音。

⑨「GAO」: EJS431⑨

⑩33/30: 日F協: JPL1020-2⑨

⑨米Discocorp: RR429

独Acanta: 4023520※

▶5月26日の「ワルキューレ」第3幕と同様, 祝賀祝賀公演の録音。収録部分は,

①プロローグ Zu neuen Tatenより終りまで。

②Act 1 sc.3 Altgewohntes GeräuschよりAct 1の終りまで。

③Act 2 sc.4 Heil dir, GuntherよりAct 2の終りまで。

④Act 3 sc.3 Her den RingよりAct 3の終りまで。

全体で約1時間30分。ただし, 独Acanta: 4-023520は上述のうち④のみ(約23分)。

●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」(抜萃)

バイロイト音楽祭Or., 同da, ローレンツ(T),



●チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」①

ベルリンpo, 10月～11月。ベルリンでのスタジオ録音。

①美HMV: DB4609～14, M2RA 3345-1/3346-2/3347-2/3348-3/3349-3/3350-2/3351-2/3352-3。

②78/30: C: CJS31-6, W156-61。

33/30: T: A: AB7087, AB8040, AB9125-8, AB9415, GR80, HA1120, HA5071, WF19-23, WF60040※, WF70035, XLP5015-8。

▶スタジオ録音にしてはめずらしいミスがそのままレコードにされている例。第4楽章158小節2拍目の第1チェロの弾くAの音を誰かが半音高く弾いている。この部分はマトリックス番号からみても相当回数録音をくり返しているのにどうしてこんなミスを通してしまったのだろう。

▶英HMV: DB 8600。



1939年

●フルトヴェングラー／ピアノとオーケストラの協奏曲より第2楽章

ベルリンpo, E・フィッシャー(pf), 8月～9月。ベルリンでのスタジオ録音。

①独Electrola: DB4696～7, M2RA 3904-2/3905-2/3906-3。

②33/30: T: A: WF28-32, WF60013※, WF70046

日フ協: JPI101-2②

▶フルトヴェングラーの作品のレコード化としては第1号。この曲の初演はベルリンpoの定期演奏会で行われたとする資料が多いが、正しくはベルリンpoの楽旅の途次、ミュンヘンにおいて1937年10月26日にフィッシャーのソロで行われた。この独Electrolaの為の録音日については「オルセン」2版では上述のように8月～9月とし、日フ協: SWF7101②もそのようにしているが日フ協: JPI101-2②では単に9月としている。しかるにJ・ハントは(→J・Hunt: 「The Furtwängler Sound」p16, 1982, London) 1月収録としており、EMI系の復刻盤はほとんどが単に1939年としか記載していない。「オルセン」2版によれば(→同書p10)同じ録音による同年1月19日収録の全曲録音が東放放送局に存在する、とあり、同録音より作製されたと思われるプライベート盤が出たこととあるが、同放送局への編者の照会に対しては「存在せず」との回答が寄せられている。F・ヘルツフェルトによれば(→F・Herzfeld: 「Wilhelm Furtwängler」, p153, 1941, Leipzig) フルトヴェングラーはこの曲を1937年の初演から1940年までのわずか3年の間に21回とりあげているが、戦後は少なくとも公開の演奏会では1度もとりあげなかった。戦後の同曲の演奏では、とくにバレンボイムとメータのコンビによるものの録音がいくつか残されており、そのうちの1971年1月28日のロスアンジェルスpo. 定期演奏会の録音をレコード化した米Phonix: LP9001が存在する。

1940年

●ベートーヴェン／弦楽4重奏曲第13番より第5楽章「カヴァティーナ」

ベルリンpo, 10月15日, ベルリンでのスタジオ録音。

●ワーグナー／舞台神聖祝典劇「ハルジファル」より「聖金曜日の音楽」①

ベルリンpo, 3月15日, ベルリンでのスタジオ録音。

①美HMV: DB3446～7, M2RA 2744-1A/2745-1A/2746-1A(米RCA: 15220-1, 濠HMV: DB3446～7 sd.3→2746-2A)。

②78/30: C: CJS48-9。

33/30: T: A: AA7607, AA8683, WF24

～7, WF60030※, WF70042。

Te: M: ULCX3001。

▶デンマークのH・レントスはULX3001は(おそらく復刻の際のミスで)曲の順序が間違っているとのべているが(→「オルセン」2版, p9)そのような事実は無い。なお復刻盤に使用されているsd.3はすべて初出盤の2746-1A。

●ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」第2幕(断片)

コヴェントガーデン王立Op. Or., ライダー(S), カマン(B), 6月1日, コヴェントガーデン王立歌劇場での実況録音。

①「GAO」: EJS170②

▶収録部分は, sc.1 Hojtohoより des frech freunden Paarsまで。EJS170は収録日を1月6日としているが、6月1日が正しい。「UOR」: UORC234②にも同じ録音が含まれている。



▶EJS170のレーベル。POTPOURRI(雑集)と名付けた断片集(プライベート盤はこの種の断片集が多い)。

●ワーグナー／楽劇「神々のたそかれ」第2幕(断片)

コヴェントガーデン王立Op. Or., 同da, メルヒオール(T), ライダー(S)他, 6月7日, コヴェントガーデン王立歌劇場での実況録音。

①「GAO」: EJS342②

②「UOR」: UORC234②

独Acanta: HB22863-0

▶初出盤のレーベルには7月6日収録となっているが6月7日の誤り。前述のように1937年バイロイトでの同曲の録音と称するものにこのコヴェントガーデン録音が使われている。収録部分はAct 2, sc.4のHeil dir, GuntherよりAct 2の終りまで。ただし先の1937年と称するレコードには上述の収録部分より若干前から入っている(約5分ほど)、1937年盤はこの点だけは価値がある。

●ワーグナー／楽劇「ニュールンベルグのマイスタージンガー」(抜萃)

ウィーンpo, ウィーン国立Op. Or., da, ニュールンベルグOp. Or., da, ニュールンベルグ教員da, ボッケルマン(B), フックス(B), マノワルダ(B), ツィンメルマン(T), レムニッツ(S)他, 9月5日, ニュールンベルグ歌劇場での実況録音。

①「UOR」: UORC224②

②33/30: 日フ協: JPI1143-4②

③独Acanta: 4023520※

▶9月8日に開かれたナチ党大会に先立って行われたニュールンベルグ歌劇場での公演の実況録音。第1幕前奏曲をはじめ各幕の断片約1時間30分がUOR盤, 日フ協盤に収録されている。前奏曲は冒頭9小節が欠落しているが、日フ協盤は1943年のバイロイト盤と思われる録音で修復されている。独Acanta盤は、

①Act 1 sc.3 Halt Meister/より die neuen Schuh'/まで。

②Act 2 sc.3 Was duftet doch yor Glück ihm anderswo erblüh'/まで。

のあわせて約17分強が入っている。

●ワーグナー／舞台神聖祝典劇「ハルジファル」第3幕(断片)

バイロイト音楽祭Or., ローレンツ(T), ヤンセン(B), 不詳, バイロイト音楽祭での実況録音。

①米Discocorp: IG1379

▶非フルトヴェングラー盤。正体は1933年バイロイトでのR・シュトラウス指揮の録音で、ハルジファル役はIG1379の記載と同様ローレンツ。このR・シュトラウスの録音はかつて独BASF: H B22863-0にその一部分が収められたことがあり、編者はDiscocorp 盤発売直後に非フルトヴェングラーであることを指摘し(→松山: 「ステレオ芸術」昭56年10月号, p125), 続いてD・ハミルトンも同様の指摘を行った(→D・Hamilton: 「High Fidelity」1982年2月号, p58)。

1937年のバイロイトではフルトヴェングラーは5回の「ハルジファル」を指揮しているが(7月23日, 8月1日, 5日, 11日, 20日), 録音については存在するという噂はあるものの確認はされていない。フルトヴェングラーの「ハルジファル」は1951年のスラ座での公演を収録したテープが在り, エレクトロラがその発売を予告している。

1938年

●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕への前奏曲③

ベルリンpo, 2月11日, ベルリンでのスタジオ録音。

①美HMV: DB3419～20, M2RA 2657-1/2658-1/2659-2。

②78/30: C: CJS113-4, S1044-5, SW197-8。

33/30: T: A: AA7607, AA8683, WF24

～7, WF60030※, WF70042。

Te: M: ULCX3001



▶英HMV: DB 3419

●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」②

ベルリンpo, 2月11日, ベルリンでのスタジオ録音。

①美HMV: DB3420, M2RA 2659-2/2660-2。

②78/30: C: CJS114, S1045, SW198。

33/30: T: A: AA7607, AA8683, WF24

～7, WF60030※, WF70042。

Te: M: ULCX3001

●ワーグナー／舞台神聖祝典劇「ハルジファル」より第1幕前奏曲①

ベルリンpo, 3月15日, ベルリンでのスタジオ録音。

①美HMV: DB3445～6, M2RA 2741-2/2742-2/2743-2。

②78/30: C: CJS47-8。

33/30: T: A: AA7607, AA8683, WF24

～7, WF60030※, WF70042。

Te: M: ULCX3001



▶濠HMV: DB 3445。この曲に続く次項の「聖金曜日の音楽」の濠HMV: DB 3446～7の最終面は、初出盤、復刻盤とは別タイプの原盤が使用されている。

知らない(内容はEJS399)とは別演奏)。

1942年

●ベートーヴェン/歌劇「フィデリオ」 第1幕(断片)

ウィーン国立Op. Or., 同da, ホッター(Bs, B),
1月7日, ウィーン国立歌劇場での実況録音。

⑦UOR: UORC242
▶収録部分はAct 1, sc. 6のHa, welch ein Augenblick! er ist mein da (つまり第7曲全曲)の約3分。ちょうどこの録音の頃、ウィーンでフルトヴェングラーの「フィデリオ」を体験された渡辺護氏が、同曲中の「囚人の合唱」の感動的な印象を書き残しておられる(→「フルトヴェングラー大全集」第2期第2集解説書, p.1, 昭37年10月, 東芝)。



▶プライベート
盤UORC242
のレーベル。VI
VIENNA POTPOURRIと題された
ウィーン国立
歌劇場での断片
集。

●R・シュトラウス/歌曲集

ベルリンpo, アンデルス(T), 2月15~17日。
ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

⑦Melodiya: M1041233-4
⑧33/30: C: WS050701*

日フ協: JPL1151-3

▶永らく存在がうわさされながらようやく
1979年に隔の目をみた。演奏されている曲は、
①世の幸福(Op.49-1), ②愛の讃歌(Op.32-3),
③誘惑(Op.33-1), ④冬の恋(Op.48-5)の4
曲でいずれもオーケストラ伴奏。



▶メロディア
M1041233のレ
ーベル。



●R・シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」①

ベルリンpo, 2月15~17日, ベルリン, フィル
ハーモニーでの実況録音。

⑦Melodiya: M1041233-4

⑧33/30: 日フ協: JPL1151-3

⑨米Discocorp: RR476

▶前項のシュトラウスの歌曲集と同じ日の演
奏。この時は、ヤルナツハの「モノラル
の音楽による交響的変奏曲」とシューマンの
「交響曲第4番」も演奏されているが、これら
の録音についてはまったく不明。

●シューマン/ピアノ協奏曲

ベルリンpo, キーキング(pf), 3月1~3
日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

⑦Melodiya: M1036605-6

⑧33/30: C: WS0C7143, OP7529

⑨米Discocorp: IG1348

▶初出盤, Discocorp盤にカップリングされて
いるグリーグのピアノ協奏曲もフルトヴェ
ングラーではないかと書かれたこともあったが、
現在ではまったく否定されている。同年5月
31日, 6月1日のベルリン芸術週間の際にも
ホルターのピアノでシューマンの協奏曲を
とり上げているが、この録音はまだ登場して
いない。戦後は1951年4月22日にカイロでタ
リアフェロ/ベルリンpo.により一度だけとり
上げているが録音は残されていない。

ベルリン・シュターツカペレ, 不詳, ベル
リンでの録音。

⑦独Acanta: 4023520*

▶先の2つと違って、残されている他のフル
トヴェングラーのこの曲の演奏と比べてコン
セプションがいちじるしく異なっていること、
さらに実況録音と思えるステージノイズが所
々に入っているのに、対応する演奏記録がない
(フルトヴェングラーは1940年代に「ジーク
フリート」はチューリッヒで1度だけ1944
年一上演) ことなどからフルトヴェングラー
である可能性は極めて少ない。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」 第1幕(断片)

ベルリン・シュターツカペレ, 不詳, ベル
リンでの録音。

⑦独Acanta: 4023520*

▶「ジークフリートのラインへの旅」を中心
としたプロローグから第1幕への部分の録音
であるが、前項の「ジークフリート」とま
ったく同じ理由によってフルトヴェングラーで
ある可能性は少ない。

●ベートーヴェン/交響曲第8番

スウェーデン国立Or., 不詳。

⑦米Olympic: 8120-7

⑧33/30: Ph: Ph0507501-7

▶収録日誤記。正しくは1948年11月13日の演
奏である。

1941年

●ドヴォルザーク/交響曲第9番「新世界 より」

ベルリンpo, 11月30日, ベルリン, フィル
ハーモニーでの実況録音。

⑦Relief: 813

⑧33/30: Ph: Re081813

▶ここ数年、この録音の出現ほど世界中のフル
トヴェングラー愛好家に大きなショックを
与えたものはない。オリジナルのワイヤー録
音はH・ハフナーがドイツで発見したとしか
伝えられていないが、当時のベルリンpo.のホル
ン奏者M・ジラーの証言が決め手となって
愛好家の前に登場した。しかし真疑のほどに
ついては現在でも論争されており、最近もR・
スミソンが非フルトヴェングラーとの見解
を明らかにしている(→R. Smithson: 英フ
協会報, 1984年1号p1), エリーザベト夫人
の回想録の仏語版につけられているH・J・テ
スタス編のディスコグラフィでもこの「新世
界」はauthenticité incertainの扱いとなってい
る。なお、オリジナルのワイヤーは相当な修
復が必要だったらしく、作業はフランス・パ
テ社の技術者によって行われたむねスイス・
フ協会報が報じている(→スフ協会報, p5,
1982年1月号)。

戦後、フルトヴェングラーはこの曲をとり
上げないが、1948年アルゼンチンのコロ
ン劇場Or.に客演した際に、予定曲目として「新
世界」が予告されたが結局演奏はされなかつ
た。

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾ ルデ」第2幕(断片)

ウィーン国立Op. Or., クローゼ(A), 12月25日,
ウィーン国立歌劇場での実況録音。

⑦GAO: EJS399

▶一般に「ブランゲネの警告」とよばれて
いる部分。ところがこの録音は後述する1943
年1月2日の「トリスタンとイゾルデ」(抜萃)
の該当部分とまったく同一。後者はフルト
ヴェングラーが指揮と演出の両方を行った際の
録音で収録日についての記録は確実だと思わ
れている。したがってこのEJS399の収録日
付は誤りとみていい。ただし、同じ「ブラン
ゲネの警告」で1942年収録といわれるもの
が、これも後述するようにもう一点あり、あ
るいはこちらの方が12月25日収録のものかも

オ録音。

⑦独Telefunken: SK3104, M025239/025238

⑧33/30: 日フ協: JPL1101-2

⑨加Rococo: 2013

▶フルトヴェングラーはベートーヴェンの弦
楽4重奏曲の編曲であるこの曲を「大フーガ」
とともに好んでとりあげた。戦後も、たとえ
ば1952年のベルリンpo.との旅でハーノーヴ
アー, シュトゥットガルトなどで演奏してい
る。



▶独Telefunken:
SK3104。このオ
リジナルSP盤
は第2次大戦の
戦火のため、ほ
とんど残ってい
ない。

●バッハ/ブランデンブルク協奏曲第5 番①

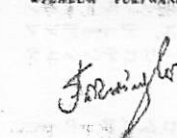
ウィーンpo, シュナイダーハン(vn), ニーダ
ーマイアー(fl), フルトヴェングラー(pf),
12月21, 22日。ムジークフェラインザールで
の実況録音。

⑦仏フ協: SWF8401-2

▶1940年代のウィーンpo.の実況録音はベル
リンpo.のそれに比べて残っているものが極めて
少ない。これはその中の貴重な1つ。プライ
ベートテープとしてはかつて流布したことは
あったが、オーソライズされたレコードとし
てはこの仏フ協盤が唯一のもの。ただし音は
劣悪なうえ、第2楽章の終わりの方で数小節
欠落がある。

▶仏フ協: SWF
8401-2のジ
ャケット。

⑦SOCIETE
WILHELM FURTWÄNGLER



●ワーグナー/歌劇「タンホイザー」序曲

①
ベルリン国立Op. Or., 不詳, ベルリンでの録
音。

⑦独Acanta: 4023520*

▶コンセプションからみておそらくフルト
ヴェングラーに間違いのないと思われる録音。た
だしオーケストラは表示の通りかどうかは疑
しい。「オルセン」2版(→同書, pIV)など
によると、フルトヴェングラーは1940年代は
じめにベルリン国立Op. Or.(またはベルリン・
シュターツカペレ)といくつかの録音を残し
ているらしい、としているが一方ではベル
リンpo.以外のオーケストラは指揮しなかつた
という証言もあり判然とはしない。この録音を
はじめとして、Acanta盤により始めて隔の目
をみた次項以下の計4つの録音の信憑性につ
いては警戒する声が多い(たとえば, J. Hunt
: 英フ協会報, p2, 1983年5号)。

●ワーグナー/舞台神聖祝典劇「バルジ ファル」より第1幕前奏曲②

ベルリン・シュターツカペレ, 不詳, ベル
リンでの録音。

⑦独Acanta: 4023520*

▶前項の「タンホイザー」序曲とともにコン
セプションからみてフルトヴェングラーの演
奏と思われる。

●ワーグナー/楽劇「ジークフリート」 第2幕(断片)

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その③



フルトヴェングラーをまよがすま 松山浩介

フルトヴェングラー録音史の中からハードウェアに関する部分をいくつか取り上げてみよう。

録音の歴史はディスクに記録する方式と磁気録音による二つの流れがあり、一九四〇年代終りにこれらが本格的に合流するまでは、それぞれ独自のシステムとして発達して来ている。フルトヴェングラーの戦前戦中のスタジオ録音（ポリドール、テレフンケン、E

MIの三系統）はもちろんすべて七八回転盤へのディスク録音方式であり、実況録音も現存する最初期のものはこのシステムに依っている。たとえば連載第一回目の一九三一年バイロイトの「トリスタンとイゾルデ」はワックス盤にカットイングされたものだ。一方、一九三〇年代に入つてようやく実用化のきざしが見えた磁気録音方式による録音も、実況録音の分野

で序々に試み始められている。初期のこのシステムで実用機として用いられたものは英マルコニー無線製の「ブラットナーフォーン」で鋼帯（スチールバンド）に録音する方式だった。昭和初期に日本にも輸入されているが総重量1トン、テープスピードは3m/秒と1.5m/秒の切換え、五〇センチのリールがうなりをたててまわったという。最大録音時間は約三〇分といわれているが、周波数特性は4KHzどまりであつたらしい。このシステムでのフルトヴェングラーの録音は、一九三六年バイロイトの「ローエングリン」が、スチールバンドからディスクに移された形で現在ストックホルムに残されている。没後三十年を記念して東芝がこの秋に発売を予定している一九三七年五月一日のベルリンPO.とのベートーヴェンの「第九」もあるいはこの方式によるものかも知れない。

磁気録音方式の性能が飛躍的な発展をとげるのは一九三〇年代中頃の紙テープをベースとした磁気テープと交流バイアス方式の発明によるが、一九四〇年代に入つてナチス・ドイツの手によりプラスチック・ベースの磁気テープが開発され、ほぼ現在のものに近い性能のものが現れる。このドイツ製の録音機は「マグネトフォン」とよばれ、テープ・スピードは三十分の録音が可能であつた。

フルトヴェングラーの大戦中の実況録音は大部分がこの「マグネトフォン」方式によつたとみられ、その周波数特性の良さは、ナチスがこの方式による演奏会録音を電波にのせて流したとき、それを聴いたヨーロッパ中がわが耳を疑った、といわれるほどのものだった。なお、一種のプライベートル録音に属するが、このナチスの放送をポーターブルのディスク型録音機を用いてエアチェックした録音が現在ウィーン、ベルリン等の個人コレクションに残っており、フルトヴェングラーではブルックナーの「第四」「第五」「第七」、ブラームスの「第二」などが確認されている。

戦後のスタジオ録音はドイツ・グラモフォン、デッカ、EMIの三社に行つてゐるが、ドイツ・グラモフォンの録音は一九五一年十二月の初録音（シュペルトの「第9」）以来、すべてテープ録音が行われており、市販された七八回転盤（SP盤）もオリジナル録音はテープである。一方、デッカ録音は一九四八年三月のブラームス「第2」はディスク録音、一九五三年十二月のフランク「二短調」はテープ録音、EMI録音は一九四七年十一月の初録音（モーツァルト「セレナード第十番」）より一





フルトヴェングラー・ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作——桧山浩介



●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」第2幕(断片)

ベルリン国立Op., Or., クローゼ(A), 不詳。
①独 BASF: HB22863-0.

▶「ブランゲネの警告」の部分。J. ハントはこの録音と1941年の頁でふれた「GAO」: EJS399④を同じものとしているが(→J. Hunt: 「The Furtwängler Sound」, p31, 1982, London), 詳細に比較すると明らかに別演奏。クローゼ／フルトヴェングラーと称する「ブランゲネの警告」は昔からたびたび誤認を見せられており、オルセンも1936年と銘うった録音を挙げている(→「オルセン」1版, p88)が実体は判然とせず、編者の調査でも1942年ベルリンでのフルトヴェングラーの「トリスタンとイゾルデ」の演奏記録は見い出せなかった。先にも述べたようにこの録音が1941年12月25日ということも考えられるが。

●モーツァルト／交響曲第39番

ベルリンpo., 1942年～1943年, ベルリン。

①独 DG: LPM18725.

③33/30: P: G ●LG1098.

③33/30: P: G ●LGM1070-6, LGM1105, MG6018, SLGM1441, SMG9020.

④独 DG: 2740260※.

▶1942～3年頃の放送用録音としか目下のところ分らない。1944年2月のベルリンpo.の定期でこの曲をとり上げていたので、あるいはこの時の録音とも考えられるが確証はまったく無い。

▶LPM18725



●ブラームス／交響曲第1番

ウィーンpo., 1942年～1943年。

①日 C: DXMI63.

③33/30: C: C ●DXMI63.

▶収録日誤記。米Voxオリジナルでありながら米Vox盤は無い。昭和48年1月にDXMI63として登場して以来この録音をめぐってさまざまな見解が出されたが、後述する1947年11月のウィーンpo.のスタジオ録音盤とまったく同じ演奏である。かつては1947年のザルツブルク録音という意見もあり(→LP手帖, 昭52年3月号, p90), 最近もL. Schipperがコピーではなく独自のものと述べているが(→L. Schipper: 英フ協会報, 1984年2号, p2), いずれも納得し難い。1947年のスタジオ録音盤は複製に際してトラブルがあり、あるいはこれにからんで何らかのコピーが作られ、この項のソースに使用されたのかも知れない。1947年スタジオ録音盤の項もご参照いただきたい。

▶DXMI63



1943年

●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」(抜萃)

1942年(続)

●グルック／歌劇「アルチェステ」序曲①

ベルリンpo., 10月29日, ベルリンでのスタジオ録音。

①独 Telefunken: SK3266, M026753/026754

③33/30: 日フ協 ●JP1101-2②

▶「オルセン」ではマトリックス番号を029753/029754, としているが編者の手許にあるレコードは026753/026754であり、その他の当時の収録盤のマトリックス番号からみても「オルセン」の記載は誤りであろう。



▶瑞 Telefunken: SK3266のレーベル。フルトヴェングラーにはめずらしいスウェーデン盤。

●ブラームス／ピアノ協奏曲第2番

ベルリンpo., フィッシャー(pf), 11月8日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①ソ Melodiya: D09883-4.

③33/30: C: C ●DXMI08.

T: A ●WF60053※, WF70011.

●R・シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」②

ストックホルム・コンサート協会Or., 11月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

①日 C: OZ7512

③33/30: C: WS ●OZ7512.

▶WSのレーベにもかわらず、米Discocorp盤の中には見当たらないという奇妙なレコード。

▶OZ7512



●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕前奏曲④

ストックホルムコンサート協会Or., 11月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

①米 Discocorp: RR505

③33/30: C: WS ●027558

▶RR505



●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」③

ストックホルム・コンサート協会Or., 11月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

①米 Discocorp: RR505.

③33/30: C: WS ●027558.

④独 ACANTA: 4023520※

九五一年二月まで(ペーラー・ヴェンの「皇帝」)はすべてディスク録音、一九五二年六月の「トリスタンとイゾルデ」全曲より始めてテープ録音が採用されている。
戦後の実況録音は一九四七年五月のベルリンpo.との戦後第一回演奏会から、二、三の例外を除いてすべてテープに収録されているが、そのうちのいくつかはいったんテープに収録されたものをディ

スクに移しかえ、テープは消去されてしまっているものがある。おそらく、磁気テープの保存期間に不安があったためにとられた措置と思われるが、当然のこととして音質は劣化している。一九五三年のローマ・リングはリハーサル、本番ともすべてテープに収録されたが、これからのテープは放送用テープがメタル原盤に復刻された後、

全部消去されており、現在EMI系のレーベルで発売されているローマ・リングのレコードはオリジナル・テープからではなく、メタル原盤より再度とられたテープより作製されている。
フルトヴェングラーの録音は後に疑似ステレオ化されたものはあるものの特殊なケース(一九四四年バイロイトの「マイスタージンガー」はステレオで録音されたという

オルフ・ガング・ワーグナーが証言している)を除いてはオリジナル録音はすべてモノラルと信じられて来たが、近年、一九五〇年のスカラ・リングが「ステレオでは？」と話題になって以来、フルトヴェングラーのステレオ録音がにわかにはクロースアップされて来ている。仏フ協の調査結果などからみれば、ザルツブルクの後期の録音などは明らかにステレオ録音がされており

り、市販レコード中にもオッシロスコープで出力のリサージュ図形を描かすことによつてステレオと推測されるものがあることが報告されているが、さらに最近の伊チエトラFEシリーズのあるものは明らかにL-R差信号が認められ(東北工大末広博士による)、ステレオ録音テープよりのステレオ・カッティングが含まれていることは間違いない。

録音である。前項のメロディア系の第3楽章は本項のVox系と同じものが使用されている。つまりメロディアとVoxのテープは同じもので、DGの方はそれからのコピーテープと思われる。ダビングの過程でのトラブルを修復の上レコード化したものと考えられる。

本項の収録日については、前項、本項の第1楽章241〜245小節、249〜253小節にともにスコアに無いティンパニーのトレモロが付け加えられていることから、前項の収録日とほぼ同じ頃の演奏と思われるが、前項の実況録音収録日より後で連合軍の爆撃でフィルハーモニーが破壊される1944年1月29日までの間とみるのが有力だ(たとえばR. Smithson: 英フ協会報, 1982年2号, p.6)。

●ベートーヴェン/序曲「コリオラン」①

ベルリンpo, 6月27〜30日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

⑦ソ Melodiya: D09868。

⑧33/30: C: C ●DXM103。

T: A ●WF60044※, WF70003。

Ph: F ●FCM53。

Ph: Ph ●PC4。

▶メロディア盤は最後の3つのピチカートが欠落しており、他の盤はいずれも修復されているが修復の仕方にいささか疑問がある。詳細に聴くと明らかに最後の3つのピチカートの間にそれぞれテープの継ぎ目が認められ、常識的には終りから4つ目(310小節)のピチカートの部分を3度くり返して使われたと考えられる。ところが310小節はヴァイオリン、チェロのピチカートにバスのアルコとファゴットが入り、最後の3つは弦だけのピチカートであるため310小節を使用しての修復はむずかしい。現に修復された盤を聴くと最後の3つは弦だけのピチカートに聴える。そうするとこの修復した部分はいったいどこから来たのだろう。それにこの曲は前項の「第4」、次項の「運命」と同じ日の収録とされているのに「コリオラン」だけ極端に歪みが多いのも気になる。

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」③

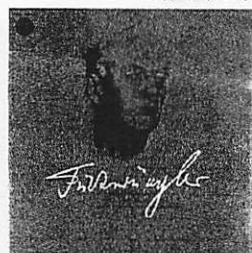
ベルリンpo, 6月27〜30日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

⑦ソ Melodiya: D05800〜1。

⑧33/30: C: C ●DXM102, DXM157, OC 7133, OP7520。

T: A ●WF60045〜6※, WF70004〜5。

▶これと同じ演奏のテープが、ウィーン、フランクフルト、ストックホルムにあり、このいずれかを使用して音質の点でメロディア盤より勝れたものを作ろうとする動きがある。



▶DXM102

●ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」

バイロイト音楽祭Or., 同da, プロハスカ(B), グラインドル(B), フックス(B), ツィンメルマン(T)他, 7月, バイロイト音楽祭での実況録音。

⑦"UOR": UORC266※

⑧33/30: T: A ●WF68〜72。

▶バイロイトでのフルトヴェングラーの全貌を伺い知ることの出来る貴重な録音。ただしAct 1, sc. 1のVerweilt / Ein Wort / からsc. 2のwisst ihr das nicht? までと、Act 3, sc. 4のEin Kind ward von Schlessen Laden gut / までの間が欠落している。後者の部分についてはかつて仏フ協が会員への限定頒布のアンケートを行ったことがあり(→仏フ協会報,

▶第2楽章の330小節から347小節までが演奏の際にカットされている。フルトヴェングラーのシュベールの「第9」は現在までに4種類のレコードが出ているがこのようなカットの例はこの項の録音のみ。

●J・シュトラウス/皇帝円舞曲(断片)

ウィーンpo, 5月12日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑦仏フ協: SWF8403〜4※

▶冒頭から38小節までしか残っていない。フルトヴェングラーの「皇帝円舞曲」は1950年1月のウィーンpo.によるスタジオ録音盤があるが、最近1952年のベルリンpo.による断片が発掘された(未レコード化)。

●ベートーヴェン/交響曲第4番①

ベルリンpo, 6月27〜30日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音(ただし第1, 第2楽章のみ)

⑦ソ Melodiya: D09083〜4。

⑧33/30: C: C ●DXM103

T: A ●WF60044※, WF70003。

Ph: Ph ●SETC7501〜7。

▶次項を参照いただきたい。



▶DXM103

●ベートーヴェン/交響曲第4番②

ベルリンpo, (6月27〜30日), ベルリン。

⑦米Vox: PL7210。

⑧33/30: P: G ●LGM1070〜6, LGM1109, MG6013, SLGM1444, SMG9020。

C: C ●DXM132。

C: WS ●OC7135。

Ph: F ●FCM51。

Ph: Ph ●PC2。

⑦独DG: 2535813※

▶前項の同曲とともにまさにパズル解きのようなレコード。さらにいくつかの資料に誤りがあり、問題を一層複雑にしている。

まず本項の録音は第1楽章から第4楽章まで一貫した演奏の録音で、収録日についてはオルセンは上述の様に推定しているがいくつかの異論がある。聴衆ノイズはまったく入っていない。前項の録音は第1, 第2楽章のみ6月27〜30日収録と思われる実況録音、ただし第3, 第4楽章は本項とまったく同じもの。資料の誤りの代表的なものを指摘すると、仏フ協: SWF7103※を「オルセン」2版では前項の録音としているが(→同書, p13)実際には本項の録音が使用されている。また、P. ビーは「レコードのフルトヴェングラー」の中で「オルセン」からの引用として本項の初出盤を6月30日収録としているがこれは明らかにピリーの誤解である(→同書, p55)。

ところで、ごく最近になって前項の初出盤ソ Melodiya: D09083〜4の最初期盤が本項の録音とまったく同じであることが判明した。仏フ協: SWF7103R※はこのメロディア最初期盤からの復刻であり、どのレコードよりも音が良好である。

さらに第3楽章に次のような問題がある。本項の録音ソースは米Voxの系統(国内盤ではPh.それに確認は出来ていないがおそらくCもこの系統)と独DGの2種類に分れるが独DGの方は第3楽章スケルツォの主題(1〜20小節)がくり返される部分で、くり返された2度目の演奏がそのままそっくり1度目の演奏として使われている。おそらく独DGの入手したマスターテープに何らかの欠かがあったものと想像される。一方米Voxの方にはこの修復がなく主題の1度目とくり返しの演奏は明らかに違っていてこちらの方が正常な

ウィーン国立Op. Or., 同da, ローレンツ(T), コネツニ(S), クローゼ(A), シェプラー(B)他, 1月2日, ウィーン国立劇場での実況録音。

⑦"UOR": UORC267※

▶第2幕, 第3幕からの抜粋で収録時間は約55分。この公演はフルトヴェングラーが指揮と演出の二役を演じている。先に述べたように1941年12月25日の「ブランゲネの警告」とこの項のその部分とはまったく同じもの。



▶UORC267

●シベリウス/ヴァイオリン協奏曲

ベルリンpo, クレーンカンプ(vn), 2月7, 8日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

⑦英Unicorn: UN1107。

⑧33/30: C: C ●DXM112。

T: A ●WF60058※, WF70015。

▶大戦中の録音の中で英Unicornによって始めての録音をみた数少ないものの一つ。このケースの録音はこの外にベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番(ハンセン), ブルックナー/交響曲第8番(ウィーンpo.)の二つがある。



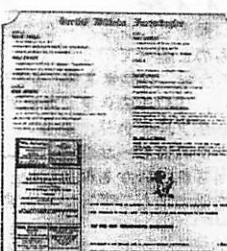
▶UN1107

●シュベールト/交響曲第8番「未完成」第1楽章

ウィーンpo, 5月12日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑦仏フ協: SWF8403〜4※

▶収録されているのは第1楽章8小節よりこの楽章の終りまでのみ。



▶仏フ協より発行された最新のレコードで、筆者の手元に届いたのが6月中旬なので、たぶん5月発行であろう。「ストックホルムのフルトヴェングラー(1)」と題したこの2枚組にはジャケットの裏に印刷されているように本項、次項、次々項、他2曲が収められており、(1)とある以上続編が出される可能性が強く楽しみである。

●シュベールト/交響曲第9番「グレイト」②

ウィーンpo, 5月12日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑦米Discocorp: RR405。

⑧33/30: C: C ●WS ●OZ7518。

日フ協 ●JPI190※

●ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲

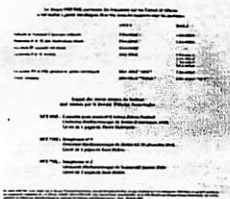
ウィーンpa, 12月18～23日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①初版F協: SWF7602

▶前項の同曲収録の際に録音された原盤で、前項では使用されていない残りの原盤をレコード化した極めて貴重な複製盤。まさにフルトヴェングラー協会の面目躍如たるもの。収められている原盤のマトリックス番号は、

- ①第1セッション(主題と第1変奏):
2RA6028-1
- ②第2セッション(第2, 第3変奏):
2RA6029-1
- ③第4セッション(第5, 第6変奏):
2RA6031-1, 6031-2,
6031-3, 6031-4
- ④第5セッション(第7, 第8変奏):
2RA6032-2
- ⑤第6セッション(フィナーレ):
2RA6033-1 "GUT"。

▶前項ボックス・セットの中の解説書の一頁で、上記マトリックス番号の詳細と内容曲目の一部が読みとれる。



●ベートーヴェン／交響曲第6番「田園」

①ウィーンpa, 12月22, 23日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①初版Vox: TV4408.

②33/30: C: C ●DXM131.
C: WS ●OC7135.
WP: Vox ●H5060 *

▶先のハイドン変奏曲と同様、SP盤としては陽の目をみなかった。使用原盤のマトリックス番号は、2RA 6038-2/6039-3/6040-2/6041-2/6042-2/6043-2/6045-2/6046-2/6047-2/6048-2/6049-2。

L. シッパーが1968年にウィーンのR. Teutcherから聞いた、として伝えるところによると(→L. Schipper: 英邦協会報, 1984年2号, p2), これらの原盤のレーベルにはフルトヴェングラー自身により覚書が記入されていた、という。

1944年

●ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲

①ベルリンpa, レーン(vn), 1月9～12日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版Melodiya: M1040929-30.

②33/30: T: A ●WF60049 *

日フ協 ●JPL1055-6

▶独奏者のE. レーンは戦後、ハンブルクの北西ドイツ放送のコンサートマスターをつとめ、イッセルシュテットと幾多の名盤を残したが、1951年10月27日のフルトヴェングラー客演指揮の際にはブラームスの「第1」第2楽章のヴァイオリン・ソロを演奏している。この折の「第1」は巨匠の数あるこの曲の録音の中でも最高の演奏で、日、仏両方協によりレコード化されている。

●R・シュトラウス／家庭交響曲

ベルリンpa, 1月9～12日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版Melodiya: M1040961-2.

②33/30: T: A ●WF60056 *

日フ協 ●JPL1055-6

●ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲

③

●ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」

②

ストックホルムコンサート協会Or., 同da, シー・ムベリー(S), トゥーネル(A), ベッケリン(T), ヒョーリング(B), 12月8日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

①初版F協: JPI1119-20

②33/30: Ph: Ph ●SETC7501-7, PL20.

日フ協 ●JPI1119-20

③米Discocorp: RR205 *

▶第4楽章に限ってみるならば初出盤は「B JR»: BJR118である。



▶1968年, 当時ニューヨークでマリア・カラスのプライベート盤を専門に製作していたBJRが、偶々1953年録音のフルトヴェングラーのベートーヴェン第8交響曲の放送録音テープを入

手し、当時フルトヴェングラーの「第8」は画期的発見だったので急遽カラスを中断して製作することになり、その埋め草にすでに所有していた本項「第九」の全曲テープの中から第4楽章のみをピックアップしてB面に組み入れたもので、むしろ二次的意味合いしかもってなかったが、結果的には一部とはいえ世界初出となった。(なおこのBJR118にカップリングされたベートーヴェンの「第8」は、後に非フルトヴェングラーと判明する。)

●ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲①

ベルリンpa, 12月12～15日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版Melodiya: D010854.

②33/30: C: C ●DXM104, OL5001, OS7076.

T: A ●WF60052 *, WF70010.

●ブラームス／交響曲第4番①

ベルリンpa, 12月12～15日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版Melodiya: D09867-8.

②33/30: C: C ●DXM107.

C: WS ●OB7289-92, OW7823.

T: A ●WF60052 *, WF70010.

Ph: F ●FCM54.

Ph: Ph ●PC5.

●ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲②

ウィーンpa, 12月18～23日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①初版F協: SWF7602

②米Discocorp: RR456.

▶独Electrolaのために録音されたが、結局SP盤としては発売されなかった。複製盤に使用されている原盤のマトリックス番号は、2RA 6028-2/6029-2/6030-2/6031-5/6032-1/6033-2で「オルセン」2版(→同書, pl6)に記されているものとは若干異なる。なお、次項を参照されたい。



▶仏F協ではこれまでに発行したレコードの中からブラームスの作品だけをまとめて「Archives Brahms」と銘打ってボックス・セットにしたもので、第1, 2, 4交響曲、本項と次項のハイドン変奏曲、ピアノ協奏曲第2番が納められている。

1977年11月号), おそらく発見されていると思われる。

1943年のパイロイトでの「マイスタージンガー」はフルトヴェングラーとH.アーベントロートにより12回上演されているが、フルトヴェングラーの指揮したのはこのうちの7月15, 18, 21, 24日の4回のみで、したがって本項の録音もこのうちのいずれかのはずである。多くの資料は収録を7月～8月としているが8月ということはある得ない。



▶独Electrola C181-01 797-801

●ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第4番

①ベルリンpa, ハンセン(pf), 10月31日～11月3日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版Unicorn: UN1106.

②33/30: C: C ●DXM104.

P: G ●MG6011.

T: A ●WF60048 *, WF70007.

▶曲の冒頭、ピアノソロで主題が奏せられたあと、オーケストラが入る直前に大きなせきばらいが一発入るが、ユニコーン系のレコードではこの音を除くためのテープ編集がまずく、一瞬ドキッとさせられる。独DG系はまったく手を入れていない。

▶UNI 106

Furtwängler Beethoven

Conrad Hansen (Piano)

●ベートーヴェン／交響曲第7番①

ベルリンpa, 10月31～11月3日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版Melodiya: D027779-80.

②33/30: C: C ●DXM151.

Ph: Ph ●SETC7501-7, PC3.

Ph: F ●FCM52.

T: A ●WF60047 *, WF70006.

▶メロディア盤はフィナーレ冒頭の2小節が欠落しているが、その他のレコードはすべて修復されている(おそらく再現部の同じ部分が使用されたものだろう)。

●R・シュトラウス／交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

②

ベルリンpa, 11月13～16日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。

①初版DG: EPL30589.

②33/30: P: G ●LGM1070-6, MG6015, SLGM1445, SMG9020.

③独DG: 2721202 *

▶EPL30589 (45回転)



の項でふれたテスタス編のディスコグラフィでもこの「ロンドン」は authenticité douteuse とされており、「新世界」以上に疑問とされている。

1945年

●フランク／交響曲二短調①

ウィーンpo, 1月28日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの実況録音。

①米Vox: PL7230。

③33/30: C: C ●DXMI13。

T: A ●WF60057※, WF70014。

日フ協 ●JPI128-9※

⑥米Discocorp: RR403

▶コロムビア、東芝の計3種類の国内盤はいずれも収録日誤記で内容は後述の1953年のスタジオ録音盤。日フ協盤、Discocorp盤は間違いなく1945年の録音（これ以外にもう一つ、仏フ協: SWF7302※があり、これも正しい）。このような誤記の原因は国内両社盤のソースとなっているメロディア盤(D021093-4)に1945年録音と記載されたレーベルでありながら1945年録音と1953年録音の2種類があり、後者の方を1945年録音と誤認したままレコード化したことによる。今のところ1945年録音のレコードとしては米Discocorp盤を探すのがもっとも容易な方法。

フルトヴェングラーはこの1月28日に次項のブラームスの「第2」との演奏を終えたのち、翌29日の早朝に宿舎のホテル・インベリアルを脱出、スイスへの亡命の途についた。

なお、初出盤は第2楽章冒頭の2小節が欠落しているが日フ協盤などには欠落はない。

●ブラームス／交響曲第2番①

ウィーンpo, 1月28日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの実況録音。

①仏フ協: SWF7301※

③33/30: C: WS ●OB7289-92, OW7821※

T: A ●WF60051※, WF70009。

日フ協 ●JPI128-9※

▶この録音は1959年に独エレクトローラがフルトヴェングラーの初のブラームス交響曲全集を企画した際に発売が予定され、レコード番号まで予告された（独Electrola: E90993、及びWALP546）が、英デッカとの契約上の問題が解決しなかったため幻に終わった。

また国内盤でも同様に、東芝の第1回目のブラームス交響曲全集もこの「第2」が未発売に終り、予定されていたレコード番号、A・H A1138も欠番のままである。



▲ブラームス交響曲全集の発売予告広告。1959年6月号の音楽雑誌に載せられたもので6月より第1、4、3、2番の順に毎月1枚ずつ発売するとあり、番号も連番ですでに附されていた。

8月号の訂正

- 268頁、左段、上から6行目の次に「日フ協JPL1151-2※」を追加。
- 268頁、左段、上から18行目の次に「日フ協JPL1151-2※」を追加。

ルト第7(9)、シューマン第4の交響曲、それにベートーヴェンV協である。

●ブルックナー／交響曲第8番①

ウィーンpo, 10月17日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英Unicorn: UN1109-10。

③33/30: C: C ●DXMI10-1。

P: G ●MG8868-72。

T: A ●WF60054-5※, WF7001

2-3。

▶使用版は原典版(ハース版)。フルトヴェングラーの「第8」は録音毎に細部が異っており、この1944年盤がもっともハース版のものに近い。たとえばフィナーレ499小節のシンバルが使用されていないのはこの項の録音のみ。



▶UNI 109

●ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」①

ウィーンpo, 12月16-18日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①米Urania: URLP7095。

③33/30: C: C ●DXMI01。

T: A ●WF60043※, WF70002。

Ph: F ●FCM50, PL1012, PL111

5。

Ph: Ph ●PCI。

▶フルトヴェングラー録音史上もっとも有名な「ウラニアのエロイカ」。白熱の盛り上りをみせる迫力は筆舌に尽しがたい。初出盤はフルトヴェングラーの存命中に登場したが、無許可のレコード化であったため発売差し止めの訴訟を起し、ほどなく姿を消してしまっただけでなく、1960年代終りに再登場するまではコレクターズ・アイテムとしてあらゆるレコードの中で横綱格だった。収録日についてはオルセンは上述の日としているが、R. スミッソンのによればこれらの日はウィーンpo.の定期演奏の日にあたり、録音にまったく聴衆ノイズが認められないところから別の日の収録と推定している（→R. Smithson: 英フ協会報、1984年1号、p3）。またニューヨーク・タイムスの1953年12月20日付に差し止め訴訟の記事が出ており、それによると収録日は12月20日となっている。なお、メロディア盤、タウナバウト盤、それにプライベート盤のFAY3001(これはおそらく日本製)は表示がいずれも誤ってベルリンpo.とされている。

●ハイドン／交響曲第104番「ロンドン」

ベルリンpo, (1944年)

①ソMelodiya: M1037145-6。

③33/30: C: WS ●OZ7550。

⑥米Discocorp: RR441。

▶フルトヴェングラーである可能性はまず無い。巨匠の指揮した「ロンドン」は1950年4月のコロムビアOr.との録音が残っており、この方はJ.M.カストロの「序曲」のようなこの時にしか演奏されていないめずらしい曲も同時に録音されているため、間違いなくフルトヴェングラーの「ロンドン」とみられている(未レコード化)。この2つの「ロンドン」を比較すると、コロムビアOr.の方は第2楽章9小節-37小節のくり返し省略されており、第3楽章(メヌエット)のコンセプションも両者ではまったく違っている。くり返しに対するフルトヴェングラーの方針は(省略を含めて)永年にわたって一貫しており、くり返しの省略の有無が非フルトヴェングラー盤を見破る目印にさえなっている。先の「新世界」

ベルリンpo, 3月20-22日, ベルリン, 国立歌劇場での実況録音。

①ソMelodiya: M1041233-4。

③33/30: 日フ協 ●JPL1151-3※

⑥仏フ協: SWF8203-4※

●ベートーヴェン／交響曲第6番「田園」②

ベルリンpo, 3月20-22日, ベルリン, 国立歌劇場での実況録音。

①ソMelodiya: D027777-8。

③33/30: C: C ●DXMI55。

C: Ro ●OS7074, OZ7516, OZ75

86。

▶初出のメロディア盤は最初、ムラヴィンスキー／レニングラードpo.として現われたが、その後フルトヴェングラー／ベルリンpo.と訂正の紙片がはり付けられた。



▶ソMelodiya: D027777-8のジャケット。最初ムラヴィンスキー／レニングラードpo.として出た。

●ベートーヴェン／「レオノーレ」序曲第3番①

ウィーンpo, 5月2日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①仏フ協: SWF7101※

③33/30: C: WS ●OZ7512。

日フ協 ●JPI191-2※

⑥米Discocorp: RR460。

●ワーグナー／楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」

パイロイト音楽祭Or., 他(1944年)

①「EA」: EA008※

▶収録日誤記。前述の1943年7月収録と同一の演奏。1944年のパイロイトの「マイスタージンガー」は前年と同様、フルトヴェングラーとアーベントロートにより指揮されフルトヴェングラーは7月22、24日の2回タクトをとった。ヴォルフガング・ワーグナーによればこの年の「マイスタージンガー」はステレオ録音されたというが、テープの所在は不明である。なお、アーベントロートの演奏の方は録音が確認されている。

この年の8月9日、アーベントロートのタクトを最後にオールド・パイロイトは幕を閉じた。ちなみに7月20日には例のヒトラー爆殺未遂事件が起っている。

●ブルックナー／交響曲第9番

ベルリンpo, 10月7日, ベルリンでの録音。

①独DG: KL27-31。

③33/30: P: G ●LGM1133, MG8868-72, SLGM1450, SMG9020。

⑥独DG: 2740201※

▶使用版はオーレル校訂版。P. ビリーは上記演奏日をベルリンpo.の定期としているが(→P. ビリー: 「レコードのフルトヴェングラー」, p167, 音楽之友社, 昭58年)そのような事実はない。



WILHELM FURTWÄNGLER

▶1964年フルトヴェングラー没後10年目を迎えて、「フルトヴェングラー・メモリアル・アルバム」としてDGGより発売されたりまたは発売権をもつもの計7曲を6枚にまとめたもの。曲目は上記ブルックナーの他に、バッハ組曲3番、ハイドン第88、モーツァルト第39、シューベ

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その④

ふたたびベルリンの舞台へ

前回の最終項にあげたウィーン20とのブラームス（第二）を最後に、フルトヴェングラーはナチスの手から九死に一生を得てスイスに亡命する。二回のスイスでのコンサートのうち、第二次大戦の終結と祖国の崩壊をながめたフルトヴェングラーは一日も早い楽壇への復帰を期してクラランの地で悶悶の日を送る。戦後のフルトヴェングラーに対しては一九四六年二

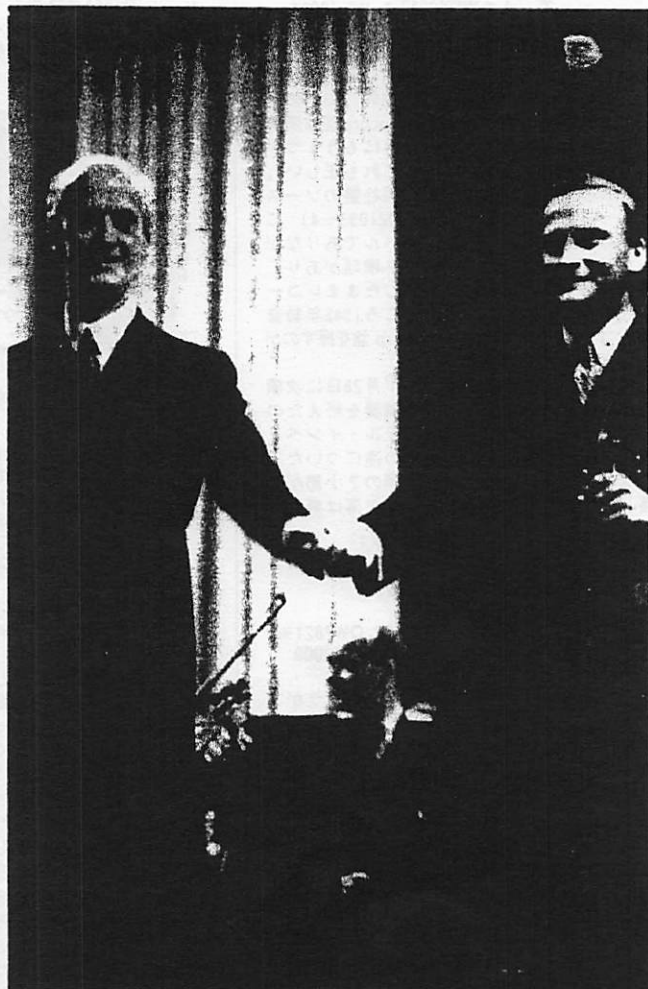
月に米情報統制局マクルアー大將により西側占領地区における一切の活動を禁じるむねの宣言が出され、以降、この宣言の解除を求める運動が始められる。一方、オーストリア政府は独自の調査に基づき、同年三月六日にフルトヴェングラー無罪の宣告を行うが連合軍の容認するところとならず、結局、当時ベルリンにあった「芸術家審査委員会」——本来の任務はナチ党

員であった芸術家の戦後の活動の可否を審査するもので、非党員の巨匠の復権審査は場違いのものである——の手にゆだねられることになる。訴願提出後も審理開始が引きのばされるが、ソ連政府からの当時同国占領地区にあったベルリン国立歌劇場のポスト提供の申し出が一つのきっかけとなり、ようやく十二月十二日に開始のはこびとなる。ところがベルリン・シ

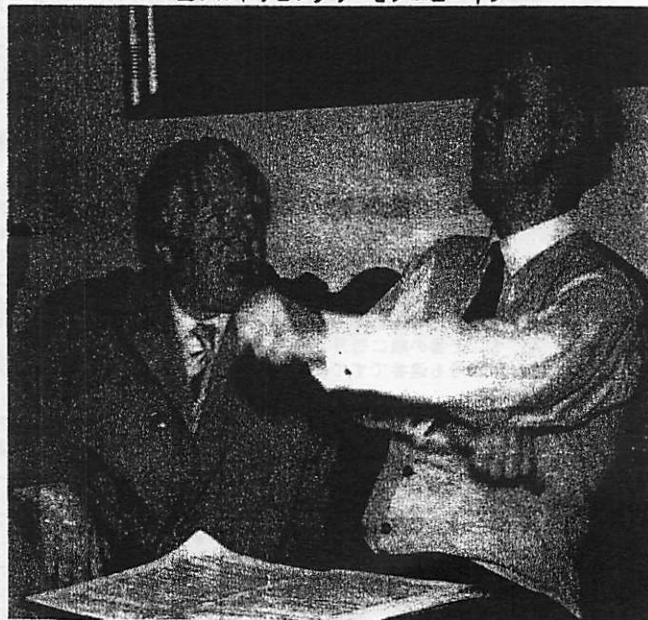
桧山浩介

ュルター街四七番地の審査委員会三〇四号室に出頭したフルトヴェングラーは自らの無実を証言する証人をまったく用意していなかったため、当日の5時間におよぶ審理は、秘書のティーデマンを除いてはすべて巨匠有罪を主張する証人ばかりであったという。委員会の意向から「自身のため」の証人を用意して再度十七日に開かれた審理ではじめてフルトヴェングラーの無実が確認され、委員会の無罪声明、さらに翌年四月二十七日の連合軍司令部の活動許可によって晴れて戦後のフルトヴェングラー指揮再開の道が開かれた。

戦後の初のコンサートは、先の活動禁止宣言はイタリアでは効力が無かったため、復権宣言に先立つ一九四七年四月六日にサンタチエチリア音楽院Orとローマにおいて開かれるが、ドイツにおいては復権宣言直後の五月二十五日、急拠計画された軍政部主催の特別コンサートとして実現、同日より四日間におわたってヘグモント（田園）（運命）のプログラム——奇しくもこのプログラムはかつてフルトヴェングラーがナチスのヒンデミット追放に抗議、一切のポストを辞任したのち再びベルリンに復帰した一九三五年四月二十五日の演奏会のプログラムとまったく同じ——で全ドイツに平和の到来を高らかに告げたのだった。



▲フルトヴェングラーとメニューイン



▲フルトヴェングラーとE・フィッシャー

フルトヴェングラー・ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作——松山浩介

ルツェルン音楽祭Or., メニューイン(vn), 8月29日, ルツェルンでのスタジオ録音。
 ⑦英HMV: DB6574-9, ⑧2ZA 31-4/32-3/33-2/34-1/35-2/36-2/37-1/38-2/39-1/40-3/41-1。
 ⑨33/30: T: A ●WF60014※, WF70024
 日フ協 ●JPI1149

▶翌30日の演奏会に先立ってリハーサルを兼ねて録音された。この録音はかつて小林利之氏も指摘されていたように(→小林:「週刊FM」, 昭49年8月12日号, p53)各面が少しずつ重複して収録されるというめずらしい方法がとられている。

▶英HMV: DB 9198のレーベル写真。



●ワーグナー/歌劇「ローエングリン」第1幕への前奏曲②

ルツェルン音楽祭Or., 8月30日, ルツェルン, エズイト教会堂での実況録音。

⑦仏フ協: SWF7801
 ▶エリーザベト夫人の許に保存されている録音よりレコード化した仏フ協盤が唯一のもの。

▶SWF7801



●ヒンデミット/ウェーバーの主題による交響的変容

ベルリンpa, 9月16日, ベルリン, ダーレム・ゲマインデハウスでの実況録音。

⑦独DG: LPM18857
 ⑨33/30: P: G ●LGM1138, MG6004, SM G1455, SMG9020。
 ⑨独DG: 2585164※

▶LPM18857



●R. シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」③

ベルリンpa, 9月16日, ベルリン, ダーレム・ゲマインデハウスでの実況録音。

⑦独DG: LPM18960
 ⑨33/30: P: G ●MG6015, SLGM1445, S MG9020。
 ⑨独DG: 2721202※

●メンデルスゾーン/劇音楽「真夏の夜の夢」序曲②

ベルリンpa, 9月30日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

⑦伊Cetra: FE35※。
 ⑨33/30: K: SS ●K22C289※
 ▶巨匠のこの曲のレコードは、戦前のポールドールSP盤にあるが、戦後の録音としては本項のみ。

●ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲

アバレストでの実況録音。

⑦独DG: LPM18724
 ⑨33/30: P: G ●LGM1070-6, LGM1104, MG6006, SLGM1439, SMG9020。
 ⑨独DG: 2740260※, 2721202※



▶LPM18724

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

⑤
 ベルリンpa, 5月27日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

⑦独DG: LPM18724
 ⑨33/30: P: G ●LGM1070-6, LGM1104, MG6006, SLGM1439, SMG9020。
 ⑨独DG: 2740260※, 2721202※

▶フルトヴェングラーの残した録音の中でももっとも感動的なものの一つ。これ程までに感動的な行為の可能な人間の素晴らしさに心打たれる。初日の25日の演奏は緊張のためのごちんさが耳につくが、この27日の演奏はフルトヴェングラーも全奏員も情感のおもむくまに思ひぞんぶん全身を打ち込んだ演奏であり、聴く者の世界観すら変えるほどの大きな説得力を持つものになっている。

●ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第2番①

ハンブルク国立pa, 6月9日, ハンブルク, ミュージックホールでの実況録音。

⑦米Discocorp: RR511
 ⑨33/30: C: WS ●OZ7555。

●R. シュトラウス/交響詩「死と変容」

①
 ハンブルク国立pa, 6月9日, ハンブルク, ミュージックホールでの実況録音。

⑦米Discocorp: RR511
 ⑨33/30: C: WS ●OZ7555

●ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第1番

ルツェルン音楽祭Or., エッシュバッハー(pf), 8月27日, ルツェルン, エズイト教会堂での実況録音。

⑦仏フ協: SWF7401
 ⑨33/30: C: WS ●OZ7595※
 日フ協 ●JPL1006

▶日本コロムビア盤の発売により、この貴重な録音もようやく入手が可能となった(外国盤では米Discocorp: RR205が現役盤)。フルトヴェングラーがこの曲を演奏したのはおそらくこの時だけではないと思われる。なお、ソリストのエドリアン・エッシュバッハーは、かつてN響指揮者であったニクラウス・エッシュバッハーの実兄にあたる。



▶SWF7401。
 このジャケットは仏フ協のニュートラルジャケットで、他の盤にもしばしば使用されている。

●ブラームス/交響曲第1番①

ルツェルン音楽祭Or., 8月27日, ルツェルン, エズイト教会堂での実況録音。

⑦仏フ協: SWF7601
 ⑨33/30: C: WS ●OS7072※

●ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲②

1947年

●ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」

③
 ベルリンpa, 5月25日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

⑦伊Cetra: FE32※
 ⑨33/30: K: SS ●K19C266-7※
 ▶大戦後、フルトヴェングラーがベルリンpa.を指揮した文字通り第1回目の記念すべき演奏会の録音。本号前文でも触れたように、「エグモント」「田園」「運命」で25日から28日までの4回演奏された。本項を含む初日の模様はRIAS放送局の手により放送され、3曲とも録音がとられたが、ベルリンガルディによれば(→L. Bellingardi: 伊Cetra: FE32解説文)このうち「エグモント」序曲のテープだけは紛失したという。

因に、大戦中最後のフルトヴェングラーの指揮したベルリンpa.の演奏会は、1945年1月22、23日にアドミラルパレストで行われ、モーツァルトとブラームスが演奏されている。このあとフルトヴェングラーはウィーンでの演奏会の後スイスに亡命するが、ベルリンpa.の演奏会はヘーガーの指揮で続けられ、4月15、16日のベートーヴェン(タシュナーのソロでヴァイオリン協奏曲)とワーグナーのブローを最後に幕を閉じた(会場はベートーヴェンザール)。しかし、戦後は早くも5月26日にL. ボルヒャードの指揮によるメンデルスゾーン、モーツァルト、チャイコフスキーのプログラムで再開される(会場はこの第1回目からティタニアバレストが使われる)。

演奏会場に使われているティタニアバレストは、当時、占領軍専用の映画館として使用されていたが、ベルリンpa.の演奏会の際のみ解放されていた。この建物は防音設備が充分でなく、本項の録音以後、ここで収録されている録音には自動車のクラクションや飛行機の騒音、または、ビルが崩壊をとりこわす鑿岩機の音など、さまざまなノイズが入っていて往時をしのばせる。

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

④
 ベルリンpa, 5月25日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

⑦伊Cetra: FE32※
 ⑨33/30: K: SS ●K19C266-7※
 ▶この復得第1回演奏会の感動的な模様については、K.ヘッカーやG.リースの報告があり、この「運命」の演奏後の拍手は15分にも及んだとのことである。一方、この熱狂を政治的なデモンストレーションとみたエリカ・マン(トーマス・マンの娘)はニューヨーク・ヘラルドトリビューンに記事を送り、政治と芸術に関するフルトヴェングラーとマンの往復書簡のきっかけとなった。ナチス時代のフルトヴェングラーの行動をめぐる両者の論争については今までにも多くの書物に触れられているが、最近発表された「フルトヴェングラーをめぐる」と題された丸山・津津・脇3氏の鼎談(「歴史と社会」第2号に収載、リポート刊, 昭58)は最新の資料も駆使した極めて興味深い内容である。



▶FE32

●ベートーヴェン/劇音楽「エグモント」序曲②

ベルリンpa, 5月27日, ベルリン, ティタニア

音にしては不要なノイズが数ヶ所入っており、あるいはそのためのやり直しかも知れない。しかし、第2楽章の続きの部分のテンポとの関係でみると明らかにテイク2を使用した複製盤の方がスムーズであり、音のクオリティも若干異なることなどからここはやはりテイク2の方をとるのが無難だろう。

●ブラームス/交響曲第1番②

ウィーンpo, 11月17-20, 25日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。
 ①英HMV: DB6634-9, M2VH 7083-1/7084-2/7085-1/7086-2/7087-2/7088-2/7091-1/7092-1/7093-1/7099-1/7100-1。
 ②33/30: T: A ● AB7088, AB8035, AB9136-9, AB9423-6, HA1137, HA5072, WF10-13, WF60016※, WF70026, XLP5026-9。

▶前項の「英雄」と同様、11月16日のウィーンpo.演奏会でとり上げ、早速翌日から本項の収録にとりかかった。G.リースも記している様に(→リース:フルトヴェングラー「ハ、青津訳」, p272, みすず書房, 昭34年)この頃のウィーンでは戦時中のフルトヴェングラーの行動に対する誤解から、巨匠の演奏会にデモ隊が押しよせるという痛ましい事態もあったらしい。

P.ミンチンによれば(→P. Minchin: 英Unicorn: WFS6解説文), この「第1」のオリジナルメタル原盤は、LP複製が行われた段階で廃棄されたが、音質的にこの複製は失敗だった。したがって英Unicorn: WFS6は、エリザベト夫人所蔵のSP盤より音採りがされているという。EMI系の複製盤のマトリックス番号(LP盤の)は2XVH 10008-1/10009-2となっているがWFS6の方は2XVH 10008-2/10009-3となっており、先に触れた1942-3年収録といわれる「第1」も、市販のSP盤よりダビングしたものでは、と想像される。

▶英HMV: DB9220のレーベル写真



●ベートーヴェン/序曲「コリオラン」②

ウィーンpo, 11月25日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。
 ①英HMV: DB6625, M2VH 7101-2/7102-1。
 ②33/30: AB8031, WF1-9, WF60012※, WF70025。

1948年

●ブラームス/交響曲第2番②

ロンドンpo, 3月, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

①英Decca: K1875-9, MAR 12079-2/12080-2/12081-1/12082-3/12083-2/12084-1/12085-1/12086-1/12087-3/12088-1(英Decca: AK1875-9, sd.8→初, および 12086-2)
 ②33/30: K: L ● MR5034, MX9009※, MZ5012。

▶別テイクが使用されているsd.8は第3楽章の33小節(プレスト・マ・ノン・アッサイの冒頭)から同楽章の終りまでの部分。編者の聴き得た複製盤はすべてテイク1が使用されていた。戦後の英DeccaのSP盤はKシリーズはスタンダード・カップリング, AKシリーズはオートチェンジャー用カップリング, と区別されている。因に、英HMVの方は9000シリーズがオートチェンジャー用カップリングとして製作されている。

とんど知られていないが、1904年2月5日、オルデンブルグの生れ。18歳に生地の劇場にデビュー。1925年よりマンハイム、1930年からはデュッセルドルフで唱った。1940年からはハンブルク歌劇場に移り、ワーグナーを中心にキャリアをかかえた。戦後は1947年のブリテンの「ピーター・グライムス」のドイツ初演に参加、フルトヴェングラーの指揮では本項のほか、1948年ザルツブルクでの「フィデリオ」のタイトルロールを唱っている。1956年に引退後はハンブルクで音楽教師として晩年を送った。

なお、伊Cetra: FE43の発売が予告されており、発表されている内容からみて仏フ協: 8205-7②と同一と思われる。同社FE25との矛盾に言及しているかどうか興味深いところ。

●R. シュトラウス/メタモルフォーゼン

ベルリンpo, 10月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①独DG: LPM18857
 ②33/30: P: G ● LGM1138, MG6015, SLGM1445, SMG9020。
 ③独DG: 2535816※

●モーツァルト/セレナード第10番(13管楽器のための)

ウィーンpo, 11月10日-12月3日, ウィーン, プラウスマザールでの録音。

①英HMV: DB6707-11, M2VH 7062-1/7063-1/7064-1/7104-1/7051-3/7090-1/7103-1/7071-1/7072-1/7089-2/
 ②33/30: T: A ● AB7157, AB8104, HA5099, WF14-8, WF60035※, WF70030。

▶英HMV: DB9226のレーベル写真



●ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」②

ウィーンpo, 11月10-17日, 及び, 1949年2月15日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB6741-7, M2VH 7068-1/7069-1/7070-4/7073-2/7074-2/7075-2/7076-1/7077-1/7078-1/7079-2/7080-1/7081-1/7082-4/(初出盤sd.5→初, および7074-5)
 ②33/30: T: A ● WF60004※, WF70044。
 日フ協: JPI191-2②

▶フルトヴェングラーの指揮した戦後初のウィーンpo.定期でとり上げた「英雄」を演奏会の翌日から早速レコーディングしたのが本項の録音。ただし、sd.5だけは翌々年2月15日に再録音しており、この面だけは市販SP盤にも2種類存在する。複製盤は上述の3種類の国内盤は2VH 7074-2が使用されているが、仏フ協: SWF7903②は7074-5の方が使用されている。sd.5は第2楽章の冒頭から86小節1拍目までが収録されており、テイク2は4'59'9、テイク5は4'37'3と両者のラップタイムに大きな違いがある。再録音の理由ははっきりしないが、テイク2の方にはスタジオ録

▶仏VSM: DB6741のレーベル写真



③
 ベルリンpo, メニューイン(vn), 9月30日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。
 ①伊Cetra: FE1※。

▶目下のところ国内盤は未発売。この演奏に先立つリハーサルの折、ティタニアパレストの管理に当たっていたアメリカ駐留軍との間に起ったトラブルをメニューインのとりなしでことなきを得た、というエピソードをK.ヘッカーが紹介している(→ヘッカー:「フルトヴェングラーとの対話」(田田訳), p128, 音楽之友社刊, 昭53年)



▶FE1

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」第2, 第3幕

ベルリン国立Op. Or., 同da, シュリユーター(S), ゾートハウス(T), クローゼ(A), フリック(B), プロハスカ(B)他, 10月3日, ベルリン国立歌劇場での実況録音。

①仏フ協: SWF8205-7②
 ②33/30: K: SS ● K22C234※(注を参照のこと)

③独Acanta: 4023520※
 ▶初出盤の仏フ協盤は最初、第2幕の序奏と第1場が欠落した形で製作されたが(SWF8205-6), その後SWF8207として上述の欠落部分が補充されるとともにSWF8206も8206Rとして再版され、最終的にはSWF8205/6R/7の形で第2, 第3幕全曲がそろった。独Acanta: 4023520はこのうち、

①Act 2, sc.1の冒頭より sc.1のLass meinen Liebsten ein!まで、
 ②Act 2, sc.3 Tatest du's wirklich?より Act 2の終りまで、
 ③Act 3, sc.1 Dünkt dich das?より sc.2 Tristan! Hal, Isold!まで、
 のみが収録されている。一方、国内盤のSS●K22C234(原盤は伊Cetra: FE25)には、
 ①Act 2, sc.3 Wohin nun Tristan scheidet,より das sag' ihm nun Isold!まで、
 ②Act 3, sc.3 Tot denn alles!より der Wahn häufte die Not!まで
 が収められているが、②は途中のブランゲネの囁く、

Sie watch! sie lebt!より dir zuzuführen den Freund までの部分のテープがカットされている。さらにこのチェトラ原盤の録音は奇妙なことに仏フ協盤の録音とはまったく別の演奏である。仏フ協盤のソースは東独放送局に保管されていたオリジナル・テープであり信憑性については問題ない。つまりチェトラ系の記載データは誤りと考えざるを得ないがこの録音は従来から知られているフルトヴェングラーのどの録音とも異っており、正体については目下のところ不明である。ただ、巨匠の指揮した「トリスタン」の録音では1952年1月30日のウィーンでのテープが残っており、かつてオーストリア放送協会が放送したことがあるのでこの辺の調査も必要と考えられる。

フルトヴェングラーの指揮した戦後初のオペラであるこの「トリスタン」は本項の収録日の10月3日と同月30日の2ステージ上演されているが、タイトルロールのシュリユーターは3日のみで、30日のイゾルデはP.ブフナーが唱っている。シュリユーターはこの年の11月26日に戦後初のドイツ人歌手としてメトロポリタン歌劇場でイゾルデを唱ってデビューしているが、アメリカでの評判は芳しくなかった。彼女についてはマイナーレーベルのレコードに数点の録音が残っているのみで、ほ

▶コード634小節からの重要なティンパニの4小節のトレモロをどうしたのか奏者が3小節しかたらず、637小節目が無音というめずらしいトラブルが起った。さざやフルトヴェングラーも驚いたことだろう。

●ベートーヴェン/交響曲第7番②

ストックホルム・コンサート協会Or., 11月13日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

①米Discocorp: RR505.

②33/30: C: WS●OZ7558, OZ7587※.

●ブラームス/ドイツ・レクイエム

ストックホルム・コンサート協会Or., ストックホルム音楽協会ch, リンドベルク・トルリン(S), ゼンナー・シュテット(B), 11月19日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

①英Unicorn: WFS17-8.

②33/30: T: A●EAB80001-2, WF33-6, WF60022-3※.

▶国内盤としては東芝盤が3種類あるが、これ以外にユニコーンと日本コロムビアの契約があった時期にDXMシリーズの一枚として本項の録音のレコード化が予告され、レコード番号もC●DXM141-2と発表されたが、この直後にユニコーンの契約がEMIに移った為に発売が中止され、幻のレコードにおわった。



▶DXM141-2.
幻のレコード

●モーツァルト/交響曲第40番①

ウィーンpo, 12月7, 8日, 及び1949年2月17日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB6997-9, M2VH 7110-2/7111-2/7112-4/7113-6/7114-1/7115-1.

②33/30: T: A●AA7240, AA8266, AA93007, AB7152, AB8095, AB9129-32, EAC35004(第1楽章のみ), EAC50065, EAC70117, HA1018, HA1100, HA5061, WF14-8, WF60034※, WF70029, XLP5018-22.



▶HA1018
日本初出盤。仏では1953年3月発売され、その原盤を使用して製作された。



▶HA1100
何故か同一のカブリングで再度発売された。ただしこちらの方は1957年9月に発売された英国盤の原盤を用いている。

【お知らせ】本連載に使用していますレーベル及びジャケット写真は、SP盤を除いて全て岡田又彦氏にご提供いただいたものです。また、写真解説文も一部氏のお手をお借りしています。氏のご好意に厚く御礼申し上げます(松山)



▶2C05-03649.
当初セットで発売され、後バラ売りされた。

●バッハ/管弦楽組曲第3番①

ベルリンpo, 10月22日, ベルリン, ダーレム・ゲマインデハウスでの実況録音。

①独DG: KL27-31.

②33/30: P: G●LGMI1137, MG6010, SLGM1452, SMG9020.

③独DG: 2535806※.

●バッハ/管弦楽組曲第3番②

ベルリンpo, 10月24日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①独DG: F668164-5※.

▶前項の同曲は自由ベルリン放送収録であるのに対し本項はRIAS放送収録。レコードは初出の独DG協盤のみ。

●シューベルト/交響曲第8番「未完成」

①

ベルリンpo, 10月24日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①日C: DXM157.

②33/30: C: C●DXM157, OC7133, OP7520.

③米Vox: TV34478.

●ブラームス/交響曲第4番②

ベルリンpo, 10月24日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①仏Pathé: FALP544.

②33/30: T: A●AB7153, AB8033, AB9136-9, AB9423-6, HA1140, HA5074, WF10-3, WF60019※, WF70028, XLP5026-9.

CC35-3770



▶FALP544

●ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第3番リハーサル

ストックホルム・コンサート協会Or., 11月12日, ストックホルム, コンサートホールでの録音。

①仏F協: SWF7101※.

②33/30: T: A●EAB80003, WF1-9, WF60011※, WF70023.

●ベートーヴェン/交響曲第8番①

ストックホルム・コンサート協会Or., 11月13日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

①英Unicorn: WFS5.

②33/30: T: A●EAB80003, EAC47240-6, WF1-9, WF60011※, WF70023.

Ph: Ph●SETC7501-7(1940年, スウェーデン国立Or.と誤記).

▶巨匠のオーソライズされた「第8」としては本項の録音が最初。

●ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第3番②

ストックホルム・コンサート協会Or., 11月13日, ストックホルム, コンサートホールでの実況録音。

①仏F協: SWF7101※.

②33/30: T: A●EAB80003, WF1-9, WF60011※, WF70023.



▶英Decca: AK1875のレーベル写真。このsd.8は復刻盤とは別ディスクが使用されている。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」

より「ブリュンヒルデの自己犠牲」①

フィルハーモニアOr., フラグスタート(S), 3月26日, ロンドン, EMIスタジオでの録音。

①英HMV: DB6792-4, M2EA 12850-2/12851-1/12852-1/12853-1/12854-1, M33/30: T: A●WF60024-5※, WF70036-7.

▶かつてA●WF33-6に含まれている同曲がこの項の録音と表示され、国内での初出盤とされたが、内容は1952年の同曲スタジオ録音盤で、WF33-6の演奏日誤記。

●ベートーヴェン/歌劇「フィデリオ」(抜萃)

ウィーンpo, ウィーン国立Or. ch, シュリューター(S), バッツァーク(T), エーデルマン(B)他, 8月3日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュピールハウス)での実況録音。

①加Rococo: 1012.

▶初出盤が唯一のレコード。ただし, Act 1, sc. 4のGut, Söhnchen, g'utよりsc. 7のDann werd' ich ruhig seinまで、つまり第5曲のロッコ、レオノーレ、マルツェリーネの3重唱、第6曲の行進曲、第7曲のピッツァアの Ariaと合唱、第8曲のピッツァアとロッコの2重唱、の計4曲がすっぽり欠落している。オリジナルテープの紛失のためらしく、誠に申しまゐる。



▶Rococo1012

●ベートーヴェン/交響曲第2番

ウィーンpo, 10月3日, ロンドン, ロイヤル・アルバート・ホールでの実況録音。

①独Electrola: IC14953432-9.

②33/30: T: A●EAC47240-6, WF60002※.

▶オーソライズされたフルトヴェングラーの「第2」としては唯一のもの。没後25年を記念してEMI系で発売された。この録音は戦後ただ一度だけ行われた巨匠のベートーヴェン交響曲全曲演奏(同年9月28, 30, 10月2, 3, 6日の5回にわたってロイヤル・アルバート・ホールでウィーンpo.と行われた)の際のもの。このときの全曲目一9曲の交響曲、ヴァイオリン協奏曲(メニューイン), エグモント, コリオリン, レオノーレ第3番の各序曲一はBBCの手で放送され、録音もとられたが後に全て消去されたと伝えられていた。ところが最近になってBBC資料室にディスクに復刻したものが保存されていたのが発見され、「第2」のレコード化となった。ビリーは「第2」のみが録音されていたとのべているが(→P.ビリー:「イギリスで聴いたフルトヴェングラー」, レコード芸術, 昭59年8月号, p162), 欧米の研究者より筆者に寄せられたいくつかの私信によれば、他の曲の録音も残されている(「第9」のみは復刻されなかったといわれる)らしく、詳細についてはなお調査が必要と思われる。

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その⑤



幻の日本演奏旅行 桧山浩介

今回はわが国のフルトヴェングラー愛好家にとつての最大の痛恨事について報告しておきたい。幻に終わった巨匠の日本演奏旅行、ときは昭和十四年（一九三九年）夏のことである。

フルトヴェングラーは一九五四年（昭和二十九年）十一月三十日に六八歳で他界したが、予定では翌五五年には懸案のアメリカ演奏

旅行を行い、一連のレコーディングセッション——その内容についてはディスコグラフィの最終回で紹介したい——を終えて引退するつもりであったといわれている。したがって、仮りに存命であったとしても一九五七年秋のベルリンや日本初旅行には同道することは無く、われわれ日本の愛好家はその姿に接することはなかったはずである。ところが、実は昭和十四

年にフルトヴェングラーはベルリンpoとともに日本を訪れる計画が進められていたのである。時あたかも、これまた幻に終わった東京オリンピックの前年にあたり、もしこの公演が実現していたら当時の日独間の関係からみて、今日とはまったく異質な熱狂のうちに全国を興奮の渦にまき込んだに違いない。

不幸にして、今日この計画の詳細を知る資料はまったくと言っていいほど残されていない。わずかに柴田南雄氏の「私のレコード談話室」に簡単な記述がみられる（同書92ページ）ほかは、連載でたびたび引用しているF・ヘルツフェルトの著作に、やゝくわしい文章が見られるのが編者の目にふれた唯一のものである。おそらくナチスの国家使節として送り出される計画だったろうから、当時の政府公式文書にも当然残されていると思われるのに、現在、国立公文書館や国会図書館に保存されている資料を調査してみてもまったく見当らない。ベルリンpo側の資料も同楽団の一九四三年十一月以前の諸記録類は戦災によって、まったく消滅しているのドイツ側からの調査も不可能な状態である。以下は先のヘルツフェルトの著作「Wilhelm Furtwängler」, P. 108、一九四一年ライプツィヒ）を中心に当時のベルリンpoの演奏記録を参考に想像した「幻の日本演奏旅行」の大概である。

ヘルツフェルトが明らかにしているのは次の二点である。

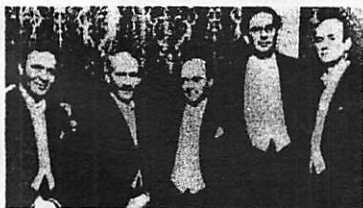
①一九三九年に日本と極東への二ヶ月にわたる演奏旅行が計画されていたこと。

②このうち東京では十七回（//）の演奏会が予定されていたこと。

二ヶ月にわたる長期旅行といえればベルリンpoのオフシーズンでなければ不可能である。一九三八/九年度のシーズンをみると、一九三九年五月十三、十五日の両日、フルトヴェングラーの指揮による「マタイ受難曲」で幕を閉じているが、記録によれば、このあと同じメンバーでイタリアのフロレンスにおもむき、ここでも二回の「マタイ受難曲」の演奏を行っている。このあとベルリンにもどり、六月十一日にクレメンス・クラウスの指揮でR・シュトラウス生誕七五年の記念演奏会があり、このあと一九三九/四十年シーズン幕あきの十月二二日まで演奏会は持たれていない。おそらくこの間に極東方面への旅行が計画されていたと思われる。「極東」との記述と当時の例から考え、ルートは多分インド洋経由の長旅だったと考えられるから、日本以外での演奏地としては香港、上海などが含まれていたと思われるが、東京で十七回というヘルツフェルトの記述から想像して、この旅行の目的はあくまで日本一つにしほられたものであったと思われる。しかし

どのような曲目が予定されていたのか、ソリストとして誰が同道するはずだったのか、謎ばかりが残されている。

読者ならきつと一度はご覧になったと思われる「世紀の顔合せ」と題したワルター、トスカニーニ、フルトヴェングラー、クライバー（エーリッヒ）、クレンペラーの五人が一堂に会した記念写真がある。一九二九年にスカラ座Orを率いてパリを訪れたトスカニーニを歓迎するイタリア大使館でのパーティの折のものである。今世紀前半、世界に君臨したこの五大指揮者は遂にだれ一人として日本を訪れることなく逝ってしまった。ひとりフルトヴェングラーのみ、その最盛期に日本を訪れることが計画されていた。没後三十年に当り、さらに資料を発掘してこの「幻の日本演奏旅行」の全ぼうを再現してみたいと思うのだが……。



左からワルター、トスカニーニ、クライバー、クレンペラー、フルトヴェングラー。



ウィーンpa, 3月31日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6950, ⑧2VH 7131-1。

⑨45/17: T: A ●HJ1021。

33/30: T: A ●AA8269, AB8023, AB91
23, AB9408-11, EAA153, EAC50066, EAC
70041, WF24-7, WF60029*, WF70041, X
LP5011-4。

●ペリオーズ/劇物語「ファウスト の劫罰」より「ラコッツ行進曲」②

ウィーンpa, 3月31日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

⑦独Electrola: IC14903584-6。

⑧33/30: T: A ●WF60002*。

▶78回転盤に収録されながら1979年にはじめて
上述エレクトローラ盤で隔の目をみた。使用
原盤は2VH 7132-3。



▶IC 149-03584
-6

●モーツァルト/セレナード第13番「ア イネ・クライネ・ナハトムジーク」②

ウィーンpa, 4月1日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6911-2, ⑧2VH 7159-2/
7160-1/7161-1/7162-1。

⑨33/25: T: A ●HD1012。

33/30: T: A ●AA7356, AA8266, AA8324,
AB7152, AB8095, AB9129-32, EAC50065, E
AC70117, HA1018, HA1100, HA5061, WF14-8,
WF60034*, WF70029, XLP5018-22。



▶英HMV: DB
6911のレーベル
写真

●ワーグナー/楽劇「ニュルンベルク のマイスタージンガー」第1幕前奏曲①

ウィーンpa, 4月1日, 4日, ウィーン, ムジ
ックフェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6942-3, ⑧2VH 7163-1/
7169-2/7170-2。

⑨33/30: T: A ●AA7356, AA8267, AA8324,
AB7156, AB8103, AB9067, AB9121, EAA113,
EAC50063, EAC70115, GR2124-5, HA1109,
HA5093, WF24-7, WF60028*, WF70040, X
LP5011-4。



▶HA1109, 日
本初出盤。

●ブラームス/ハンガリー舞曲第3番

ウィーンpa, 4月4日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6934, ⑧2VH 7167-2。

⑨33/30: T: A ●AB8035, AB8093, AB90
83, HA5101, WF10-3, WF60016*, WF70026。

⑩仏フ協: SWF8001⑩

▶前項と同様, 国内盤としては日フ協会員用
限定頒布盤の仏フ協: SWF8001⑩のみ。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」よ り「夜明けとジークフリートのラインへの 旅」①

ウィーンpa, 2月23日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6949-50, ⑧2VH 7135-1/
7136-1/7137-1。

⑨33/30: T: A ●AA7607, AA8683, WF24
-7, WF60030*, WF70042。

●ブルックナー/交響曲第8番②

ベルリンpa, 3月14日, ベルリン, ダーレム
・ゲマインデハウスでの実況録音。

⑦独Electrola: STE91377-8。

⑨33/30: T: A ●AA8322-3, AA9133-4,
EAB80005-6, EAC85071-2, WF19-23, W
F60026-7*, WF70038-9。

▶次項とともに使用譜は「ハース版」を基本
とはしているもの, 随所に手が入れられた
独特の版。1944年盤には無かった終楽章499
小節1拍目のシンバルも追加されており, 同
じ223小節からのヴァイオリン・ソロもスコア
の指定にかかわらず, トウティで演奏され
ている。フルトヴェングラーの「第8」につ
いては使用版に種々の問題があるが, 1954年
4月の現存すべての録音についての比較を行
いたい。

●ブルックナー/交響曲第8番③

ベルリンpa, 3月15日, ベルリン, ティタニ
アパレストでの実況録音。

⑦加Rococo: 2032。

⑨33/30: C: Ro OC7139-40, ●OP 73
16-7, OS7091-2*

●ワーグナー/楽劇「さまよえるオラン ダ人」序曲

ウィーンpa, 3月30, 31日, ウィーン, ムジ
ックフェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6975-6, ⑧2VH 7128-4/
7129-1/7130-1。

⑨33/30: T: A ●AB7156, AB8103, AB91
21, AB9408-11, WF24-7, WF60028*, WF
70040, XLP5011-4。

▶「オルセン」第1版では3月29, 30日を収
録日としている。

●ブラームス/ハイドンの主題による変 奏曲③

ウィーンpa, 3月30日, 4月2日, ウィーン,
ムジックフェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6932-4, ⑧2VH 7157-1/
7158-2/7164-1/7165-1/7166-2。

⑨33/30: T: A ●AB8033, AB9129-32, H
A1033, WF10-3, WF60019*, WF70028。



▶「オルセン」
第1版では, 収
録日は30日だけ
としている。
▶英HMV: DB
9402のレーベ
ル写真

●ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」より 「ワルキューレの騎行」



▶AA 8269

1949年

●モーツァルト/ピアノ協奏曲第10番 (2台のピアノのための)

ウィーンpa, バドゥーラスコダ(pf), ベッラ
(pf), 2月8日, ウィーン, ムジックフェ
ラインザールでの実況録音。

⑦米Discocorp: AUDAX765。

⑨33/30: C: WS ●OW7826。

●メンデルスゾーン/序曲「フィンガル の洞窟」②

ウィーンpa, 2月15日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6941, ⑧2VH 7108-4/7109
-5。

⑨45/17: T: A ●HJ1012。

33/30: T: A ●AB8031, AB9133-5, HA
1165, WF14-8, WF60038*, WF70033, XL
P5023-5。

▶国内盤としては上記以外に日フ協が仏フ協
: SWF8001⑩を会員用として限定頒布したも
のがある。



▶FALP617,
フランスにおけ
るLP初出盤
(1959年10月発
売)。

●ワーグナー/ジークフリート牧歌

ウィーンpa, 2月16, 17日, ウィーン, ムジ
ックフェラインザールでの録音。

⑦英HMV: DB6916-7, ⑧2VH 7121-1/
7122-1/7123-1/7124-2。

⑨33/30: T: A ●AA8320-1, AB8023, AB
9408-11, HA1109, WF24-7, WF60029*,
WF70041, XLP5011-4。

▶英HMV: DB
6916のレーベ
ル写真



●ワーグナー/楽劇「タンホイザー」序曲 ②

ウィーンpa, 2月17, 22日, ウィーン, ムジ
ックフェラインザールでの録音。

⑦仏フ協: SWF8001⑩

▶78回転盤に録音されたが未発売のままだった
録音。仏フ協の複製盤の使用原盤は, 2VH
7125-3/7126-1/7127-3, 国内盤は目下の
ところ日フ協が会員用として限定頒布した仏
フ協: SWF8001⑩のみ。「オルセン」第1版で



は, 収録日とし
て, 2月17, 22,
23日の3日間と
している。
▶SWF 8001

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」よ り「ジークフリートの葬送行進曲」②

ウィーンpa, 2月23日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの録音。

W. Oehlmann:「Das Berliner Philharmonische Orchester」, p178, Kassel, 1974), 第1番の初演は10月20日であるという。なお、本項の演奏についてはフルトヴェングラーからヘラーに宛てた1949年11月10日付書簡を参照いただきたい(→「フルトヴェングラーの手紙」(仙北谷晃一訳), p234, 白水社, 昭和47年)。

●ブルックナー/交響曲第7番①

ベルリンpa, 10月18日, ベルリン, ダーレム・ゲマインデハウスでの実況録音。

①独DG: STE91375-6。

③33/30: T: A ●AA8320-1, AA9131-2, EAB80004, EAC85070, WF19-23, WF60024-5※, WF70036-7。

▶フルトヴェングラーのブルックナー「第7」の使用譜については原典版(ハース版)という記載が多いが、「第7」に関しては宇野功芳氏の指摘のように改訂版を基本とした演奏とみるべきだろう。とくにノヴァーク版が未出版の段階(同版の出版は1954年)で第2楽章の処理の仕方は、明らかに改訂版準拠を示す。衆知のようにハース版では第2楽章177小節の打楽器が一切省略されている(この版でのレコードは、朝比奈/大フィルのV:V●KVX5501-2で聴くことが出来る)が、すべてのフルトヴェングラーの録音ではここでの打楽器の使用がおこなわれており、さらに本項では半小節はやく176小節3拍目から使われている(この半小節早い例は本項の録音のみ)。



▶STE91375-6

●シューマン/劇音楽「マンフレッド」序曲①

ベルリンpa, 12月18日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①独DG2535805※。

③33/30: P: G ●MG6009。

●ブラームス/交響曲第3番①

ベルリンpa, 12月18日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①仏Pathé: FALP543。

③33/30: T: A ●AB7062, AB8034, AB9136-9, AB9423-6, HA1139, WF10-3, WF60018※, WF70027, XLP5026-9。



▶FALP543

●ホルトナー/ヴァイオリン協奏曲

ベルリンpa, タシュナー(vn), 12月18日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①伊Cetra: FE31※。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」より「ジークフリートの葬送行進曲」③

ベルリンpa, 12月19日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

①独DG: 2535826※。

③33/30: P: G ●MG6016。

●ワーグナー/楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」より第1幕前奏曲②



▶OP7526-8

●プフィッツナー/交響曲ハ長調

ウィーンpa, 8月7日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュベールハウス)での実況録音。

①加Rococo: 2109。

③33/30: C: WS ●OZ7593※。

①伊Cetra: FE26※。

●ブラームス/ヴァイオリン協奏曲①

ルツェルン音楽祭Or., メニューイン(vn), 10月7日, ルツェルンでのスタジオ録音。

①英HMV: DB21000-4, M2ZA63-1A/64-1A/65-1A/66-1A/67-1A/68-1A/69-1A/70-1A/71-1A。

①独78/30: V: V ●SD117-21。

③33/30: V: V ●LS2002。

T: A ●AB8039, AB9136-9, AB9423-6, HA5102, WF28-32, WF60020※, XLP5026-9。

▶EMIとビクターの契約関係から「犬のマーク」のフルトヴェングラーは日本ではここに挙げたビクター盤のみである。V●LS2002は昭和28年12月新譜でわが国での巨匠LPの第1号。収録は先の1947年8月のベートーヴェンの協奏曲の場合と同様、各面が若干オーバーラップして収録されている。



▶英HMV: DB 9444のレーベル。

●ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第2番②

ベルリンpa, 10月18日, ベルリン, ダーレム・ゲマインデハウスでの実況録音。

①独DG: LPM18742。

③33/30: P: G ●MG6011, SLGMI444, S MG9020。

①独DG2535807※。



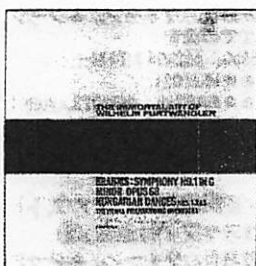
▶LPM18742

●ヘラー/チェロ協奏曲第2番

ベルリンpa, ヘルシャー(vc), 10月18日, ベルリン, ダーレム・ゲマインデハウスでの実況録音。

①伊Cetra: FE31※。

▶ヴァッカナゲルのフルトヴェングラー/ベルリンpa.全定期公演記録によれば、「チェロ協奏曲, op.26」とされているが、上述の通り「第2番, 二短調, op.50」が正しい。ヴァッカナゲルの指摘しているop.26は、ヘラーの「チェロ協奏曲第1番」で、この方はヘルシャーのソロ, フルトヴェングラー/ベルリンpa.で1941年10月16-18日の定期演奏会で初演されている。ただし、W.エーрманによれば(→



▶AB8035

●ブラームス/ハンガリー舞曲第10番②

ウィーンpa, 4月4日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB6934, M2VH 7167-2。

③33/30: T: A ●AB8035, AB8093, AB9083, HA5101, WF10-3, WF60016※, WF70026。

▶「オルセン」第1版では、本項と前項の収録日とともに4月1, 4日の両日としている。

●ブラームス/ハンガリー舞曲第1番②

ウィーンpa, 4月4日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB6976, M2VH 7168-1。

③33/30: T: A ●AB8035, AB8093, AB9083, HA5101, WF10-3, WF60016※, WF70026。

▶「オルセン」第1版では収録日として3月29, 30日としている。

●ワーグナー/楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」より「徒弟たちの踊り」

ウィーンpa, 4月4日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB6943, M2VH 7171-2。

①45/17: T: A ●HJ1201。

③33/30: T: A ●AA8269, AB8023, AB9123, AB9408-11, EAA153, EAC50066, EAC70118, WF24-7, WF60029※, WF70041, XLP5011-4。

●プフィッツナー/歌劇「バレストリーナ」より3つの前奏曲

ベルリンpa, 6月10日, ヴィスバーデン, 国立劇場での実況録音。

①加Rococo: 2034。

③33/30: C: Ro ●DXM179-80。

C: WS ●OS7069-70※。

日フ協 ●WFJ4-5⑨。

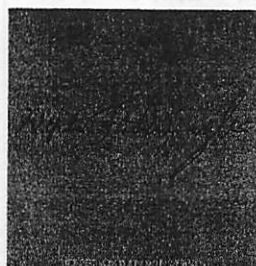
●モーツァルト/交響曲第40番②

ベルリンpa, 6月10日, ヴィスバーデン, 国立劇場での実況録音。

①独フ協: F666156-7⑨。

③33/30: C: WS ●OS7069-70※。

日フ協 ●WFJ4-5⑨。



▶F666156-7

●ブラームス/交響曲第4番③

ベルリンpa, 6月10日, ヴィスバーデン, 国立劇場での実況録音。

①独フ協: F666156-7⑨。

③33/30: C: WS ●OS7069-70※。

日フ協 ●WFJ4-5⑨。

●モーツァルト/歌劇「魔笛」①

ウィーンpa, ウィーン国立Op. de, グラインドル(B), ルードヴィッヒ(T), ゼーフリート(S), リップ(S)他, 7月27日, ザルツブルク音楽祭(フェルゼンライトシュール)での実況録音。

①“GAO”: EJS572⑨。

③33/30: C: WS ●OP7526-8, OZ7572-4※。

▶フルトヴェングラーの「魔笛」全曲は、本項と1951年ザルツブルクの2種類がある。

3855以外に見当たらない。

●ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より第3幕への前奏曲

ウィーンpa, 2月1日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①独Electrola: IC147-01197。

③33/30: T: A ● WF24-7, WF60028*, WF70040。

日フ協 ● JPI114④

▶オリジナル録音は78/25, マトリックス番号はOVH 475-1A/476-1Bで, SP盤としては発売されなかった。

●ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲

ウィーンpa, 2月1日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB21104, M2VH 7216-1A/7217-1A。

④45/17: T: A ● HJ1004。

33/30: T: A ● AA8264, AB9133-5, H A1165, WF14-8, WF60037*, WF70032, XLP 5023-5。

▶「オルセン」第1版は収録日を2月1, 2日の両日としている。

●チャイコフスキー/弦楽セレナードより「ワルツ」

ウィーンpa, 2月2日, ウィーン, プラームスザールでの録音。

①英HMV: 7R134。

④45/17: T: A ● HN1004。

33/17: T: A ● TS3082

33/30: T: A ● AB8038, AB9133-5, H A1165, WF19-23, WF60039*, WF70034, XLP5023-5。

▶オリジナル録音は78/30, マトリックス番号は2VH 7215-1Aで英HMV: DB21173として発売されている(上場初出盤は45/17)。「オルセン」第1版では収録日は2月1日。なお、次項をも含むA ● TS 3082は、誤ってフィルハーモニアOr.とされており、その指揮者名が、なんと「フルト・ベングラー」となっている。

●チャイコフスキー/弦楽セレナードより「終曲」

ウィーンpa, 2月2日, ウィーン, プラームスザールで録音。

①英HMV: DB21172, M2VH 7218-1C/7219-1A。

④45/17: T: A ● HN1004。

33/17: T: A ● TS3082

33/30: T: A ● AB8038, AB9133-5, H A1165, WF19-23, WF60039*, WF70034, XLP5023-5。

●シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」よりバレ音楽第2番②

ウィーンpa, 2月2日, ウィーン, プラームスザールでの録音。

①英HMV: DB21192, M2VH 7220-1A。

④45/17: T: A ● HJ1001。

33/30: T: A ● AB8034, AB9129-32, H A1085, HA5100, WF14-8, WF60036*, WF70031, XLP5019-22。



▶HA 1085, 日本初出盤で, 1958年10月発売された。

●シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」より間奏曲第3番③

ウィーンpa, 2月2日, ウィーン, プラームスザールでの録音。

①英HMV: DB21192, M2VH 7221-1C。

④45/17: T: A ● HJ1001。

33/30: T: A ● AB8034, HA5100, WF14-8, WF60036*, WF70031, XLP5019-22。

1A/7208-1A/7209-1A/7204-1A/7205-1A/7206-1A/7210-1A/7211-1A/7212-1A/7213-1B。

③33/30: T: A ● EAC47009-14, WF60005*, WF70045。

▶「オルセン」第1版では収録日として, 24, 25, 30日の3日間としている。フルトヴェングラの「第4」は後述の1952年12月のスタジオ録音が早くからわが国に紹介され, 本項の録音は永らく聴くことが出来なかったが, 昭和50年11月に「世紀の9大名指揮者によるベートーヴェン交響曲全集」の1つとして始めて日本の愛好家の前に姿を表わした。(4枚目のくEAC47012の中に収められている。)因みに他の曲は, 第1(トスカニーニ)第2(シュリヒト)第3(クレンペラー旧録音)第5(クーセヴィツキー)第6(ワルター)第7(クナッパーツブッシュ)第8(シャルク)第9(ワインガルトナー)と大変興味深い組合せとなっている。



▶EAC47009-14

●ベートーヴェン/交響曲第7番③

ウィーンpa, 1月25日, 30日, 31日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB21106-10, M2VH 7180-1A/7181-1A/7182-1A/7184-1A/7185-1A/7186-1A/7187-1A/7188-1A/7189-1B(英HMV: DB9516-20, sd. 8 → 初及

び7187-1B)

③33/30: T: A ● AA7238, AA8267, AA9475-9, AA93006, AB7061, AB9115, AB9398-402, EAA113, EAC35003, EAC47240-6, EAC50063, EAC70115, HA1036, HA5059, WF1-9, WF50009*, WF60010*, WF70019, XLP5001-5。

▶「オルセン」第1版では収録日として1月18, 19日の2日間としている。原盤のマトリックス番号の順序からみるとこの「第7」は先の「未完成」の前になり, この「オルセン」第1版の指摘の方が正しいようにも思えるが。

▶英HMV: DB9516のレーベル写真。



▶米Vic LHMV 1008. LP初出盤は米国で1952年8月の発売であった。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」より「ジークフリートの葬送行進曲」④

ウィーンpa, 1月31日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB6946, M2VH 7133-4A/7134-4A。

③33/30: 日フ協 ● JPL1057⑤

▶国内盤は日フ協盤のみ。外国盤でもLP復刻は仏フ協: SWF7803⑥, 仏Pathé: 2C0510

ベルリンpa, 12月19日, ベルリン, ティタニアパレストでの実録録音。

①独DG: 2721113。

③33/30: P: G ● MG6016, MG8685-94。

⑥独DG: 2740260*, 2535826*。

1950年

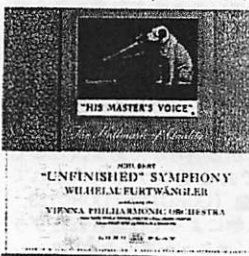
●シューベルト/交響曲第8番「未完成」②

ウィーンpa, 1月19日-21日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB21131-3, M2VH 7190-1A/7191-1A/7192-1A/7193-1A/7194-1A/7195-1A。

③33/25: T: A ● HD1010。

33/30: T: A ● AA8173, AA8319, AA93003-4, AB8059, AB9129-32, EAA102, EAC35004(第2楽章のみ), EAC50061, EAC70112, HA1085, HA5100, WF14-8, WF60036*, WF70031, XLP5019-22。



▶米Vic LHMV1020. LP初出盤。1952年8月発売。

●R・シュトラウス/交響詩「死と変容」②

ウィーンpa, 1月21日, 23日, 24日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB21169-71, M2VH 7196-1A/7197-1A/7198-1A/7199-1A/7200-1A/7201-1A。

③33/30: T: A ● AA8263, AB9125-8, A B9413, EAA166, EAC50067, EAC70119, H A1109, WF24-7, WF60031*, WF70043, XLP5015-8。



▶FALP546. LP初出盤は米のLHMV1023で, 1952年12月に発売されたが, 仏では1958年11月になって発売された。

●J・シュトラウス/皇帝円舞曲

ウィーンpa, 1月24日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB21174, M2VH 7202-1A/7203-1C。

④45/17: T: A ● HJ1013。

33/30: T: A ● AB8031, AB9133-5, H A1165, WF14-8, WF60036*, WF70031, XLP5023-5。

▶国内盤として日フ協限定頒布盤: SWF8001⑥もある。



▶FALP617. LP初出盤は英国HMVで1959年5月「ポップス・コンサート」と銘打って発売されたが, 仏でも1954年10月同一組合せで発売された。

●ベートーヴェン/交響曲第4番③

ウィーンpa, 1月25日, 30日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

①英HMV: DB21099-103, M2VH 7207-

ルデは全曲盤のそれとはまったく別人(声質、発音の特徴——とくにウォータンの最初に出てくるRossの発音の違い——などから一聴して明らかである)であり、ワルキューレの騎行のテーマの直前でEJS327の方は大きなリタルダントがかけられていること、さらにこの部分で場内から大きな拍手が起っている(全曲盤ではリタルダントも拍手もない)ことなどから、仮りにフルトヴェングラーの指揮したものでもあったとしてもスカラ・リングの断片であるとは到底考えられない。

さらに、初出盤のソースがBBCの放送のエアチェックテープであり——このことは今まで指摘されたことがない。もちろん、BBCが用いたテープは後に述べるようにRAIから提供を受けたものである——、仮りにスカラ・リングにテープとアセテート盤の2種類の録音があったとしても、おそらくRAIは音質的に格段に勝るテープ録音の方をBBCに提供したと考えられるので、先の④⑤はアセテート盤がソースとなっているとする従来の考え方には編者は同意出来ない。この初出盤のソースがBBCのエアチェックテープであることについては、少なくとも「ワルキューレ」がそうであることはEJS534(初出盤)の末尾に約2分にわたって詳細なBBCのアナウンスが収録されていることから明らかである。(ここで録音はRAI提供である旨アナウンスされている)残りの3曲(UORC128, UORC123, EJS538)も同一人物によって作製されたプライベート盤であり(米ニューヨーク州、フォレストヒルズのエドワード・スミスの手になる)、クオリティも酷似していることから、これらもBBCのエアチェック・テープと考えるとさしつかえなからう。BBCの放送日については編者の照会に対して同局のdata reference libraryより、順に1950年12月26, 29, 31日、翌年1月2日であるものの回答が寄せられており、当時のテープレコーダーの普及からみて全曲のエアチェックは可能である。これらの事実と先にみた通り④も⑤も同一であることを考慮すると、従来のスカラ・リングのレコードはすべてテープ録音をソースとしており、現在までに明らかになった資料によるかぎりではテープ録音とは別の日の録音の存在を裏付ける証拠は認められない。なお、収録日については「オルセン」第2版では、特定し難い、として全公演日を挙げているが、同書第1版ではデータ出所としてエリーザベト夫人とD. ハミルトンの名を挙げて各曲とも初日(つまり④⑤の日付け)としている。ただし、編者のRAIへの照会に対しては④の日付けを参照されたい、との返信が来ていることをご紹介しておく。

訂正

7月号

●260頁、右段、下から31行目、M G 1476の次にM G 8685~94を追加。

●260頁、右段、下から18行目、M G 1482を削除。

8月号

●267頁、右段、上から2行目、「025239/025238」→「025238/025239」

●267頁、中央段、上から35行目、「REL813」→「27 P C 84」

●268頁、右段、上から21行目、「P L 1101」→「P L 1101, P L 1104」

9月号

●239頁、中央段、下から2行目、「027558」→「O Z 7558」同9行目「O 2」も「O Z」に。

●240頁、中央段、下から40行目、「W S ● O C 7135」→「C ● O C 7136」

●241頁、右段、下から19行目、「C : ● D X M 151」→「C : C ● D X M 151」

●241頁、左段、上から35行目、「W S ● O C 7135」→「C ● O C 7135」

●242頁、右段、上から12行目、「O Z 7586」→「O Z 7586※」(松山)。

④“GAO” : EJS534④

④33/30 : C : WS ● OB7101~16.

(K : 伊Cetra ● CFE101)

⑤米Discocorp : RR420.

米Murray Hill : 940477.

▶「神々のたそがれ」の項を参照されたい。

●ワーグナー/楽劇「ジークフリート」①

スカラ座Or., スヴァンホルム(T), フラグスタート(S), ベルナー・シュトルファー(B)他、スカラ座、3月22, 24, 26日、ミラノ、スカラ座での実況録音。

④“UOR” : UORC128④

④33/30 : C : WS ● OB7101~16.

(K : 伊Cetra ● CFE101)

⑤米Discocorp : RR420.

米Murray Hill : 940477.

▶「神々のたそがれ」の項を参照されたい。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」①

スカラ座Or., ローレンツ(T), フラグスタート(S), ウェーバー(B), コネツニ(S), ヘンゲン(A)他、スカラ座、4月2, 4, 6日、ミラノ、スカラ座での実況録音。

④“GAO” : EJS538④

④33/30 : C : WS ● OB7101~16.

(K : 伊Cetra ● CFE101)

⑤米Discocorp : RR420.

米Murray Hill : 940477.

▶戦後初のフルトヴェングラーの「リング」はミラノ・スカラ座において「ラインの黄金」：3月2, 4, 11日、「ワルキューレ」：3月9, 13, 16日、「ジークフリート」：3月22, 24, 26日、「神々のたそがれ」：4月2, 4, 6日の合計12日間にわたって上演されたが、収録データについては喰い違う資料がいくつかあり、さらにオーソライズ盤が存在しないので、少なくとも現在までに出版された各種のレコードの収録日については特定することがむずかしい。

現在までに出版されたスカラ・リングの全曲レコードは、④初出盤、⑤米Discocorp盤(日C : WS ● OB7101~16も含む)、⑥伊Cetra盤、の3つの系統があり、収録日については④と⑤は同じで、順に3月2, 9, 22日、4月2日(つまり各曲とも初日)とされており、比較試験でもこの両系統はまったく同じ演奏である。ところで、1983年に伊Cetra : CFE101が発売された折、4曲のうち「ラインの黄金」と「神々のたそがれ」は従来のレコードとは異なった演奏である(収録日は前者が3月4日、後者が4月4日とされている)と発表されたため大いに期待されたが、案に相違して従来の④⑤とまったく同じ演奏であった。

スカラ・リングの録音については「オルセン」第2版にミラノのカッカモの言として紹介されている「3公演について少なくとも2つの全曲録音が存在し、1つはテープで(RAI)トリノに、1つはアセテート盤で(RAI)ローマに保管されている」という記述から各曲目とも別日の2つの録音が存在すると思われる、④⑤はそのうちのアセテート盤よりの複製と広く信じられ、⑥の先の2曲がテープよりのレコード化と思われるが、上述のように、今までのレコードを分析する限りでは④⑤⑥の中に別日の2録音が含まれていることを裏付ける証拠は無い。ただ、「オルセン」第2版(→同書、p32)には、スカラ・リングの「ワルキューレ」の断片である“GAO” : EJS327④は、全曲レコードである“GAO” : EJS534④(同曲の初出盤)とは別録音であるものの存在があり、2種類の録音の存在が示唆されているが、オルセンのこの指摘は正しくない。EJS327には、

①Act 2, sc. 1, Nun Zäume dein RossよりHojotohoまで。

②Act 2, sc. 4, Siegmund Sieh' auf michよりAct 2の終りまで。

③Act 3, sc. 3, Tönend erklang mirよりAct 3の終りまで。

の3つが含まれているが、②③の2つはEJS534を始めとした従来の他の録音とまったく同一、①のみ他の録音と異なった演奏であるが、この部分に登場するウォータンとブリュンヒ

●J & J・シュトラウス/ピチカートボルカ

ウィーンPa., 2月3日、ウィーン、ブラームスザールでの録音。

④英HMV : 7R134

④45/17 : T : A ● HN1004.

33/30 : T : A ● AB8031, AB9133~5, W F14~8, WF60036※, WF70031, XLP5023~5.

▶オリジナル録音は78/30、マトリックス番号は2VH 7222-1A、英HMV : DB21173で発売されている。「オルセン」第1版では収録日を2月2日としている。

●モーツァルト/歌劇「魔笛」より「あゝ、おそれおののかなくてもよいのです」

ウィーンPa., リップ(S), 2月3日、ウィーン、ブラームスザールでの録音。

④英HMV : RLS764.

▶次項を参照いただきたい。

●モーツァルト/歌劇「魔笛」より「地獄の復讐が私の心の中に煮えかかっている」

ウィーンPa., リップ(S), 2月3日、ウィーン、ブラームスザールでの録音。

④英HMV : RLS764.

▶前項とともに1982年2月に突如として英HMVの“Stars of The Vienna Opera”の中に収められて登場し世界中の愛好家を驚かせた。戦後のスタジオ録音にもかかわらず、この時まで存在そのものもまったく知られていなかったという録音。オリジナル原盤のマトリックス番号は本項が2VH 7223、前項は2VH 7224で前々項の「ピチカートボルカ」に続いている。もちろんSP盤でも発売はされていない。初出盤以外にレコードは無く、国内盤も東芝EMIが試験盤として製作したA ● BRCI 009④(45/17)のみである。

この録音をめぐる謎については編者はかつてカラヤンの「魔笛」(T : A ● AB9341~4)との関係に言及したが(→松山：「ステレオ芸術」、昭57年5月号、p86)、郷土郎氏も「魔笛」をめぐるフルトヴェングラーとカラヤンの葛藤を紹介しておられ(→「フルトヴェングラー、人と芸術」p237、芸術現代社刊、昭50年)、おそらくこの両者にプロデューサーのワルター・レグのからんだ複雑な事情が永年にわたって秘蔵されていた理由だろう。なお、シュベールの「未完成」から本項までの1950年1~2月のウィーンでの録音セッションのうちマトリックス番号2VH 7214のみが欠番になっており、この2曲の「魔笛」のアリアと同じ未公開録音の存在が想像されるが、編者の英EMIへの照会に対して寄せられた返事では、未公開の録音はないとのことである。

▶ RLS764(3)



●ワーグナー/楽劇「ラインの黄金」①

スカラ座Or., フランツ(B), トレプトウ(B), ザットラー(T), ガボリ(S)他、スカラ座、3月2, 4, 11日、ミラノ、スカラ座での実況録音。

④“UOR” : UORC128④

④33/30 : C : WS ● OB7101~16.

(K : 伊Cetra ● CFE101)

⑤米Discocorp : RR420.

米Murray Hill : 940477.

▶後述の「神々のたそがれ」の項を参照。

●ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」①

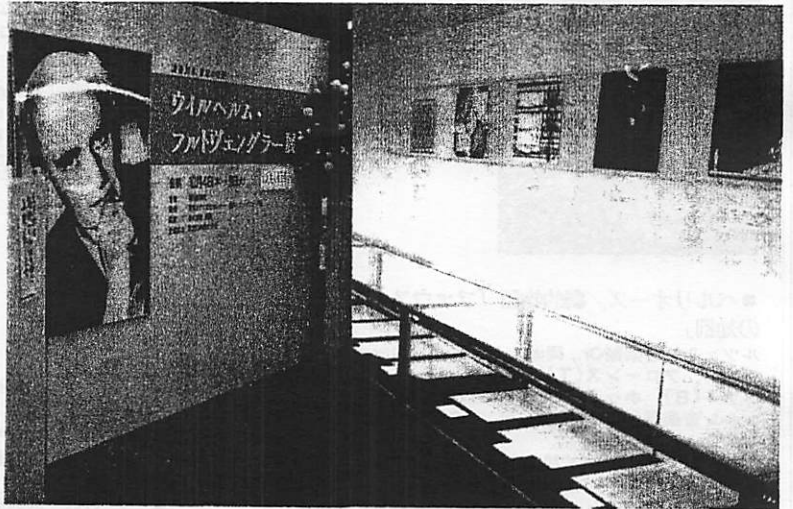
スカラ座Or., トレプトウ(T), フラグスタート(S), フランツ(B), コネツニ(S)他、スカラ座、3月9, 13, 16日、ミラノ、スカラ座での実況録音。

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その⑥



「展覧会・講演会」見聞記

桧山浩介

今までのわが国のフルトヴェングラー熱はもっぱらレコードを通しての「指揮者フルトヴェングラー」へ向けられたものだったが、今回、没後三十年にして始めて巨匠の、文字どおり膚のぬくもりに触れることの出来る催しが行われた。諸外国ではすでに何回かの展覧会や講演会を通じて「人間フルトヴェングラー」がファンの身近かなものになっていただけ

に、わが国のファンにとってもようやく永年の渇がいやされたと言えよう。編者にとっても待ちわびた今回の催しの見聞記を以下ご紹介しておきたい。

没後三十年、世紀の巨匠ウィルヘルム・フルトヴェングラー展と銘うった展覧会はエリーザベト夫人の初来日に合せて去る十月四日から九日まで大丸東京店で盛大に開かれた。わずか六日間、それも

東京でだけというファンにとってはいささか不満の残るものではあったが、遠路をはるばる駆けつけた多くの人々（編者も四国の片田舎からは参りました）で連日満員の盛況だった由。会場に入ってもまず巨匠のエンビ服や靴、メガネ、それに愛用の指揮棒——現在、夫人の手許にはこの一本しか残されていないという——を目の当りにして思わず触れてみたくなる衝動にかられたのは編者だけではなく、宛てた少年時代の巨匠の独特の筆跡の手紙も興味深かったが、晩年にエリーザベト夫人に宛てた自筆の手紙の末尾に「君を心から愛す」の文字を見出したときは思わず「人間フルトヴェングラー」に触れた感動に胸があつく感じた。巨匠の各時期の演奏会プログラムやポスターも展示されていたが、まとまったものとしては一九三七年の「コヴェントガーデン・リング全四夜のプログラム」、一九四八年ロンドンでの「ウィーン・フィルとのベートーヴェン・チャルスイス全五夜のプログラム」などが目を引いた。

今回の展示品の中でもっとも編者の興味を引いたものは十三点（うち七点は実物の自筆譜、残り六点は写真版。いずれもチューリッヒ中央図書館より特別に出品されたもの）におよぶ自作品の自筆譜だった。本誌八月特集号で巨匠の作品の概略をご紹介したが、今回の展示品により「作曲家フルトヴェングラー」が日本のファンにもひととき身近なものになったのは喜ばしい。これらの自筆譜を直接見る機会に恵まれたことによつて自作品についての従来の見解が改められた点もいくつかあげられる。たとえば今回レコード化をみた「ピアノ五重奏曲」の初期スケッチと思われる草稿の検討から、この曲が今まで考えられていたよりさらに三年ほど早くから作曲に着手されていたことが判明したことなどその一例だ。自筆譜と並んで、シューマンの交響曲第四番の巨匠の自家譜（演奏に際しての巨匠の覚書や訂正を書き込んだもの）冒頭の写真版が展示されたのは大きな収穫だった。フルトヴェングラーの演奏の圧倒的な感銘の秘密をさぐる鍵として巨匠の自家譜の分析が不可欠であるが、今まではまったく手がつけられていなかった。今回展示された部分の詳細についてはいずれディスコグラフィのこの曲の項でご紹介することにした。

なお、会場では未公開フィルムと銘うってブラームスの交響曲第四番の終楽章リハーサルとドン・ジョヴァンニの冒頭のシーンが上映されたが、いずれもすでに国内公開の済んだものだったのはいささかガッカリ。それよりも会場にしたらえられたCDプレーヤーでたっぷり試聴が楽しめたのは有難かった。デジタル・リマスターリングの威力がいかに発揮されて、新録音の発掘と並んであらたな楽しみがまた一つふえたと申せよう。

待望のエリーザベト夫人の講演会は、東京と京都で各一回ずつという限られたものであったが、両会場とも定員を数倍を上まわる申込みがあったとか。編者のおじやました八日の東京会場（科学技術館サイエンスホール）もドアを開けはなしたホールに補助イスまでしつらえられ、こぼれんばかりのファンで立すいの余地もなかった。夫人の講演の内容はすでに回想録などで触れられている以上のものではなかったが、何よりも巨匠と辛苦を共にされた体験からにじみ出る語り口は、集った我々に充分満足を与えさせるものだった。想像以上の長身の夫人は、当日やや風邪気味とのこと（聞くところによるとこのあとの十一日の京都ではさらにひどくなられ、講演の前までホテルで臥しておられた由）であったが、日本にまで同道され当日会場の客席に居られた令息アンドレアス氏（現在、ドイツの大学で考古学の助教授をなさっておられる）とともに会場からの盛大な拍手に応えておられた。

なお、没後三十年の命日にあたる来る十一月三十日の夜にNHK教育TVでエリーザベト夫人も出演される特別記念番組が放映される予定で、今回の催しをご覧になれる方ぜひお見逃しのないようお知らせしておきたい。



▶1949年の「魔笛」と並んで戦後のザルツブルクでのフルトヴェングラーの最高の演奏に挙げられているもの。とくに劇中に奏せられる「レオノーレ」序曲第3番は、先のコンサートへボウとのそれとともに巨匠のこの曲の録音では最高の出来を示したものの。因に、M.マーカスによれば(→「ギリス」：「フルトヴェングラー」(仙北谷訳)、p229、音楽之友社刊、昭和44年)この折の拍手は実に20分もの長さに及んだという。



▶ BJR112.

●ベリオーズ/劇的物語「ファウスト」の劫罰

ルツェルン音楽祭Or., 同cha, シュワルツコップ(S), フローンス(T), ベルナーシュトルファー(B), ホッター(B), 8月26日, ルツェルン音楽祭(エズイト教会堂)での実況録音。
⑦伊Cetra: FE21※
③3/30: K: SS●K20C237-9※
▶スイス・フルトヴェングラー協会を中心とした努力で発掘された。真意についての吟味は発掘後、数本のコピーテープが作られ数年にわたって各国のフルトヴェングラー研究家を検討された。発売後、信憑性についての問題は現在のところ提起されていない。ただ、オリジナル録音は曲の最後の10小節が欠落しており、別の演奏者のテープを利用して修復されている(→伊Cetra: FE21解説文、但し、この修復の件については同解説文のイタリア語の部分でしかふれられておらず英語の解説文では何故か言及されていない)。チェトラが予告後たびたび発売を延期したのはこの修復のためであったといわれている。

フルトヴェングラーの戦後のレパートリーではベリオーズはあまり大きなウェイトを占めていないが、戦前ではかなりの比重を占めている。たびたびご紹介するヘルツフェルトの著作では1911年より1940年までの全演奏回数として、「ベンヴェヌート・チェリーニ」序曲が26回、序曲「ローマの謝肉祭」16回、ロメオとジュリエットが11回、幻想交響曲が9回、「海賊」序曲が9回、その他を合わせて合計93回という数字が挙げられている(→F. Herzfeld: 「Wilhelm Furtwängler」, p152, 1941, Leipzig)

●バッハ/ブランデンブルク協奏曲第3番②

ウィーンpa, 8月31日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。
⑦米Discocorp: RR515.
③3/30: C: WS●OW7825, OZ7594※
▶1930年盤には欠落していた両楽章間の2つのフリギア終止の和音は、本項では指定どおり演奏されている。

●バッハ/ブランデンブルク協奏曲第5番②

ウィーンpa, ボスコフスキー(vn), ニーダーマイヤー(fl), フルトヴェングラー(pf), 8月31日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。
⑦“u-n”: 2259012-3※
③3/30: C: WS●OW7825, OZ7594※
▶初出のプライベート盤は名称の記載がまったく無いので便宜的に“u-n”(unnamed)と略記した。以降もこの種のプライベート盤がいくつか登場するがすべて同様に記した。

●ベートーヴェン/交響曲第1番①

コンサートへボウOr., 7月13日, アムステルダム, コンセルトヘボウでの実況録音。

⑦米Olympic: 8120-7.

③3/30: Ph: Ph●SETC7501-7.

日フ協: JPI199-200※

▶戦後唯一のコンサートへボウ客演の際の貴重な録音。次項、次々項との3曲で13日(アムステルダム), 14日(シェヴェニンゲン)の2回だけ行われた。「オルセン」第1版ではこの両日の演奏会以外にベートーヴェンの「第8」を放送用に録音したかも知れない、としている(→同書, p90)が、このコメントは同書第2版では削除されている。

BEETHOVEN SYMPHONIES Nos. 1 & 4



▶Olympic8124.

全集の中の5枚目が第1と第4に充てられている。

●ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第3番③

コンサートへボウOr., 7月13日, アムステルダム, コンセルトヘボウでの実況録音。

⑦日フ協: JPI199-200※

③3/30: 日フ協●JPI199-200※

▶次項とともに日フ協盤が世界でただ1つのレコード。

●ブラームス/交響曲第1番③

コンサートへボウOr., 7月13日, アムステルダム, コンセルトヘボウでの実況録音。

⑦日フ協: JPI199-200※

③3/30: 日フ協●JPI199-200※

▶前項とともに日フ協盤が唯一のレコード。第1楽章冒頭はややこちないが曲の後半、特にフィナーレの高揚はまことに素晴らしい。

●モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」①

ウィーンpa, ウィーン国立Op. cha, グラインドル(B), ゴッピ(B), デルモータ(T), シュワルツコップ(S)他, 7月27, 31, 8月4, 18, 29日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

⑦“GAO”: EJS419※

⑦米Discocorp: RR407.

米Turnabout: THS65154-6.

伊Melodram: MEL713※.

▶J.ハントは(→Hunt: 「The Furtwängler Sound」, p20, 1982, London)米タウナバウト盤のsd.3は大部分1953年ザルツブルクの「ドン・ジョヴァンニ」の録音が使用されていると指摘している。正確には同レコードのsd.3のNon ti ti fidar, よりVendetta ti chieggi(いずれもAct I, sc.3)までの部分であるが、この部分を1953年の録音とするハントの指摘には筆者は納得出来ない。この挿入された部分の収録日はフルトヴェングラーレコードの中でもっともむずかしい問題であるので、1953年の「ドン・ジョヴァンニ」の項で詳細に検討することとしたい。

●ストラヴィンスキー/3楽章の交響曲

ウィーンpa, 8月15日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

⑦伊Cetra: FE14※

●ベートーヴェン/歌劇「フィデリオ」①

ウィーンpa, ウィーン国立Or. cha, バッツァーク(T), シェフラー(B), フラグスタート(S), グラインドル(B), シュワルツコップ(S)他, 8月22日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

⑦“BJR”: BJR112※

③3/30: C: WS●OP7530-2.

⑦“MRF”: MRF50※

米Discocorp: IGI328.

1950年(続)

●R・シュトラウス/4つの最後の歌

フィルハーモニアOr., フラグスタート(S), 5月22日, ロンドン, ロイヤルアルバートホールでの録音。

⑦“GAO”: EJS432※

③3/30: K: Cet●SLF5011.

K: SS●K17C9426※.

⑦伊Cetra: LO501.

米Turnabout: THS65116.

▶フルトヴェングラー/フラグスタートによる世界初演の際の記念すべき録音。曲は①春、②九月、③眠りにつくとき(以上ヘッセの詩)、④夕映えの中で(アイヒェンドルフの詩)の4曲。「オルセン」第2版によれば(→同書, p33), A.ジェファソン・R.シュトラウスに関する著作には本項の録音はドレスリハーサルの際に行われた、との記述があるという。

▶EJS432のレーベル。

THE GOLDEN AGE OF OPERA

KIRSTEN FLAGSTAD

(1914-1981)

Side 1

6.25 - 432-A

23 1/2 rpm LP

STEREO

1. Evening: September. Zwei Schicksale im Abendrot. First recorded 1960 with orchestra conducted by Wilhelm Furtwängler.

2. March 19, 1939, Wagner: Frauen. Schubert: Die Feme.

3. October 1, 1932, Wagner: Die Zeit der Liebe. 3rd and 4th records (Hans) conducted by Hans.

HANSA RECORDS

NOT FOR SALE

●ヘンデル/合奏協奏曲第16番(作品6-10)

ベルリンpa, 6月20日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑦“P”: P1001※

③3/30: P: G●MG6010.

⑦独DG: 2535806※.

▶宇野功芳氏は本項の演奏は通常と異なり、第5楽章と第6楽章を入れ換えて演奏していると指摘されている(→宇野: 「フルトヴェングラーの名盤」, p29, 芸術現代社刊, 昭和55年)。

▶P1001.



●ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲④

ベルリンpa, 6月20日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑦独DG: 2535164※.

③3/30: P: G●MG6004.

⑦伊Cetra: FE16※.



▶ D G 2535164

●ヒンデミット/オーケストラのための協奏曲

ベルリンpa, 6月20日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑦伊Cetra: FE22※.

③3/30: C: WS●OZ7593※.

から373小節までの2つの部分は別演奏のテープが用いられている。あとの方は明らかに「バイロイトの第9」のテープ(46小節間に現れる数ヶ所のステージ・ノイズがピッタリ一致する)であり、始めの8小節もおそらく「バイロイトの第9」だろう。フルトヴェングラーの「第9」では後述するように1954年のルツェルン盤でも「バイロイトの第9」が部分的に挿入されている例がある。



▶ K22C173.

●ケルビーニ/歌劇「アナクレオン」序曲
ウィーンpa, 1月11日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: DB21493, ②VH 7247-2/7248-3.

③3/30: T: A ● AB7152, AB8036, AB9129-3 32, HA1100, HA5061, WF14-8, WF60037※, WF70032, XLP5018-22.

▶LP復刻盤はどうか重が多く、とくにコーダの部分はひどい。初出盤には重が無いことをみるとおそらく復刻の際のエラーだろう。



▶英HMV: DB21493のレーベル写真。



▶ALP1498.
LP初出は英国で1957年9月であった。

●ハイドン/交響曲第94番「驚愕」②

ウィーンpa, 1月11, 12, 17日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: DB21506-8, ②VH 7249-2/7250-2/7251-2/7252-2/7253-1/7254-2.

③3/30: T: A ● AA7240, AA8266, AA93007, AB9129-32, EAC35004(第2楽章のみ), EAC50065, EAC70117, EAC80365(第2楽章のみ), HA1033, WF14-8, WF60034※, WF70029, XLP5018-22.

CD: T: A ● CC35-3169※.



▶HA1033. 日本
のLP初出盤

●ニコライ/歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲
ウィーンpa, 1月18日, ウィーン, ムジック

③3/30: C: WS ● OW7819, OZ7548, OZ7585※

日フ協 ● JP1191-2⑨

▶G C570234
(B)



1951年

●シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」序曲②

ウィーンpa, 1月3, 17日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨独Electrola: WALP1500.

③3/30: T: A ● AB8034, HA1085, WF14-8, WF50010※, WF60036※, WF70031, XLP5019-22.

▶オリジナル録音は78/30. SP盤としては発売されていない。復刻盤に使用されている原盤のマトリックス番号は2 V H 7233-4/7234-3/7235-4.



▶WALP/E901
53. 独エレクトローラでは最初にWALPとして発売し、後にEシリーズに番号を変えて発売するが、ジャケットはWALPのものを、単にE番号をダブらせて印刷した。

●チャイコフスキー/交響曲第4番

ウィーンpa, 1月4, 8-10日, 2月16日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: DB21376-81, ②VH 7236-2/7237-2/7238-5/7239-2/7240-2/7241-7/7242-1/7243-1/7244-3/7245-2/7246-1.

③3/30: T: A ● AB8038, AB9125-8, A B9414, HA1045, WF19-23, WF60039※, WF70034, XLP5015-8.

▶「オルセン」第1版では収録日が11月4-8日となっている。



SYMPHONY No. 4, IN F MINOR
WILHELM FURTWÄNGLER
Vienna Philharmonic Orchestra

▶LHMV1005.
LP初出は米国で1952年8月となっている。

●ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」③

ウィーンpa, ウィーン・アカデミー・オーケストラ, ゼープリート(S), アンディ(A), バッツァーク(T), エーデルマン(B), 1月6, 7, 8, 10日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの実況録音。

⑨日K: K22C173.

③3/30: K: SS ● K22C173, K19C287-8※(原盤は伊Cetra: FE33)

▶収録日はK22C173は1月10日, K19C287-8は1月7日とされているが比較試聴してみるとまったく同じ演奏。ただし、前者の第4楽章冒頭から8小節目までと327小節3拍目

▶2259012-3のレーベル。



●スウェーデン国歌・オーストリア国歌
ウィーンpa, 9月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑨"u-n": GC570234-5⑨

▶当日の公演に先立って演奏された両国歌をレコード化した極めてめずらしい例。このプライベート盤は国歌と次項の「驚愕」との間のインターバルもそっくりそのままレコード化されているため当日の会場の雰囲気がよく感じとれる。

●ハイドン/交響曲第94番「驚愕」①

ウィーンpa, 9月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑨"u-n": GC570234-5⑨

③3/30: C: WS ● OZ7511, OS7075.

⑨米Discocorp: RR399.

▶G C570234
(A)



●シベリウス/交響詩「伝説」

ウィーンpa, 9月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑨"u-n": GC570234-5⑨

③3/30: C: WS ● OZ7548.

日フ協 ● NA117⑨

▶G C570235
(B)



●R・シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」④

ウィーンpa, 9月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑨"u-n": GC570234-5⑨

⑨米Discocorp: RR460.

▶G C570235
(A)



●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」⑥

ウィーンpa, 9月25日, スtockホルム, コンサートホールでの実況録音。

⑨"u-n": GC570234-5⑨

●独DG: 2740260※

●ブルックナー／交響曲第7番③

ベルリンpa, 5月1日, ローマでの実況録音。

●米Discocorp: RR416.

●33/30: C: WS●OW7824, OZ7510.

▶先の4月23日カイロ盤とまったく同様、改訂版を基本とした演奏。第2楽章177小節の扱い方もまったく同じ。

●ドビュッシー／「夜想曲」より「雲」と「祭」

ベルリンpa, 5月1日, ローマでの実況録音。

●"DIS": DIS708②

●33/30: C: WS●OP7525, OZ7592※

▶戦後のフルトヴェングラーのドビュッシーは珍しいが、ヘルツフェルトによれば、1911年から1940年までの間にこの曲を実に36回もとりにあげている。因に、この期間では「牧神の午後への前奏曲」の16回がこれに続いている(→F. Herzfeld: 「Wilhelm Furtwängler」, p. 152, 1941, Leipzig)。

●ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲

③

ベルリンpa, 5月1日, ローマでの実況録音。

●米Discocorp: RR413.

●33/30: P: G●MG6016.

C: WS●OZ7520.

●独DG: 2740260※

●ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」

④

バイロイト音楽祭Or., 同da, シュワルツコップ(S), ヘンゲン(A), ホップ(T), エーデルマン(B), 7月29日, バイロイト音楽祭での実況録音。

●英HMV: ALPI286-7.

●33/30: T: A●AA5-7, AA7135-7, AA8188-9, AA9475-9, AA93001-2, AB8084-5, AB9117-8, AB9403-7, EAC47240-6, EAC50059※, EAC60027, EAC77240-1※, HA1012-3, HA1166(第4楽章のみ), HA5086-7, WF1-9, WF50003-4※, WF60006-7※, WF70020-1, XLP5006-10

CD: T: A●CC35-3165※.

▶不滅の金字塔。不朽の名演。ありとあらゆる賛辞がさげられた。バイロイトの戦後再開第1年目の前夜祭に演奏された折の録音。演奏に先立ってフルトヴェングラーがステージに登場する足音と万雷の拍手、コンサートマスターに冒頭の注意を与える巨匠の声などが入った通称「足音入り」は昭和36年9月新譜のXLP5006-10で始めてお目見えした。

戦後のバイロイトではフルトヴェングラーは楽劇のタクトを振ることはなかったが、本項の演奏と1954年8月9日の2度、ベートーヴェンの「第9」を指揮した。後者もテープに収められているがレコードとしては未登場である。

▶XLP5006-10のレーベル



●モーツァルト／歌劇「魔笛」②

ウィーンpa, ウィーン国立Op., da, グラインドル(B), デルモータ(T), リップ(S), クンツ(B), ゼーフリート(S)他, 8月6日, ギルツブルク音楽祭(フェルゼンライトシュール)での実況録音。

●伊Cetra: LO9.

●33/30: K: Cet●GT7093-5.

K: SS●K19C9397-9※

●ヴェルディ／歌劇「オテロ」

ウィーンpa, ウィーン国立Op., da, ヴィネイ(T), シェフラー(B), デルモータ(T), マルティニス(S)他, 8月7日, ギルツブルク

に先立って収録された。巨匠の「皇帝」は戦後では意外にもこの22日の1回だけしかない。ヘルツフェルトによれば1911年から1940年までの間「皇帝」の演奏回数は19回。

●シューマン／交響曲第4番

ベルリンpa, 3月17日, 不詳。

●伊IGC: 15.

▶収録日誤記。後述の1953年5月14日のDGスタジオ録音と同一の演奏に間違いはない。国内盤としてもかつてK: SS●K22G174, R: Le●RCL3309の2種類で発売が予告されたが、いずれも中止となった。おそらく事前のチェックで誤記と判定されたのだろう。

●グルック／歌劇「オルフェオとエウリディーチェ」

スカラ座Or., バルビエリ(B), キューデン(S), ガボリー(S), 4月13日, ミラノ, スカラ座での実況録音。

●"UOR": UORC169②

●33/30: C: WS●OP7539-40.

K: Cet●GT7096-7.

●伊Cetra: LO19.

米Turnabout: THS65112-3.

▶EIA022.



●チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」②

ベルリンpa, 4月19, 22日, カイロでの実況録音。

●独DG: 2535165※

●33/30: P: G●MG6005.

▶DGG2535165.



●ブルックナー／交響曲第7番②

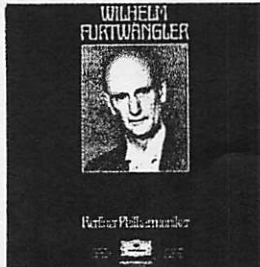
ベルリンpa, 4月23日, カイロでの実況録音。

●独DG: 2535161.

●33/30: P: G●MG6001, MG8868-72.

●独DG: 2740260※

▶DGG2535161.



▶1949年盤と同様、改訂版(シャルク校訂版)が基本となった演奏。したがって第2楽章177小節の打楽器も使用されている(この部分は1949年盤と異り、楽譜指定のとおり177小節1拍目に入っている)。

●ワーグナー／舞台神聖祝典劇「ワルジファル」より「聖金曜日の音楽」②

ベルリンpa, 4月25日, アレキサンドリアでの実況録音。

●独DG: 2721202※

●33/30: P: G●MG6016.

フェラインザールでの録音。

●米RCA: LHMV1020.

●33/30: T: A●AA8264, AB9133-5, H A1165, WF14-8, WF60038※, WF70033, XLP5023-5.

▶オリジナル録音は78/30, マトリックス番号は2 V H 7255-3 A / 7256-2 B で英 H M V : D B 21502 で発売されている。



▶LHMV1020. 英国H M VのS Pより1ヶ月はやく米国で1952年8月, L Pで発売された。

●スメタナ／交響詩「モルダウ」

ウィーンpa, 1月24日, ウィーン, ムジーク

フェラインザールでの録音。

●英HMV: DB9787-9, M2VH 7257-3 / 7258-3 / 7262-3.

●45/17: T: A●HN1019.

33/25: T: A●HB1001, HD1012.

33/30: T: A●AA7356, AA8265, AA8324, AB9133-5, EAA103, EAC50062, EAC70114, WF14-8, WF60038※, WF70033, XLP5023-5.

▶「オルセン」第1版では収録日は24, 25日の2日にわたっている。



▶FBLPI009. 米国の初LP化に約1年遅れて、フランスで10インチ盤で1953年11月発売された。曲目は次項のものと同カップリングされている。

●シューマン／劇音楽「マンフレッド」序曲②

ウィーンpa, 1月24, 25日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

●英HMV: DB9787-9, M2VH 7263-2 / 7264-2 / 7265-2.

●33/25: T: A●HB1001.

33/30: T: A●AB8036, AB9133-5, WF14-8, WF60038※, WF70033, XLP5023-5.

▶「オルセン」第1版では収録日は25日のみ。

●ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番「皇帝」

フィルハーモニアOr., フィッシャー(pf), 2月19, 20日, ロンドン, EMIスタジオでの録音。

●英HMV: DB21315-9, M2EA 15407-3 C / 15408-4 C / 15409-3 B / 15412-5 D / 15413-2 B / 15414-4 C / 15415-2 B / 15416-2 B / 15417-2 C / 15421-3 D.

●33/30: T: A●AA7134, AA8262, AA93009, AB7151, AB8117, AB9120, AB9403-7, EAC50068※, EAC70120, HA1031, HA5059, WF28-32, WF50008※, WF60013※, WF70046, XLP5006-10.

CD: T: A●CC35-3167※



▶FALPI21. 初LP化はフランスで、1953年3月に発売された。

▶2月22日のフィルハーモニアOr.との演奏会



ウィーンp, 10月22日, シュトゥットガルトでの実況録音。

⑨独DG: 274021※。

⑩33/30: P: G ● MG8868-72。

⑪米Discocorp: RR557※。

▶国内盤は原典版(ハース版)による演奏とされているが正しくは改訂版(1896年のレーヴェ校訂版)による演奏である。

●ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲⑤

北西ドイツ放Or., 10月27日, ハンブルク, ミュージックホールでの実況録音。

⑫仏フ協: SWF8201-2②

▶ただ一度客演した北西ドイツ放Or.との協演の際の録音。当日は本項と次項および「ヴァイオリンとチェロのための2重協奏曲」というオールブラームスプロであったが、不幸にして「2重協奏曲」だけ録音が無い。国内盤としては日フ協が会員に限定頒布した仏フ協: SWF8201-2のみである。

北西ドイツ放Or.(現在は北ドイツ放Or.と名称を改めている)は、1945年にハンブルクの北西ドイツ放送(現在の北ドイツ放送)がシュミット・イッセルシュテットに委嘱して組織した比較的新しいオーケストラ。1972年までの27年の永きにわたってイッセルシュテットの薫陶を受け、その後、アツモン、テンシュテットを経て現在はヴァントが首席指揮者の座にある。イッセルシュテットと同Or.の伴奏によるジネット・ヌグーのブラームスの「ヴァイオリン協奏曲」(1948.5.3のライヴ, Ph: Ph ● 30PC15)はレコード史上不滅の名盤の誉れが高いが、本項のフルトヴェングラーによるブラームスもそれに肩を並べる名盤。

▶SWF8201-2。

SOCIÉTÉ
WILHELM FURTWÄNGLER

Furtwängler

●ブラームス/交響曲第1番④

北西ドイツ放Or., 10月27日, ハンブルク, ミュージックホールでの実況録音。

⑬仏フ協: SWF8201-2②

▶前項と同様、目下のところ国内盤は日フ協限定頒布の仏フ協: SWF8201-2のみであるが、RVCが国内での発売を予告している。

訂正

10月号

●260頁, 中段, 上から3行目, L G M 1104の次にM G 1482を追加。

●262頁, 中段, 下から15行目, 「英 Unicorn: W F S 5」→「日フ協 ● N A 117②」

●262頁, 中段, 下から11行目の次に, 日フ協 ● N A 117②, を追加。(檢山)

本年が巨匠の没後30年にあたるため、国内各社から現在も多くのレコード(含CD)が新発売されています。これら新発売盤も出来るかぎり本ディスコグラフィへの収載につとめていますが、原稿執筆と印刷との間に約2ヶ月以上の期間があるため、必ずしも全部が網羅されていません。これら新発売盤で収載もれのものにつきましては、本連載の最終回に一括して掲載いたしますのでご了承下さい(檢山)。

●マーラー/さすらう若人の歌①

ウィーンp, フィッシャー=ディースカウ(B),

8月19日, ギルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

⑭伊 Cetra: LO510。

⑮33/30: C: WS ● OS7071※。

K: Cet ● SLF5005※。

K: SS ● K17C9426※。

▶この演奏がフィッシャー=ディースカウのギルツブルクへのデビューとなった。関係者の回想によれば当日のギルツブルクは雨、演奏会は午前11時に始まっている。この協演に先立ち、前年の8月にフルトヴェングラーは当時ギルツブルク・モーツァルテウム劇場の長であったエーベルハルト・プロイスナーの家でディースカウの唱うブラームスの「四つの厳かな歌」の私的な演奏を聴き、この若き歌手の類いまれな才能に驚嘆し、早速、翌年のギルツブルクへの招へいを約束、それが本項の協演となって実現した。この2人の初めての出会い、先の「オテロ」の項でのべたビーバーの著作(同書p121)に詳細な記録があり、また、今回の展覧会プログラムにディースカウが寄稿した文章の中でも自身が回想している。

●ブルックナー/交響曲第5番②

ウィーンp, 8月19日, ギルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

⑯加 Rococo: 2034。

⑰33/30: C: Ro ● DXM179-80, OC7137-8, OP7518-9。

⑱米 Discocorp: RR508。

▶1942年盤と同様、原典版(ハース版)によるノーカット演奏。

▶DXM179-80。



●グルック/歌劇「アルチエステ」序曲②

ベルリンp, 9月5日, ベルリン, シラー劇場での実況録音。

⑲独DG: 2535804※。

⑳33/30: P: G ● MG6008。

▶DGG2535804。



●ラヴェル/スペイン狂詩曲①

ウィーンp, 10月22日, シュトゥットガルトでの実況録音。

㉑伊 Cetra: FE15※。

▶国内盤は目下のところ未出。

▶FE15。



●ブルックナー/交響曲第4番「ロマンティック」①

音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

㉒「MRF」: MRF45②

㉓33/30: C: WS ● OP7533-5。

K: Cet ● GT7101-3。

㉔米 Discocorp: IG1342。

伊 Foyer: FO1018。

▶フルトヴェングラーのヴェルディは極めてめずらしい。この「オテロ」もしぶる巨匠を、当時の音楽祭会長ブトン男爵とアイネムの強引な説得の結果実現したというエピソードをオットー・ビーバーが紹介している(→ビーバー:「ウィーン・フィルハーモニーとギルツブルク」(芹沢訳), p123, 文化書房博文社刊, 昭58年)。この1951年の公演が好評だったため、翌1952年のギルツブルク音楽祭でも巨匠の指揮でふたたび上演が計画されたが、フルトヴェングラーの急病の為、急遽マリオ・ロッソ(当時RAIトリノ放Or.の指揮者)が代役をつとめた。

●ベートーヴェン/交響曲第7番第2楽章リハーサル

ルツェルン音楽祭Or., 8月15日, ルツェルン音楽祭(エズイト教会堂)での実況録音。

㉕仏フ協: SWF7401②

㉖33/30: C: WS ● OS7072。

日フ協 ● JPL1006②

CD: C: WS ● 35C37-7296※。

㉗米 Discocorp: RR476。

▶第2楽章99小節から188小節までのリハーサルが収録されている。戦後のフルトヴェングラーのリハーサル録音は目下のところ次の7点が確認されている。

- ①フルトヴェングラー/交響曲第2番, 第2楽章, ベルリンp, 1948.2.22, ベルリン。
- ②ブラームス/交響曲第4番, 第4楽章, ベルリンp, 1948.11.3, ロンドン。
- ③ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第3番, ストックホルム・コンサート協会Or., 1948.11.12, ストックホルム。
- ④ベートーヴェン/「レオノーレ」序曲第2番, ベルリンp, 1950.6.11, プレーメン。
- ⑤ベートーヴェン/交響曲第7番, 第2楽章, ルツェルン音楽祭Or., 1951.8.15, ルツェルン。
- ⑥シュベルト/交響曲第3番「未完成」, 第1楽章, ベルリンp, 1951, ベルリン。
- ⑦ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」, 第3第4楽章, バイロイト音楽祭Or. 他, 1954.8.9, バイロイト。

▶SWF7401。



SOCIÉTÉ

WILHELM

FURTWÄNGLER

●メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」③

ウィーンp, 8月19日, ギルツブルク音楽祭(フェストシュビールハウス)での実況録音。

㉘独フ協: F667497-8②

㉙33/30: C: WS ● OZ7590※。

K: SS ● K22C289※。

▶F667497-8。



名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その⑦



未レコード化の録音をのぞく

松山浩介

フルトヴェングラー・ディスコグラフィも終盤にさしかかったので、このあたりで未レコード化の録音についていくつかのニュースをご紹介しておきたい。もともとこの種のレポートはうっかり筆が走りすぎると海賊盤屋のようちん持ちになりかねないので、確実

な点にしぼって話をすすめてみよう。

フルトヴェングラーの未レコード化の録音はまだあと一〇〇点はこえるとみられているが、録音状態などを考慮すると将来、何らかの形でレコード化が可能とみられるのは三十点からせいぜい五

十点と思われる。さらにこのうちでもレコード化に際しての諸手続き——アーティスト・アプルーバルを始めとした契約上の諸手続——の問題があり、おそらく前記の半分も陽の目をみれば「よし」としなければなるまい。もともと今までに登場したレコードもすべてがオーソライズ盤（公認盤）では無いので、今後この傾向とともに既出のノン・オーソライズ盤にかわって正規のレコードが登場することも多いにあり得るだろう。

このような中で契約上の見通しもあり、しかも内容としても最重要なものとしても期待されているのが一九五一年三月四月のスカラ座における「バルジファル」全曲のレコード化である。巨匠の「バルジファル」は戦中のEMIへのスタジオ録音と戦後のエジプトでのベルリンPbとの「聖金曜日」以外にはオーソライズ盤は無く、とくに米Discorpの一九三七年バイロイトと称するものが本連載でも指摘したようにまっ赤なニセモノであったので、このスカラ・バルジファルに寄せる期待は大きい。この録音は仏フ協の一九七七年十月の会報で存在とEMIによるレコード化のニュースが報じられて以来、一日も早い登場が待たれているが、確実なニュースでは来年（一九八六年）の巨匠生誕一〇〇年を期して我々の耳にふれることになりそうだ。メーデル（クンドリー・バイラー（バルジファル）

エーデルマン（アムフォルトス）などのキャストで五ステージ（三月二十四、二十七、二十九日、四月一、四日）上演されたこの「バルジファル」は戦後の巨匠の唯一の演奏として極めて貴重な記録だ。

フ協会報によれば、リガ在住の同協会会員からのレポートとしてブライムスのピアノ協奏曲第二番（フィッシャーのソロではなく、エードリアン・エッシュバツハーのソロ、一九四三年十二月二十五日の録音）の存在が確認されたむね報じられている。レポートの文意からみて、この録音は昨年（一九八三年）十二月にモスクワ放送でオン・エアされたと思われるが、はたしてフィッシャー盤を出したメロディアにこのうえエッシュバツハー盤を期待するのはいかがなものだろうか。

それは仏フ協盤のEMIによる一般発売の計画である。目下仏フ協だけでレコード化されているものがいくつもあり、重要な録音のため入手希望の声が多いが、同協会盤が会員への限定頒布盤であり一般には入手が不可能のため、何らかの方法での商業盤化が待ち望まれていた。EMIによりレコード化されるのは全部で十数点といわれているが内容については明らかにされていない。しかし、仏フ協盤のリストから判断してすでに協会盤以外のノン・オーソライズ盤として種々のレーベルで出ているもの——たとえばベートーヴェン／ピアノ協奏曲第一番、ブラームス／「第一」（北西ドイツ放音）——も多いが、仏フ協盤が唯一のもの、たとえば自作の交響曲第二番（一九五四・三・三十、南ドイツ放音）などもあり、これまた待ち遠しい。

ここ数年、鳴りをひそめているソ連メロディア盤については志鳥氏の近著でも触れておられるようにソ連の関係者の間ですら五里霧中のありさまらしいが、最近の英



THE BERLIN PHILHARMONIC PLAYS



▶ SPL716, 次の三項の曲目も収録されている。

●シューベルト/交響曲第8番「未完成」第1楽章リハーサル

ベルリンpa, 不詳。

◎米Period: SPL716。

◎33/30: C: C・OL5001, OS7076※。

Ph: F・SFON10582。

▶前項と違い、収録場所は映画からはちょっと判断がつかねる。

●R・シュトラウス/交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

③

ベルリンpa, 不詳。

◎米Period: SPL716。

◎33/30: C: C・OL5001, OS7076※。

Ph: F・SFON10582。

▶本項もティタニアバレエに間違いない。該当する演奏日は、1949年6月19日、1950年6月17、18、19日の4回が考えられるが、いずれであるか判断する手懸りは無い。

「オルセン」第2版(→同書, p42)にはエール大学のフックスベルグの言として、本項の録音には2ヶ所のテープの継ぎ目があり、中間部分は両側とは別演奏で、その部分はおそらくフルトヴェングラーではないだろう、との記述がある。たしかにフックスベルグが指摘するように2ヶ所の継ぎ目——1つは154小節目、もう1つは474小節目と475小節目の間——があり、両端部分と中間部分は音質が相当異なり、収録のバランスも違って指摘のとおり別演奏と推定されるが、さりとて中間部分を非フルトヴェングラーとみるフックスベルグの見解を受け入れる理由は見当たらない。映画では曲の始めと終りはフルトヴェングラーが写し出されており、丁度この中間の挿入部分にほぼ相当する部分は一組の男女のダンスシーンに置きかえられていて先の指摘に合致するようにも見受けられるが、この映画の公開はフルトヴェングラーの存命中であり、仮りにフックスベルグの言うような「ふきかえ」が行われていたとしたらおそらく巨匠は映画の公開を拒否したと思われる。中間部分が別人の特定の録音であるとする積極的な証拠でも認められない限り、非フルトヴェングラーとみるのは早計、というのが編者の考えである。

●モーツァルト/交響曲第40番第4楽章

ベルリンpa, 不詳。

◎米Period: SPL716。

◎33/30: Ph: F・SFON10582。

▶非フルトヴェングラー盤。指揮者はB・ワルター。映画では明瞭にワルターの姿が映し出されているのにサウンド・トラック盤でどうして表示がフルトヴェングラーになったのだろうか。

1952年

●ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」

④

RAIローマ放Or., 1月10日, ローマでの実況録音。

◎米Olympic: OL8120/7。

◎33/30: Ph: Ph・SETC7501-7。

◎伊Cetra: FE5※。

▶フルトヴェングラーはこの年の年明け早々にローマへおもむき上述のオーケストラとともに、ベートーヴェン/「第5」「第6」(いず

ラモフォンからの巨匠のSP盤はすべてヴァリアブル・ピッチでカットされているため、平均して一面当たり約7分が収められている。

●シューベルト/交響曲第9番「グレイト」③

ベルリンpa, 12月, ベルリン, イエス・キリスト教会での録音。

◎独DG: LVM72153-6。

◎78/30: P: G・LVM50001。

33/30: P: G・LGM49-50, LGM1010, LGM1070-6, LXM10, MG1442, MG6007, SLGM1442, SMG9020。

◎独DG: 2740260※。

▶収録日は単に12月としかされていないが「オルセン」第1版では11月との記述があり、少なくとも前項の12月5日より前であることはエリーザベト夫人の回想録に本項の収録後の余った時間を利用して前項の録音が行われたむねの記述がある(→E.フルトヴェングラー:「回想のフルトヴェングラー」(仙北谷訳), p127, 白水社刊, 昭57年)ことから明らかである。初出盤のマトリックス番号は: 03142/03143/03144/03145/03146/03147/03148/03149。

●フルトヴェングラー/交響曲第2番①

ベルリンpa, 12月, ベルリン, イエス・キリスト教会での録音。

◎独DG: LVM72159-64。

◎33/30: P: G・LGM1070-6, SMG9020, SMG9022。

日フ協・MI2431-2②

◎独DG: 2721202

▶初出盤のマトリックス番号はオルセンは不明としているが編者の手許に在るテスト・プレス盤によれば: 03152/03153/03154/03155/03156/03157/03158/03159/03160/03161/03162/03163の12面の6枚。ヴァリアブル・ピッチのカッティングに依っているため、たとえばsd.8は実に8'5"もの長時間が収録されている。

近着の仏フ協会報によれば、日フ協: MI2431-2②が今回、仏フ協会員へも頒布されることになった模様。本項の録音は最近、独DG盤が廃盤になったため入手が困難になっている折でもあり、この国際交流は有意義な取り組みといえよう。



▶独DG: LVM72159のレーベル写真。フルトヴェングラーのSP盤の中でも希覓盤に数えられるもの。編者の経験では1926年の魔弾の射手序曲、1939年の交響的協奏曲第2楽章(フルトヴェングラー), および本項初出盤の3つのSP盤がもっとも入手がむずかしい。

●ワーグナー/楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲(断片)

ベルリンpa, 不詳。

◎米Period: SPL716。

◎33/30: Ph: F・SFON10582。

▶本項ははじめ以下の4つの録音は映画「フルトヴェングラーと巨匠達」(原題: Botschafter der Musik, 1951年, 西独スタウト社製作)のサウンド・トラック盤。映画で見る本項の演奏場所は明らかにティタニアバレエと見られるので、映画製作年以前での此所でのこの曲の演奏は1949年12月18、19、20日の3日間のみで、このうち19日の演奏は独DG系でレコード化されており本項とは違った演奏であるので、おそらく18日か20日のいずれかが本項の演奏と思われる。

1951年(続)

●ベートーヴェン/序曲「コリオラン」③

ウィーンpa, 10月29日, ミュンヘン, ドイツ博物館での実況録音。

◎英Decca: ECM684。

◎33/30: K: L・GT9110-1, K15C5038※, MX9011, MZ5122。



▶ECM684, 次項の曲とカッティングされている。

●シューマン/交響曲第1番「春」

ウィーンpa, 10月29日, ミュンヘン, ドイツ博物館での実況録音。

◎"MRF": MRF45④

◎33/30: C: C・DXM170。

K: L・K15C5038※, MX9011,

MZ5122。

▶上述の国内盤以外に日本製と思われるプライベート盤"MF": MF18862-3④がある。

●ブルックナー/交響曲第4番「ロマンティック」②

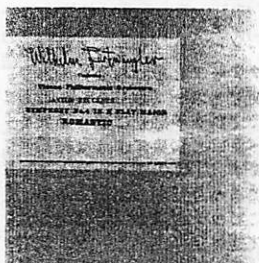
ウィーンpa, 10月29日, ミュンヘン, ドイツ博物館での実況録音。

◎"MF": MF18861④

◎33/30: K: L・K15C5037※, MX9012, MZ5121。

日フ協・TPR1160④

▶10月22日のシュトゥツガルト盤と同様、改訂版による演奏。



▶MF18861。

●ハイ든/交響曲第88番①

ベルリンpa, 12月5日, ベルリン, イエス・キリスト教会での録音。

◎独DG: LVM72157-8。

◎78/30: P: G・KVM20005-6。

33/25: P: G・LG1098。

33/30: P: G・LGM49-50, LGM121, LGM1012, LGM1070-6, MG6018, SLGM1441, SMG9020。

◎独DG: 2740260※。

▶本連載第3回(9月号収載)の「ハードウェアさまざま」でもふれたように、戦後のグラモフォンへの録音はすべてテープに収録されているため、初出盤のマトリックス番号はLP盤のそれと同程度の意味しかもたないが参考までに記すと: 03138/03139/03140/03141の4面2枚。本項を始めとした戦後のグ



▶DX119, 米国初出盤。箱入りの豪華ジャケットで発売された。次項の曲とカッティングされている。

山:「ステレオ芸術」, 昭56年8月号, p110.)
その後あらたに判明した点も含め, 以下, 要
点を整理しておく。

まず, 3つのレーベル関係をみてみると,
言うまでもなく②は①の国内盤で, ①にはレ
ーベルに「Issued under license from the
Vienna Philharmonic, Prof. Paul Badura-Skoda
and the Estate of Wilhelm Furtwängler, with
the kind cooperation of Decca Records (London
Records, U.S.)」との記載があり, ②にもOW
7826にはジャケットのタスキに同じ意味の文
章が印刷されているので①と②は当然同じも
のと考えられる(最新盤のOZ7602は編者は未
見のため確言は出来ないが, 同盤はOW盤の
再発と発表されているので両者は同じと見て
いだろう)。③はカナダ・キャビア原盤とさ
れているが編者はカナダ盤は確認していない
(加CaviarというHistorical recordingのレーベル
(CHシリーズ)は実在する)。

まず, 極めて明瞭な問題から見てみよう。
まったく同じであるはずの①と②の喰い違い
の問題だ。両盤の喰い違いは全曲で2ヶ所あ
り, 1つは第3楽章25小節から24小節まで
の15小節が②にはチャンと存在するの①に
はまったく影も形も無いことだ。①のこの部
分にはハッキリしたテープの継ぎ目があるの
で出盤は何かの理由でこの15小節が切り
取られたのだろうが, ①に在って②に無いの
なら話は分かるが, 逆のケースというのも奇妙
な話だ。喰い違いの2つ目は第1楽章にある
が, この楽章はこの喰い違いを含めて深刻な
問題をなげかけており, この楽章において先
にのべたように3盤がまったく違っているの
だ。一般に, 2つ以上の録音の異同を検討す
る場合, 手懸りとしては使用譜, 演奏の特徴,
ノイズなどが用いられるが, とくにライブ録
音の際は収録されているノイズ——ステージ
ノイズ, あるいはオーディエンスノイズ(聴
衆ノイズ)と呼ばれているもの。喰ばらばら
をはじめとして多種多様な音があり, メンゲル
ベルクのマタイに入っているすり泣きは一
番有名な例——が有効な手懸りとなる。この
「第22番」もライブ録音(おそらく中継放送
のエアチェックテープと思われる)であり,
多くのノイズがマーカー(目じるし)として
利用出来るのでそれを手懸りに第1楽章を分
析すると驚くべきことに次のような結果が明
らかとなる。まず, ①②のグループと③は冒
頭からして, まるっきり別の演奏である。③
は前者に比べてビッチが低い(ほぼ半音低い)。
③のビッチの問題は後にふれる)が, 演奏そ
のもののコンセプトがまったく異なっている。
まず冒頭の和音は③では極端に長く引き
のばされているが①②はほぼ楽譜指定の長さ
で, 次いで5小節目に③には大きな物音が入っ
ているが①②にはまったく無い。さらに, 10,
11, 12小節に出る弦のオクターブの跳躍もま
ったく違って(③は3小節とも2拍目の4分
音符を短くスタッカートで弾かせている。
とくに10小節のそれが顕著)いる。①②と③
の違いはこのまま進み, オーケストラの前奏
が終わってピアノソロの入る79小節以降で3盤
が一致する。ところがこのあと160小節を境
にして今度は①と②③の間に違いが出て来る。
ふたたび3盤が一致するのは再現部に入って
からの272小節からであるが, この間約110小
節のあいだにも明瞭なノイズが数多く収録さ
れているが①と②③とはそれがまったく喰
い違っている。先にのべた①と②の違いの2
つ目の例が此所だ。このあと現在のベレン
ライター版による282, 283小節が3盤ともま
ったく脱落しているが, これはこの2小節が
抜けている旧モーツァルト全集によった演奏
とみれるのでここは問題でない。つまり第1
楽章は仮りに79小節までをA, 80~160小節を
B, 161~271小節をC, 272小節以降をDとす
ると, ①はA:B:C:D, ②はA:B:C'
:D, ③はA':B:C':D, という関係になる。
冒頭にのべたようにフルトヴェングラー
による「第22番」は録音が残されているとし
てもただ一種類のはずであり, そうするとA,

フェラインザールでの実況録音。

⑨独Electrola: IC14953420~6.

⑩33/30: T: A ●EAC60156, WF60021※



UNINEDIT. UNINEDIT. UNINEDIT
LE DOUBLE CONCERTO
POUR VIOLON ET VIOLONCELLE

●ブラームス/ヴァイオリンとチェロの ための2重協奏曲

ウィーンpo, ボスコフスキー(vn), ブラベッ
ツ(vc), 1月27日, ウィーン, ムジックフェ
ラインザールでの実況録音。

⑨独Electrola: IC14953420~6.

⑩33/30: T: A ●EAC60156, WF60021※

▶没後25年を記念して1979年にはじめてレコ
ード化された。巨匠の指揮した「2重協奏曲」
は本項以外にもう一つ, 1949年8月24日のル
ツェルン音楽祭の折の録音があるが(ソリス
トはシュナイダーハーン(vn)とマイナルディ(vo)),
この方は現在確認されているテープは中継放
送のエアチェックテープで, 第1楽章の後半
に相当長い部分にわたって録音ミスがあるた
めレコード化は困難とみられている。したが
って本項の録音がわれわれの耳に出来る唯一
のフルトヴェングラーの「2重協奏曲」と思
われる。

●ブラームス/交響曲第1番⑤

ウィーンpo, 1月27日, ウィーン, ムジック
フェラインザールでの実況録音。

⑨日T: WF60072

⑩33/30: T: A ●WF60072※

▶没後30年を記念してレコード化された。巨
匠とウィーンpo.によるブラームスの「第1」
は1947年11月のスタジオ録音以外にもう一つ,
1947年8月13日のザルツブルク音楽祭での実
況録音があるがレコード化はされていない。

●モーツァルト/ピアノ協奏曲第22番

ウィーンpo, バドゥラ=スコダ(pf), 1月27日,
ウィーン, シェンブールン宮殿での実況録音。

⑨米Discocorp: AUDAX765.

⑩33/30: C: WS ●OW7826, OZ7602※

K: SS ●K20C77※

▶巨匠のレコード中, ザルツブルクの「ドン
・ジョヴァンニ」と並んでもっとも問題の多
いレコード。まこと摩訶不思議としか言いよ
うがない。

まず, この曲の演奏記録からみてみたい。
戦後の巨匠の演奏記録をくってみると, この
曲は本項収録のオリのただ1回だけしかない。
戦前・戦中の記録をさかのぼっても, 毎回引
用するヘルツフェルトやヴァッカナーゲル
の著作にもこの曲の演奏はリストアップされ
ていない。つまり, このモーツァルト「ピアノ
協奏曲第22番」は1952年1月27日のウィー
ンにおけるものが巨匠の生涯での唯一の機会
であったとみてまず間違いない。したがって仮
りに録音が残されていたとしても, それはた
だ一種の録音であるはずだ。ところが, 上に
かかげた, ①初出盤, ②日C盤, ③日K盤は
3盤とも1月27日収録と明記されているにも
かかわらずどれ一つとして同じでない。収録
場所については①には記載はなく, ②はウィ
ーン, ③ではザルツブルクとされている。因
にこの1月27日は, 26・27・28日の3日間お
こなわれたウィーンpo.定期の中日にあたり,
27日は定期がムジックフェラインザールで午
前11時から(前3項はその折のもの), 本項の
演奏はモーツァルトの誕生記念日演奏会とし
てモーツァルト協会主催でシェンブールン宮
殿で午後5時からおこなわれている。したが
って日K盤のザルツブルクは誤りである。
編者はかつてこれら一連のレコードをめぐ
る問題について検討をおこなったが(→検

れも1月10日), 「第3」「ピアノ協奏曲第4」
(いずれも1月19日), ワグナー「ワルキュ
ーレ第1幕」(1月15日, トレブツフ, コネッ
ニ他)を演奏したが, このとき実験的にステ
レオ録音が行われたのでは, とみられる形跡
がある。上記のうち「ワルキューレ」を除い
た4点の録音は現在, 伊Cetraレーベルで発
売されているが, そのうち本項のFE5とFE6
の「第3」は再生してみると明らかにL-R
差信号が存在している。他の2盤(FE2, FE
7)にはまったくそれが認められない。連載第
3回でふれたように晩年のフルトヴェング
ラーの録音のいくつかは明らかに複数チャネ
ルの録音として残されており, 現行のステレ
オ録音のような明確なステレオ感とは得られ
ないまでも正確なカッティングでレコード化
されたならばそれなりの貴重な記録となり得る。
この点については次号の前文で詳述したい。



▶Olympic8120~
7のボックス。



▶SET C7501
~7. 日本盤のボ
ックス。

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

⑦

RAIローマ放Or., 1月10日, ローマでの実況
録音。

⑨米Olympic: OL8120/7.

⑩33/30: Ph: Ph ●SETC7501~7.

Ph: F ●PL1020.

⑨伊Cetra: FE7※



▶F-PL1020,
日フォンタナよ
り, 1926年の「第
5」とカップリ
ングされて「二
つの運命」と題
して一枚にまと
めて発売された。

●ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番

②

RAIローマ放Or., スカルビーニ(pf) 1月19日,
ローマでの実況録音。

⑨米Discocorp: RR441.

⑩33/30: C: WS ●OZ7550, OZ7595※

⑨伊Cetra: FE2※

●ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」

③

RAIローマ放Or., 1月19日, ローマでの実況
録音。

⑨米Olympic: OL8120/7.

⑩33/30: Ph: Ph ●SETC7501~7.

⑨伊Cetra: FE6※

●ブラームス/ハイドンの主題による変 奏曲⑥

ウィーンpo, 1月27日, ウィーン, ムジック

いところを見ると、おそらく何らかの形で録音は残されている可能性はある。因にスカラ座でのフルトヴェングラーの演目はこの「マイスタージンガー」以外は全て録音が確認されている。



▶ C-O 27511.

●ラヴェル/スペイン狂詩曲②

RAIトリノ放Or., 3月3日, トリノでの実況録音。

⑨「DIS」: DIS708⑨

⑩33/30: C: WS⑨OP7525, OZ7592※

●ブラームス/ヴァイオリン協奏曲②

RAIトリノ放Or., デ・ヴィットー(vn), 3月7日, トリノでの実況録音。

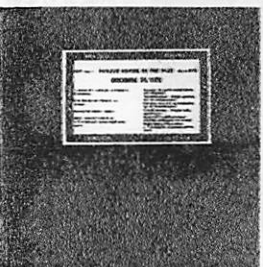
⑨加 Rococo: 2027.

⑩33/30: C: C⑨DXM159.

C: Ro⑨OC7142, OP7521,

OS7119※

▶ヴィットーとフルトヴェングラーの協演はトリノでの本項とメンデルスゾーンのほか、1948年9月8日エディンバラでのベートーヴェン「3重協奏曲」(ヴィットー, マイナルディ, ミケランジェリ, サンタ・チェチリア音楽院Or.)という夢のような演奏が記録されているが、残念ながら録音は確認されていない。



▶ Rococo 2027.

●ブラームス/交響曲第1番⑦

RAIトリノ放Or., 3月7日, トリノでの実況録音。

⑨加 Rococo: 2017.

▶レコードは目下のところ初出盤のみであるがRVCが国内盤の発売を予告している。

●シュベルト/劇音楽「ロザムンデ」序曲③

RAIトリノ放Or., 3月11日, トリノでの実況録音。

⑨米 Discocorp: RR405

⑩33/30: C: WS⑨OZ7518, OZ7590※

●メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲①

RAIトリノ放Or., デ・ヴィットー(vn), 3月11日, トリノでの実況録音。

⑨加 Rococo: 2027.

⑩33/30: C: C⑨DXM159.

C: Ro⑨OC7142, OP7521,

OS7119※

K: SS⑨K22C289※

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕への前奏曲⑤

RAIトリノ放Or., 3月11日, トリノでの実況録音。

⑨伊 Cetra: FE43※

⑩33/30: K: SS⑨K20C402-4※

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」④

RAIトリノ放Or., 3月11日, トリノでの実況録音。

⑨伊 Cetra: FE43※

⑩33/30: K: SS⑨K20C402-4※

●ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」

⑤

ウィーンpa, ウィーンアカデミーor., ギューデン(S), アンディ(A), バツァーク(T), ベール(B), 2月3日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの実況録音。

⑨「u-n」: 2259012-3⑨

⑨加 Rococo: 2109.

▶編者の知る限りではレコードは上掲の2種類しかなく、いずれも音が悪いが、演奏は誠に見事なもので、あるいはクオリティの高いテープがレコード化されたならばパイロイト盤に比肩する評価が得られるかも知れない。

●ベートーヴェン/大フーガ①

ベルリンpa, 2月10日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨独 DG: LPM18859.

⑩33/30: P: G⑨LGM1137, MG6013, SL

GM1452, SMG9020.

⑨独 DG: 2535813.



▶ LPM18859.

1964年4月のドイツ発売盤。

●オネゲル/3楽章のための交響曲

ベルリンpa, 2月10日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨伊 Cetra: FE15※

▶1933年3月26日に巨匠とベルリンpa.によって世界初演されている。

●シュベルト/交響曲第8番「未完成」

③

ベルリンpa, 2月10日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨独 DG: 2535804.

⑩33/30: P: G⑨MG6008.

⑨独 DG: 2721202

●ブラームス/交響曲第1番⑥

ベルリンpa, 2月10日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨独 DG: 2535162.

⑩33/30: P: G⑨MG6002.

⑨独 DG: 2721202



▶ DG 2535162.

●ハイドン/交響曲第88番②

RAIトリノ放Or., 3月3日, トリノでの実況録音。

⑨米 Discocorp: RR399.

⑩33/30: C: WS⑨OS7075※, OZ7511.

▶本年1月のローマでのRAIローマ放Or.客演に引きつづき、2月下旬よりミラノとトリノで約20日間にわたって9回の演奏会をもっている。1つは2月29日, 3月4, 6, 9, 12, 16日の6ステージのスカラ座での「マイスタージンガー」, 及び、3月3日の本項をはじめとして7, 11日の3回にわたったRAIトリノ放Or.とのコンサートで、これは全曲録音が残されており、「レオノーレ第3番」, 「死と宴客」(いずれも3日), 「未完成」(11日)以外は全てレコード化されている。「マイスタージンガー」の録音についてはいろいろ噂はあるもののスカラ座当局が「存在せず」とは言明していな

A, B, C, D, のどれかが非フルトヴェングラーということになる。ところで③のビッチの問題であるが、かつて編者が前述誌上でこの「第22番」問題を検討した折に、一読者から「A'はAのビッチが下っただけのものと同じ演奏ではないか」との指摘をいただいたことがあったが、この点は先に触れたように単にビッチの問題ではなく明らかに別演奏である。たしかに③は①②に比べてほぼ半音(正確には半音よりやや高い)低い。因に、正規の回転数で3盤の第1楽章のラップタイムを測ると、①: 13'05", ②: 13'03", ③: 13'49"となるが、回転数可変のプレーヤーで③のビッチを①②にそろえて再生すると13'06"となり3盤の間で差は無い。ところが問題の79小節までの部分に限ってみると①②(つまりA)の2'15"に対し③(A')はビッチ修正しても2'21"と明らかに曲の始めの部分の③はテンポが遅い。いったいどちらをフルトヴェングラーとみるべきだろう。あるいは両方ともフルトヴェングラーではないのだろうか。ここで思い出されるのは①(それも初版盤のこ)に付けられていたスコダのこの曲の演奏会の回想録の内容である。②のOW 7826の解説にはこれの大意が書かれているが、それによると巨匠のモーツァルトは堂々と威厳があり、テンポはどちらかと言えば遅い方に属するがフレーズはたいへん自然なものであった、という。あえてAとA'のいずれかを選ぶならA'(つまり③)の方であったのではないだろうか。さらに、あえて大胆な推理を行うとすれば、A'より始まり、B, C, Dとテープの継ぎ目が認められず、全体が一貫したものと考えられる③がこの時の正確な録音と考えるのが妥当ではないだろうか。ところがごく最近になって、この推理を否定するようなレコード、それもオーソライズ盤が登場した。仏フ協: SWF8401-2⑨がそれである②とまったく同一である。本来ならばオーソライズ盤が存在する場合はそれがもっとも信頼すべきものとされるはずであるが、「オーソライズ盤」という權威だけでは先の正確な録音と断定し切れないところに本項の深刻な問題がある。ましてや①②に記載のある「オーソライズ盤」風の「おすみつき」を持った両盤の間にすら喰い違いが存在するとなると本項の決定はもっと慎重になる必要があるというものだろう。とくに仏フ協盤はかつて1937年パイロイトの「神々のたそがれ」という大ミスをし、ハミルトンと編者の指摘の結果廃盤にしたという前科があり(→「レコード芸術」, 昭59年8月号, P265), かつて加えてこれもごく最近、一読者から編者に寄せられた指摘により、同協会盤の、それもことあるうにスタジオ録音の複製盤に重大な疑問が出て来た(未発表)ので、本項の同協会盤の「オーソライズ」に対しては編者は態度を留保いたしておきたい。いずれにしてもまことに頭の痛いケースである。

▶ AUDA X765.



▶ SWF 8402.



▶A●WF33-6は収録日が1948年3月と誤記されている。前項の「さしかえ事件」がおこったため、フルトヴェングラー/フラグスタートのコンビによる録音はこれが最後となった。次項とともに前項の「トリスタンとイゾルデ」の録音完了後の余った時間を利用して収録された。

●マーラー/さすらう若人の歌②

フィルハーモニアOr., フィッシャー=ディースカウ(B), 6月24, 25日, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

⑨英HMV: ALP1270.

③3/30: T: A●AA7335, AB7082, AB8032, AB9408-11, EAA197, EAC70122, GR70041※, HA1022-3, HA1166, HA5067, WF33-6, WF60032※, XLP5023-5.



▶HA1022-3. 東芝では、フィッシャー=ディースカウの「冬の旅」とカップリングして、二枚組の箱入りで初発売された。

●ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」

⑤

ウィーンpa, 11月24, 25日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALP1041.

③3/30: T: A●AA7239, AA8265, AA9475-9, AA93003-4, AB8057, AB9114, AB9398-402, EAA103, EAC35003(第1楽章のみ), EAC40022(第1楽章のみ) EAC47240-6, EAC50062※, EAC70114, HA1027, HA5057, WF1-9, WF50007※, WF60009※, WF70018, XLP5001-5.

CD: T: A●CC35-3163※



▶ALP1041. 1953年11月英で初発売。

●ベートーヴェン/交響曲第1番②

ウィーンpa, 11月24, 27, 28日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨米RCA: LHMV700.

③3/30: T: A●AA7372, AA8261, AA9475-9, AA93008, AB7155, AB8084-5, AB9116, AB9403-7, EAC35003(第4楽章のみ), EAC47240-6, EAC50064※, EAC70116, HA1048, HA5086-7, WF1-9, WF60001※, WF70016, XLP5006-10.

CD: T: A●CC35-3166※



▶LHMV700. 1955年2月, 米で, 1953年10月録音の「フィデリオ」全曲との組合せで三枚組箱入りで発売された。

[追加] 1952年6月10-22日<トリスタン>全曲, 国内盤。A●B9148-52, XLP5038-42. 1952年6月24, 25日<さすらう若人の歌>国内盤。A●A7640-1, A●A8159, A●A8168-9, A●A9528-31, A●B9133-5, E●A55080, H●A5091-2.

集て除かれている)というオマケまでついている。



▶DIS3702のレーベル。

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」

フィルハーモニアOr., 王立Orch., ズートハウス(T), フラグスタート(S), グラインドル(B), フィッシャー=ディースカウ(B)他, 6月10-22日, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

⑨英HMV: ALP1030-5.

③3/30: T: A●AA9301-5, AB9435-9, HA1110-5, WF45-9, WF60059-63※

以下は本項全曲録音より「第1幕への前奏曲」と「愛の死」を組合せたもの。

33/30: T: A●AB8032, AB9122, AB9408-11, WF60032(「愛の死」のみ)※, XLP5011-4.

以下は本項全曲録音より「第3幕への前奏曲」のみをレコードとしたもの

45/17: T: A●HN1002.

33/30: T: A●AB7156, AB8103, AB9121, AB9408-11, WF24-7, XLP5011-4.

▶EMIへのフルトヴェングラーのスタジオ録音では本項から初めてテープ録音が採用された。長時間にわたる連続録音が可能になったことにより、本項の録音を通して、巨匠のレコードへの認識が改まったといわれている。もっともこの録音では第2幕第2場でフラグスタートの唱うイゾルデのCの音が、シュワルツコップの声によってさし変えられるという有名な事件——すでに高令でフラグスタートにはCがむずかしかったため、プロデューサーのW・レグが妻のシュワルツコップに唱わせて、ひそかに差しかえた、というのが真相らしい——が起り、事態を知ったフラグスタートがEMIとの契約を破棄するという事件があった。このため、こののちのフルトヴェングラーの録音にはフラグスタートが入っていない。



▶ALP1030-5. 1953年2月, 英で初発売された時はニッパ・マークの統一ジャケットに一枚一枚個別に収められており、後に箱入りセットとして発売される。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」

より「ブリュンヒルデの自己犠牲」②
フィルハーモニアOr., 6月23日, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

⑨英HMV: ALP1016.

③3/30: T: A●AB8032, AB9122, AB9408-11, GR2172, HA1032, WF33-6, WF60032※, XLP5011-4.



▶ALP1016. 1954年10月英で初発売。

▶FE43.



●ブラームス/交響曲第2番③

ベルリンpa, 5月7日, ミュンヘン, ドイツ博物館での実況録音。

⑨独Electrola: IC14750336-9.

③3/30: T: A●WF10-3, WF60017※, WF70001.

▶初出盤はフィナーレで2小節の脱落という大ミスがあったが、国内盤は無事。このレコードが出たことにより、EMIによる巨匠のブラームス交響曲全集が1959年の開始より実に15年ぶりに完結した。

●メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲②

ベルリンpa, メニューイン(vn), 5月26日, ベルリン, イエス・キリスト教会での録音。

⑨米RCA: LM1720.

③3/25: T: A●HD1011.

33/30: T: A●AA8173, AB9129-33, HA1009, WF28-32, WF60041※, XLP5019-22.

CD: T: A●CC35-3168※



▶HD1011. 東芝の25センチ盤。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」第3幕

RAIローマ放Or., ズートハウス(T), フラグスタート(S), グラインドル(B), コネツ

ニ(S)他, 5月31日, ローマでの実況録音。

⑨“GAO”: EJS318②

③3/30: K: SS●K20C383-4※.

▶国内盤は収録日が誤って1953年5月31日とされている。

▶EJS318のレーベル。



●チャイコフスキー/交響曲第5番

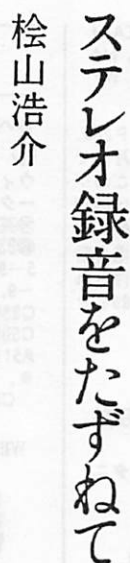
RAIトリノ放Or., 6月6日, トリノでの実況録音。

⑨“Windsor”: DIS3702②

③3/30: C: WS●OC7141, OP7514, OZ7591※

▶フルトヴェングラーのレコード中、もっとも悪評の高いもの。たしかにオーケストラの演奏は劣悪、無意味なカット(第4楽章202小節-302小節がスッポリと除かれている)など、「こんな事もあるのだろうか」と思いたくなる。その上、フィナーレのコーダの直前の終止で万雷の拍子が入る(レコードではテープ編

その⑧



◎33/30 : C : WS ● OZ7593※.

▶世界初演の前日の7日に行われたものでこの録音も残されているが、本項のは翌日の録音の方とされている。

WILHELM FURTWÄNGLER
beethoven: symphonies nos. 1-9
GMD/EMI: HANNOVER NEW WORLD BEETHOVEN SYMPHONIES
RR438.



●グルック/歌劇「アウリスのイフィゲニア」序曲①

ヘッセン放Or., 12月15日, フランフルトでの実況録音。

◎米Discocorp : RR419.

◎33/30 : C : WS ● OZ7512.

▶レコードには収録日は上述のように15日になっているが、実際の演奏会は16日おこなわれている。もし15日が正しいとすると本項の収録はオルセンが指揮するようにリハーサルの時におこなわれたことになる。次項を参照いただきたい。



▶ O Z 7512.

●フルトヴェングラー/交響曲第2番②

ヘッセン放Or., 12月16日, フランフルトでの実況録音。

◎伊Cetra : FE36※.

◎33/30 : K : SS ● K19C363-4※.

▶前項とは逆に「オルセン」第2版では収録は前日の15日のリハーサルで行われたとしているが初出盤では16日という本番の日付けとされている。初出盤のフィナーレでは終了後、聴衆の盛大な拍手が収められているのでおそらく16日というチェトラの指揮が正しいと思われる。

1953年

●ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲④

フィルハーモニアOr., メニューイン(vn), 4月7, 8日, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

◎英HMV : ALP1100.

◎33/30 : T : A ● AA7132, AA8268, AA93009, AB9119, AB9403-7, EAC50069※, EAC70121, HA1020, HA5080, WF28-32, WF50006※, WF60015※, WF70047, XLP5006-10.

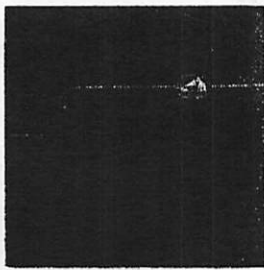
CD : T : A ● CC35-3168※.

▶「オルセン」第1版では収録日は8日のみとなっている。



▶ A L P 1100.
1954年2月イギリスで初発売。

03, AB8122, AB9121, AB9408-11, EAA153, EAC50066※, EAC70118, HA1053, HA5060, HA5093, WF24-7, WF60028※, WF70040, XLP5011-4.



▶ F A L P 289.

1954年5月仏で初発売。このジャケットは所謂「簡易ジャケット」で、この場合番号はSが付されFALP289Sとなる。

●ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」⑤

ベルリンpa, 12月7日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

◎加Rococo : 2050.

◎33/30 : C : Ro ● OC7134, OP7508.

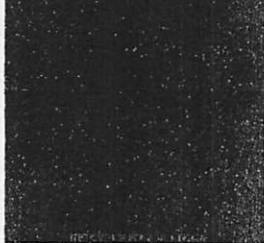
C : WS ● OW7818, OZ7584※.

日フ協 ● WFJ1◎

CD : C : WS ● 35C37-7295※.

▶フルトヴェングラー/ベルリンpaの「エロイカ」第1弾として登場したが「初出盤およびロココ・レーベルの日C盤はピッチがやや低く、そのため始めの頃はこの演奏の持っている素晴らしい音が正確に伝わらなかった。日C盤はワルター協会レーベルになってからは改善されている。本項には日フ協 : F 666848◎および日フ協 : WFJ1◎というレッキとしたオーソライズ盤があり、音のクオリティも極めて高く(ピッチも正確)まことにみごとな「エロイカ」である。レコード化に際しては音質とともにピッチの重要性を認識させた例だ。

▶ 日フ協666 848.



●ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」⑥

ベルリンpa, (12月8日), ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

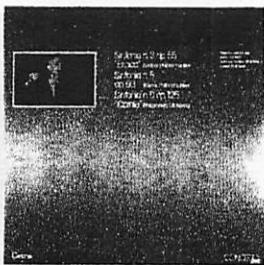
◎伊Cetra : LO530.

◎33/30 : K : SS ● K20C13, K17C9417※.

CD : K : SS ● K35Y42※.

▶初出盤には12月7日収録となっているが前項の録音とは明らかに別演奏。国内盤も当初は7日収録となっていたが最近のものは12月8日収録とされている。初出盤は予告では「1950年6月録音」とされており——記録によれば同月20日にベルリンpaとの演奏があり、録音も残されている——、本項の収録日はたして何日なのか議論が多い。前項のようなオーソライズ盤の登場が待たれるところだ。

▶ L O 530.



●ヒンデミット/交響曲「世界の調和」①

ベルリンpa, 12月8日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

◎米Discocorp : RR438.

1952年(続)

●ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」④

ウィーンpa, 11月26, 27日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

◎英HMV : ALP1060.

◎33/30 : T : A ● AA7131, AA8260, AA9475-9, AA93005, AB7081, AB8121, AB9095-9, AB9111, AB9398-402, EAA117, EAC35004(第1楽章のみ), EAC47240-6, EAC50060※, EAC70113, HA1006, HA5056, HA5111-5, WF1-9, WF50002※, WF60003※, WF70017, XLP5001-5.

CD : T : A ● CC35-3161※.

▶ A L P 1060.
1953年9月イギリスで初発売。



●ベートーヴェン/交響曲第1番③

ウィーンpa, 11月30日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの実況録音。

◎伊Cetra : FE33※.

◎33/30 : K : SS ● K19C287-8※.

▶ K19C287-8.



●マーラー/さすらう若人の歌③

ウィーンpa, ベール(B), 11月30日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

◎伊Cetra : FE29※.

▶国内盤としてはK : SS ● K22C174が発売予告されたが中止となった。

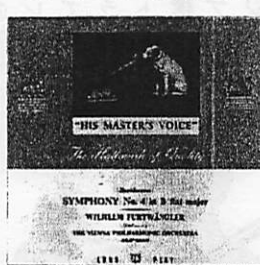
●ベートーヴェン/交響曲第4番④

ウィーンpa, 12月1, 2日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

◎英HMV : ALP1059.

◎33/30 : T : A ● AA5-7, AA7372, AA8261, AA9475-9, AA93008, AB9112, AB9398-402, EAC35003(第1楽章のみ), EAC47240-6, EAC50064※, EAC70116, HA1016, WF1-9, WF60001※, WF70016, XLP5001-5.

CD : T : A ● CC35-3166※.



▶ A L P 1059.
1953年6月, イギリスで初発売。

●ワーグナー/歌劇「タンホイザー」序曲④

ウィーンpa, 12月2-3日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

◎仏Pathé : FALP289.

◎45/17 : T : A ● HN1020.

33/30 : T : A ● AA8269, AB7151, AB81

●伊 Cetra: FE13※

▶フルトヴェングラーのオールドファンにはきつと忘れ難い思い出のある演奏。かつて昭和34年1月5日にNHKがこのテープを放送したのを記憶だろうか。当時わが国では巨匠のブラームス「第1」は未発売で(1947年スタジオ録音盤が東京よりA●HA1137として登場したのはこの年の6月だった)。この放送が日本で聴けた文字どおり最初の「第1」だった。ご承知の通りスタジオ録音盤は音が芳しくないため、当時このテープのレコード化の希望がレコード会社に数多く寄せられたという。その頃の説明では第1楽章冒頭の収録に若干ミスがあるためレコード化が見送られた、とされていたが現在の録音を聴く限りではその様な点は耳につかない。

●ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」

⑥

ウィーンpa, ウィーンアカデミーch, ゼーフリート(S), アンディ(A), デルモータ(T), シェフラー(B), 5月31日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの実況録音。

●米 Discocorp: RR460

●33/30: C: WS●OC7131-2, OW7817, OZ7588※

●モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」②

ウィーンpa, ウィーン国立Op.ch, シェビ(B), エーデルマン(B), アリエ(B), デルモータ(T), シュワルツコップ(S)他, 7月27日, 8月3, 8, 18, 28日, ザルツブルク音楽祭(フェルゼンライトシュール)での実況録音。

●"Morgan": MOR003●

●33/30: C: WS●OP7509-12, OZ7568-71※

CD: C: WS●90C37-7313-5※

●伊 Cetra: FE23※

▶フルトヴェングラーの全レコードを通じて最大の問題をばらんだもの。1954年収録と言われる同曲と合わせ、伏魔殿の模様を提示している。説明の都合上、現在1954年の「ドン・ジョヴァンニ」として発売されているものと一緒にしてコメントを加えたいので、のちに重複するが1954年の同曲のレコードをここにかけておく。

●モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」(1954年とされているもの)

●伊 Cetra: LO7

●33/30: K: Cet●GT7089-92

K: SS●K19C9393-6※

1953年と54年の「ドン・ジョヴァンニ」をめぐっては今までに多くの人から疑問が出されて来た。この疑問とは、読者もすでにご存知の通り上にかけた両年の録音はレコードの記載にもかかわらず「まったく同じ演奏」ではないか、というものでこの点に関してはハント(→J.Hunt: "The Furtwängler Sound" P20, 1982, London)をはじめごく最近でも浅里公三氏(→「レコード芸術」, 昭59年12月号, P242)の指摘にもみられるように両者ともまったく同じ演奏で、この点は筆者も異論はない。ところでこれらの演奏がはたして何年のものかについては今までのすべての指摘は1954年との記載のものも含めすべて「1953年」の演奏とされており、これに対しても別な指摘は今までに見受けられない。その理由は前掲誌で浅里氏のものに比べて居られるように1953年録音には演奏に先立って「1953年ザルツブルク音楽祭」とのアナウンスが入っている——因に、このアナウンスが入っているレコードは1953年の項の初出盤MOR003(1972年, 初出の「Morgan」はこの003ともう1つ3702という番号があり、前者はアメリカ・プレス、後者はイギリス・プレス(こちらも1972年出)とされているが、筆者は後者の方は直接聴いていないので、アナウンスの部分は確言できない) および同番号で米 Discocorpより発売(1976年)されたものの2点のみでそれ以外のすべてのレコードではアナウンスはカットされている——ことに依るものと思われる。しか

K17C9420※

日フ協●WFJ2-3●

●シューマン/交響曲第4番

ベルリンpa, 5月14日, ベルリン, イエスキリスト教会での録音。

●独 DG: LVM72361-3

●78/30: P: G●KVM20045-7

33/25: P: G●LG10, LG1044

33/30: P: G●LGM121, LGM1012, L

GM1070-7, MG6009※, SLGM1449, SMG

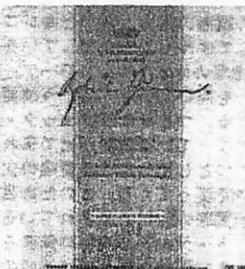
9020

●独 DG: 2721202

▶万人が認めるフルトヴェングラーの残した最高の演奏の一つ。とくに終楽章導入部の弦のさざ波の中からホルンとトロンボーンファンファーレが立ち上り、次第にクレッシェンドして行くさまは何度聴いても肌が栗立つ感じがする。

前月号の「見聞記」でもご紹介したが今回のフルトヴェングラー展に巨匠のこの曲の自家譜が出品されたのでその内容を報告しておきたい。展示されたのは第1楽章の冒頭から25小節までの4ページ分の写真版。弓使いについても細かい指示が書き込まれているが、相当だいたんなカットがおこなわれているのが目につく。まず、冒頭のトゥッティの直後オーボエが1小節3拍目から4小節1拍目までカット、続いて6小節ははじめから10小節1拍目までカット。この10小節からは14小節までティンパニーがカット、21小節の後半と次小節の前半のフルートとオーボエがカット。このあとこの22小節2拍目からの管楽器の応答にかきねられているヴァイオリンとヴィオラもすべてカットされ、弦と管の対比をうき上らせる様に工夫されている。フルトヴェングラーは演奏に際して交響曲を除いては楽譜に手を入れることはほとんど無かったといわれているが、今回はじめて公開されたこの自家譜をみる限りでは、相当手を入れた——おそらくロマン派以降で——のでは、と想像されるが……

なお、エリーザベト夫人の回想録によれば、本項の録音の際に巨匠は「ぼくのシューマン〈四番〉がでる上については1つの条件がある——楽章の途中でも、楽章と楽章の間でも、2度と中断しない(楽章の途中で録音技師が「待った」をかけたことに対して巨匠がこう注文した。松山註)という条件だね」として、全楽章切れ目なく収録したというエピソードが語られている。



▶LP 16063

1953年9月ドイツで発売された25センチ盤。

●ストラヴィンスキー/妖精の口づけ

ベルリンpa, 5月18日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

●"DIS": DIS708●

●33/30: C: WS●OP7525, OZ7592※

●ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲

⑤

ベルリンpa, シュナイダーハン(vn), 5月18日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

●独 DG: KL29

●33/30: P: G●LGM1135, MG6012※, SLGM1453, SMG9020

●独 DG: 2535809※

●ブラームス/交響曲第1番⑧

ベルリンpa, 5月18日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

●米 Discocorp: RR418

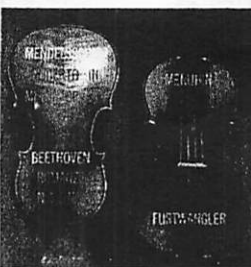
●33/30: C: WS●OB7289-92, OW7820※

●ベートーヴェン/ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス第1番

フィルハーモニアOr., メニューイン(vn), 4月9日, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

●伊 EMI: QALP10071

●33/30: T: A●AB8039, AB9129-32, HA1009, WF1-9, WF60008※, WF70022, XLP5019-22



▶QALP10071. 1954年4月イタリアで初発売。

●ベートーヴェン/ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス第2番

フィルハーモニアOr., メニューイン(vn), 4月9日, ロンドン, キングズウェイホールでの録音。

●伊 EMI: QALP10071

●33/30: T: A●AB8039, AB9129-32, HA1009, WF1-9, WF60008※, WF70022, XLP5019-24

●ベートーヴェン/交響曲第8番②

ベルリンpa, 4月14日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

●米 Discocorp: RR413

●33/30: C: WS●OZ7520, OZ7585※

日フ協●WFJ2-3●

▶後述するように1953年の収録日不詳のベートーヴェン「第8」の信ぴょう性をめぐって永らく論議があったが、エリーザベト夫人の指摘した本曲第1楽章提示部反復の有無(フルトヴェングラーは提示部反復を省略するのが常であった)が有力な決め手とみられており、夫人の指摘どおり巨匠は(他の指揮者と比べてむしろ例外的に)反復の省略を楽員に指示していたとみられるフシが本項の録音で認められる。つまり第1楽章102小節の次は巨匠の指示ではリピートの103小節になるべきで104小節目は1拍目がトゥッティでそのあとはヴィオラだけのpとなるところが本項の録音では104小節目に相当する冒頭の1小節目をクラリネットが吹いている。これは通常、反復演奏される習慣とはフルトヴェングラーの指示が異っていたため、その指示を奏者がウっかりしてしまったためのミスと思われる。

●R・シュトラウス/交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

④

ベルリンpa, 4月14日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

●独 フ協: F66624-5●

●33/30: 日フ協●WFJ2-3●

▶上記両協会盤以外にはレコードは無い。



▶独 フ協 F66624-5

●ベートーヴェン/交響曲第7番④

ベルリンpa, 4月14日, ベルリン, ティタニアバレストでの実況録音。

●独 フ協: F66624-5●

●33/30: K: SS●K22C188

1954年のザルツブルクでの「ドン・ジョヴァンニ」は8月3、6、10、13、18日の5ステージである。なお、「新世界」の項で挙げたテスト盤のディスコグラフィでは、1953年の「ドン・ジョヴァンニ」はFE23のみが挙げられており、1954年に関してはまったく記述が無い。



▶ FE23.



▶ L 07.

●モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」
ウィーンpo., ウィーン国立Op.cho., シェフラ(B), クンツ(B), シュワルツコップ(S), ゼーフリート(S)他, 8月11日, ザルツブルク音楽祭(フェストシュピールハウス)での実況録音。

◎“GMR” : GMR999◎

◎33/30 : C : WS●OP7536-8

K : Cet●GT7086-8

K : SS●K19C9390-2※

▶ J・ハントは(→J.Hunt : 「The Furtwängler Sound」, p20, 1982 London) 初出盤はその他のものと別録音のようだと指摘しているが、詳細に比較してみると多少テープの継ぎ目の違うところはあるものの演奏はすべて同一である。

この年の伯爵はシェフラが唱っているがフルトヴェングラーは最初フィッシャー・ディースカウを起用する予定であった。しかしディースカウはポンテの台本通りのイタリア語で唱わなければならないと思い込み、彼の方から断わったのだという。あとでディースカウはドイツ語で上演されたことを知って大に残念がったという(→ビーバー : 「ウィーン・フィルハーモニーとザルツブルク」(芹沢訳), p120, 文化書房博文社刊, 昭58年)。なお、ザルツブルクでの巨匠の「フィガロの結婚」は、前年の1952年に予定されリハーサルまで始められたが、急病のため急遽ルドルフ・モラルトが代りにタクトをとった。



▶ O P 7536-8.

ナウンスの存在と矛盾が生じる。つまり、「1953年」とのアナウンスがあり、そのまま演奏につながるとなると、上の推定は成り立たない。FE23とモルガン系は序曲からして明らかに別演奏であるので編者の推定が成立するためにはアナウンスと序曲との間に継ぎ目がないなければならない。はたしてこの点がどうかという問題がある。問題のアナウンスはファンファーレに続き、独、仏、伊、英語の順に「1953年ザルツブルク音楽祭」のアナウンスがあり、そのあと独語で曲の紹介、スタッフ、キャストの紹介が全部で約1分10秒にわたって入っており、このあと拍手があつて直ぐ序曲が始まっている。継ぎ目は拍手と序曲の間はテープノイズから判断してもまず継いだ形跡は無い。もっとも可能性の大きいと考えられる部分はキャストの紹介の一番最後「Masetto, Walter Berry」と言った直後に突如として拍手が起つて来るところだろう。少なくともこの部分は何らかの手が入れられている感じが濃厚だ。つまり「アナウンス(53年)→序曲から地獄落ち(54年)→6重唱(53年)」という編者の推定する図式は以上の2つの証拠で成り立つ可能性は大きい(少なくとも冒頭の継ぎ目ははっきりすればこの推定はまず動かさないとみられるだろう)。さらにこの推定を支える次の様な傍証がある。それは仮にこの推定のような継ぎ目は行われたとして、初出のモルガン系がそれを行うに足る動機が存在することだ。1953年と推定されるFE23のsd.4の後半約10分ほどに(Act 1, sc.5のIo, moroのあたりから Tutto, tutto già si saのあたりまで)テープトラブルに起因するとみられる、音質の極端な低下が認められることである。勿論これはFE23の直接のソースとなったテープの問題だけでも知れないが、もしRIASのオリジナル・テープに起因するトラブルで仮にあったとしたらフルトヴェングラーの「ドン・ジョヴァンニ」のハイクオリティ盤の初出に際してモルガン系はおそらくこのようなトラブルのままの1953年のレコード化は躊躇しただろう。さらに1954年録音は終幕の欠落があり、結局、全曲存在の明らかな「1953年」とするために1954年録音に「アライバイ工作」として冒頭のアナウンスを継ぎ、欠落した6重唱も継いで仕上げる道を選んだ、というのが、大胆との批判を承知の上で提出する編者の見解である。ぜひとも読者の方々のご検討をお願いしたい。先にのべた「調査が未了の部分があるため反論の余地が残されている」と編者が考える点の1つは、以上の編者の推定が両年ともレコードのソースとしてオルセンが指摘しているRIAS, ORF両放送局のオリジナル・テープ、またはそのコピーを用いている、という前提に対する反論である。つまりエアチェック・テープがソースとなっている証拠が出て来れば推定の根拠の1つとしている「6重唱の欠落と修復」が大きく変わってくる。このため目下編者は各国の研究家の許に収蔵されている両年のプライベート・テープの内容の調査を進めているが、今まで調べた限りでは編者の推定をくつがえす様なテープは見い出せていない。したがって1950年の同曲の項でふれたハントの指摘する挿入部分も編者は1954年の録音、とみている。しかし、この両年の「ドン・ジョヴァンニ」の録音については何らかの形で、オーソライズされた録音を聴く機会がくるまでは結論を下すことはむずかしい、というのが現在の編者の考えである。因に



▶ Morgan003.

し、編者はあえて此所で「1953年」説に異論をとない。あくまでも編者の私見であり、調査が未了の部分があるため反論の余地が残されていることを承知のうえでの提起ではあるが、編者は今までの「ドン・ジョヴァンニ」はすべて、信じられているのとは逆の「1954年」であると考えている。ただし上述のレコードの中で伊Cetra : FE23のみ他のものとはまったく別演奏で、編者はこれのみ表示通りの「1953年」と考える。以下その理由についてのべてみたい。

この両年の録音に関してオルセンの記述するところを見ると、1953年については、RIAS放送局に全曲テープが、1954年についてはザルツブルク放送局(ORF)に終幕6重唱の欠落したテープが、さらに同年についてはこれとは別に映画「ドン・ジョヴァンニ」(パウル・ツィンナー製作)のサウンドトラック、の計3つが確認されている。この両年のレコードのキャストについてはご存知のように騎士長のみ別キャスト(53年はアリエ, 54年はエルンスター(サウンド・トラックも含めて))である。ところで上に挙げた両年のレコードで今まで指摘されていない意外な事実を申し上げよう。それは先のFE23を含めすべての終幕6重唱(Act 2, sc.5の Ah, dov'è il perfido? より最後まで)がまったく同じものである、ということである。FE23とそれ以外のすべてのレコード(以下の記述ではFE23以外の全レコードを初出盤にちなんで「モルガン系」と仮りに呼ぶことにする)を比較すると6重唱の直前、つまりドン・ジョヴァンニの地獄落ち、まではまったく両者は別演奏であることは明瞭であるので、地獄落ちと6重唱の間でFE23がモルガン系のどちらかに継ぎ目があるはずと考えられる。

この両年の判別に重要な鍵を提供するものに先に挙げた騎士長の問題がある。幸いなことに54年はサウンド・トラックの方もエルンスターであり、最近ではこの映画「ドン・ジョヴァンニ」のビデオ版が比較的容易に入手出来るようになったのでハイクオリティのサウンド・トラックと上のFE23, モルガン系の2つの騎士長の比較からそれぞれの騎士長がいずれの年か(つまりアリエかエルンスターか)特定できる可能性がある。実はこの比較からの演奏年の決定についてはすでに郷太朗氏が示唆されている(→「LP手帖」, 昭52年5月号, P105)が、この結論については今までに誰からも報告はされていない。ご承知のように騎士長(石像)の登場場面はAct 1, sc.1, Act 2, sc.3, 同sc.5の3ヶ所であり台詞は多くはないが、それでもとくに2番目の教会の墓場の場面では比較に格好の言葉が多い。比較の方法は両方の騎士長の発音の特徴をサウンド・トラックのエルンスターのそれと比較することになるが、エルンスターはハンガリー人、アリエはブルガリア人であるので台詞のイタリア語の発音もそれぞれ微妙に違うはずである。編者には言語学の素養などさらさら無いが、上述の3ヶ所のすべての単語を比較の結果、「ce」の発音に双方で明瞭な違いがあるものではない、との印象を持つに至った。つまりFE23の騎士長はceを「チェ」と発音し、モルガン系の騎士長はceを「ケ」と発音している。そしてサウンド・トラックのエルンスターも「ケ」だ。(ceを含む単語はaudace, pace, pasce, celeste, cenaなどが出てくる)またrの発音の巻き舌がFE23よりモルガン系(及びサウンド・トラック)の方がやや長いのも特徴のようひ見受けられる。

この発音の違いと先の6重唱直前の継ぎ目の問題から推定できることは、モルガン系はエルンスターの唱った1954年であり、こちらの方に継ぎ目があるはず、ということである。この継ぎ目はモルガン系の各レコードによって差があり断言の出来ないものもあるが、1954年の項の初出盤、伊Cetra : L07のように極めてハッキリ継いだ跡が残っているものもある。ところがこの様に推定すると冒頭にあげたア

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その⑨



生誕一〇〇年へ向けて

松山浩介

来年一九八六年はフルトヴェングラーの生誕一〇〇年（一月二十五日）を迎える。わが国では昨年が没後三十年として各種の行事でにぎわったのは記憶に新しいが、諸外国では、むしろ来年に焦点をあてて、盛大に祝う段どりのように見受けられる。近着の英フ協会報（一九八四年六号）でも、欧米では生誕を祝うこととして格別に催

しは無かったが、一方、日本ではその持ち前の徹底性を発揮して全レコードの再版を計画し……”と特別に日本での模様を言及し、エリーザベト夫人の訪日を報じたり、会報表紙に「友社」の出版物の紹介ページをとり上げたりしている。ここでは各国の協会報を中心に、来年へ向けて計画されている行事の中から、主だったものをご紹介

しておこう。

まず、何よりもお知らせしたいのは、本格的なフルトヴェングラー伝の出版が予定されていることだ。この種の巨匠に関する書物は今までにもヘルツフェルト、リース、ガイスマール等の手になるものがあり、それぞれ貴重な情報の資料として重要であったが、未邦訳であったり、生涯の特定の時期に力点を置いたものだったりして、本格的なバイオグラフィの登場が待ち望まれていた。今回の執筆者は晩年の巨匠とも親交のあったシエンツェラー（Hans Hubert Schen-zeler、一九二五年ライプツィヒの生れ。指揮者で音楽学者）で、エリーザベト夫人の支援のもとに、現在執筆が進行中で順調に進めば来年には上梓のはいび（Marion

Boyers社より）となると思われる。前述の英フ協会報に氏より伝記の紹介と前文を兼ねた“Furtwangler Remembered”と題する3ページにわたる文章が寄せられているが、直接、巨匠から指揮についての教えも受けたこのシエンツェラー——因に氏の指揮したレコードとしては、ターンナバウトやユニコーンにベートーヴェンやブルックナーが在る——の筆になるフルトヴェングラー伝は一〇〇年に向けてのビッグ・ニュースと申せよう。このほかに出版物として目下進行を伝えられるものに、各国での戦前から巨匠の足跡をまとめた演奏会記録の編纂がある。編者が知り得ているものでも、トレマンの手に依るフランスでの記録、トリノ在住のシオラティに依るウィーンでの記録、スカイアーに依るイギリスでの記録で、この外にもミュンヘンでの全演奏記録がミュンヘン・フィルハーモニー事務局の手でまとめられ、すでに出版されているし、かつてフライブルク在住の一愛好家の手によって、同市での全記録もまとめられプログラム写真入りで出版されている。このうちイギリスでの記録は“Furtwangler and Great Britain”と題し、連載でもたびたび紹介したハントG “The Furtwangler Sound”の第二版と合本のうえ間もなく出版される。米フ協も来年に記念出版を行う計画としている。近々予定されているレコードに

ついては、先の「未レコード化の録音をのぞく」の中でいくつかが紹介したが、そのほかに英フ協が一〇〇年記念事業として巨匠のレコード作製を計画している。同協会はかつてテープの頒布は行っていたが、レコード製作は初めての試みで内容については最終決定はみていないが、多くの会員からのリクエストをもとに、おそらくポリドール録音のSP盤の復刻になると思われる。仏フ協は、間もなく一九五〇年九月二十五日のストックホルムでのウィーン・フィル・コンサートをレコード化（オーソライズ盤としては初めて）するが、これ以外に同協会でも目下レコード化が検討中と伝えられるものに、フルトヴェングラーの交響曲第三番（カイルベルト、ベルリン・フィルによる初演録音）と同じく巨匠のピアノ協奏曲（エリック・テナー・ベルク、クレーベリック、バイエルン放送）の二点があり、ぜひとも実現させてほしいものだ。

フルトヴェングラー展は日本では昨年であったが——ウィーンでは没後二十五年の一九七九年に開催された——一〇〇年を記念して来年にはロンドンで開かれる予定だ。英フ協挙げての取り組みとなる模様で、編者のもとに早々と参加の照会状が舞い込んで来た。来年少イギリスを訪れられる方は、一つ予定に組み込まれてみられては如何。



一が存命だったなら当然この歴史的な上演の
タクトをとったはずである。



▶RPL2439~41

●ベートーヴェン/歌劇「フィデリオ」③
ウィーンpo., ウィーン国立Op.cho., メードル(S),
ウィントガッセン(T), エーデルマン(B)他,
10月13~17日, ウィーン, ムジークフェライ
ンザールでの録音。

⑦米HMV: ALP1130~2

③3/30: T: A ●AA8634~6, AB9145~7,
HA1024~6, WF37~9, WF60069~71※, X
LP5035~7.

以下は本項全曲録音より「序曲」のみをレコ
ードとしたもの。

45/17: T: A ●HN1002

33/30: T: A ●AA8264, AB9111~5, AB
9398~402, WF1~9, WF60012※, WF70025,
XLP5001~5.

以下は本項全曲録音より「レオノーレ」序曲
第3番のみをレコードとしたもの。

33/30: T: A ●AA8264, AB9113, AB93
98~402, WF1~9, WF60012※, WF70025,
XLP5001~5.



▶ALP1130~2.
1954年5月, イ
ギリスで横長の
ボックス入りで
初発売された。

●ワーグナー/楽劇「ラインの黄金」②

RAIローマ放Or., フランツ(B), ウィントガ
ッセン(T), バツァーク(T), マラニウク
(S)他, 10月26日, ローマ, RAIスタジオで
の実況録音。

⑦“MRF”: MRF14⑧

③3/30: T: A ●AB9601~18, WF50~2.

⑦英HMV: RLS702.



▶MRF14. 1968
~9年, 約1年
をかけて今は亡
き, Maurice R.
Fuggettaが作り
あげた海賊盤の
大作第一作。全
巻製作には想像
以上の努力と忍
耐を要した様だ
が, 当時は大に
話題をまいた
ものである。そ
の後EMIより
正式に発売さ
れたのは, 3年
後の1972年, 7
月のことであ
った。

●ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」②

RAIローマ放Or., フランツ(B), メードル(S),
ウィントガッセン(T), コネツニ(S)他, 10
月29日, 11月3, 6日, ローマ, RAIスタジ
オでの実況録音。

⑦“MRF”: MRF41⑧

③3/30: T: A ●AB9601~18, WF53~7.

⑦英HMV: RLS702.

フィルハーモニアOr., メニューイン(vn),
9月12, 13日, ロンドン, EMIスタジオでの
録音。

⑦英HMV: ALP1121

③3/30: T: A ●AB8037, AB9133~5, HA
1003, WF28~32, WF60042※, XLP5023~5
▶フルトヴェングラーのバルトークは意外の
感があるが, 1947年7月28日付のアンセルメ
に宛てた手紙によれば(→「フルトヴェング
ラーの手紙」(仙北谷訳), p199, 白水社刊, 昭
47年), 1947年8月13日のザルツブルク音楽祭
でのメニューインとのブームスの協奏曲は,
当初フルトヴェングラーはメニューインにバ
ルトークをやろうと提案した, との記述がみ
える。「オルセン」第1版によれば収録日は13
日のみ。



▶ALP1121. 19
54年4月イギ
リスで初発売。

●シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」序
曲④

ベルリンpo., 9月15日, ベルリン, ティタニ
アパレストでの実況録音。

⑦独DG: 2535804

③3/30: P: G ●MG6008

⑦伊Cetra: FE11※

▶DG2535804.



●シューベルト/交響曲第8番「未完成」

④

ベルリンpo., 9月15日, ベルリン, ティタニ
アパレストでの実況録音。

⑦伊Paragon: DSV52101

③3/30: R: Le ●RCL3337※

⑦伊Cetra: FE11※

●シューベルト/交響曲第9番「グレイト」④

ベルリンpo., 9月15日, ベルリン, ティタニ
アパレストでの実況録音。

⑦伊Cetra: FE12※

③3/30: K: SS ●K22C185※

R: Le ●RCL3306※

●ベートーヴェン/歌劇「フィデリオ」②

ウィーンpo., ウィーン国立Op.cho., メード
ル(S), ウィントガッセン(T), エーデルマ
ン(B)他, 10月12日, ウィーン, アン・デア
・ウィーンでの実況録音。

伊REPLICA: RPL2439~41

▶1979年の没後25年記念としてオーストリア
放送協会から放送され, 始めてその存在が明
らになった。国内盤は未出である。12, 15,
18日の3ステージ上演されたうちの初日の録
音。この公演の合間をぬって次項の録音が
行われた。当時はまだ国立歌劇場(シュタ
ーツオペ)が戦災から復興していなかった
のでもっぱらアン・デア・ウィーンで公演が
行われていたが, 国立歌劇場は巨匠の没年の
翌年に再建され, 1955年11月5日にベームの
指揮する「フィデリオ」でコケラ落しが行わ
れた(このライブ録音は伊Melodram: 8でレ
コード化されている)。もしフルトヴェングラ

1953年(続)

●ヴォルフ/歌曲集

シュワルツコップ(S), フルトヴェングラー
(pf), 8月12日, ザルツブルク音楽祭(ザルツ
ブルク・モーツァルテウム)での実況録音。

⑦英HMV: ALP2114(一部分)

伊Cetra: FE30(全曲)

③3/30: T: A ●AB8101, WF33~6, WF
60033※

C: WS ●OS7071, OZ7603※

K: SS ●K22C227~8※

▶当日は次の23曲が演奏されている(演奏順。
ただし③は収録されていない) ①春に, ②妖
精の歌, ③さようなら, ④眠れる幼児イエス
(以上メーリケの詩), ⑤天象, ⑥つれない娘,
⑦心とけた娘, ⑧アナクレオンの墓, ⑨花の
挨拶, ⑩主顧祭(以上ゲーテの詩), ⑪ずっと
前から望んでいた, ⑫何を怒っているの あ
んたは, ⑬いいえ お若い方, ⑭恋人が私を
食事に招いた(以上イタリア歌曲集), ⑮私を
花でおおって下さい, ⑯主よ この大地に生
い立つものは, ⑰わが髪のかげに, ⑱口の悪
い人が何をいおうと (以上スペイン歌曲集),
⑲明るいお月様が(ケラーの詩), ⑳夏の子守
歌(ライニックの詩), ㉑夜の魔法, ㉒ジプシー
(以上アイヒンドルフの詩), そしてアン
コールとして, ㉓あけ方に(メーリケの詩)。
EMI系のレコードにはこのうち②③④⑤⑥⑦
⑨⑩⑬⑭⑯⑰⑲の13曲, 日C盤は①⑧⑩⑪
⑬⑲の6曲, 日K盤は㉓を除いた全収録曲22曲
が入っている。

この稀有の協演が実現するに至ったいきさ
つはシュワルツコップの回想によれば, 前年
の1952年12月19日にトリノで演奏されたペー
トーヴェンの「第9」(RAIトリノ放Or.他, ソ
プラノはシュワルツコップ。録音は残されて
いない)の終演後, 本項の伴奏者が未定とい
うシュワルツコップの話を聞いた巨匠が, 「私
ではどうだろうね」とほほ笑みながら申し出
たことがきっかけだったという(→シュワ
ルツコップ:「フルトヴェングラー展プログラ
ム」p13, 東芝, 昭59年)

このリサイタルは当初は収録される予定で
はなかったが, シュワルツコップの夫でEMI
のプロデューサーであったW・レグが自
らのミラノでのレコーディング・セッション
のためにリサイタルに同席できなかったの
で, のちにプレイバックするため, 特にテープに
収めさせたといわれている。

▶FE30(2).



●ヒンデミット/交響曲「世界の調和」②

ウィーンpo., 8月30日, ザルツブルク音楽祭
(フェストシュピールハウス)での実況録音。

⑦伊Cetra: FE22※

③3/30: K: SS ●K17C9425※

●ベートーヴェン/交響曲第4番⑤

ウィーンpo., 9月4日, ミュンヘン, ドイツ
博物館での実況録音。

⑦日R: RCL3333※

③3/30: R: Le ●RCL3333※

▶昨年末, RVCより登場した初レコード化
のうちの1つ。調査のための時間が無かった
ので確言は出来ないが, おそらくこのRVC
盤が世界初出と思われる。

●バルトーク/ヴァイオリン協奏曲第2
番

ウィーンpo. 不詳(年も)

⑨日C: DXMI65

⑩33/30: C: C ●DXMI65.

▶前項と同じくフルトヴェングラー盤。収録日についてはすべての資料でまったく触れていない(一部には大戦中の録音とする意見もあるが)ため便宜的にここに記載した。

1954年

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

⑧

ウィーンpo. 2月28日・3月1日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALPI195.

⑩33/30: T: A ●AA5-7, AA7133, AA8188-9, AA8319, AA9188-9, AA9475-9, AA93003-4, AB7160, AB8059, AB9111-5, AB9398-402, EAA102, EAC35003(第1楽章のみ), EAC47240-6, EAC50061※, EAC70112, EAC77240-1※, HA1001, HA5100, WF1-9, WF50001※, WF60006-7※, WF70020-1, XLP5001-5.

CD: T: A ●CC35-3162※.



▶FALP260. フランスでも、イギリスと同時に1955年2月に発売された。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」より「ジークフリートの葬送行進曲」⑤

ウィーンpo. 3月2日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALPI016.

⑩45/17: T: A ●HJ1014.

33/30: T: A ●AA8269, AB8023, AB9121-4, AB9408-11, EAA153, EAC70118, EAC50060※, HA1032, WF24-7, WF60029※, WF70041, XLP5011-4.



▶ALPI016.

●R・シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」⑤

ウィーンpo. 3月2, 3日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALPI208.

⑩33/25: T: A ●HD1034.

33/30: T: A ●AA8263, AB9125-8, AB9412-5, EAA166, EAC50067※, EAC70119, HA1007, WF24-7, WF60031※, WF7043, XLP5015-8.



WILHELM FURTWÄNGLER
Furtwängler
Richard Strauss
Symphonie Poème: DON JUAN and LA VIE EN ROSE
"His Master's Voice"

▶ALPI208.

▶多くのレコードが本項の録音を1945年1月28日のウィーンpo.とのライブ録音と誤認している。詳細は同項をご覧ください。

●ベートーヴェン/交響曲第8番

ベルリンpo. 不詳。

⑨“MRF”: MRF50⑩

⑩33/30: Ph: F ●FCM53.

Ph: Ph ●PC4.

⑩“BJR”: BJR118.

▶永らく巨匠の「第8」の初出レコードとされていたが、エリーザベト夫人が第1楽章提示部の反復——フルトヴェングラーは「第8」の演奏に際しては、第1楽章提示部の反復は行わなかったのに、この録音では提示部が反復されている——を根拠にフルトヴェングラーとされている。しかし、とくに米国においては現在でもフルトヴェングラー／ベルリンpo.による「第8」との見解が根強く、最近でも、たとえばK・DeKayの「フルトヴェングラー」とする見解が米F協会報に紹介されている(→米F協会報, 1979年3月号, P2)。また、上述のBJR118の製作の事情に通じておられる某氏より筆者に宛てられた私信によれば、BJR118のソースになったテープには冒頭に女性アナの声で「フルトヴェングラーとベルリンpo.によるベートーヴェンの「第8」」との解説があったとのことであり(レコードではカットされている)、恐らくこの辺の理由から真正盤とされているのではないかと考えられる。

一方、非フルトヴェングラーとする見解はヨーロッパを中心に強いが、とくにわが国では「クリュイタンス／ベルリンpo.」(盤)と具体的に指摘する意見もあり(たとえば「ステレオ芸術」, 昭和49年5月号, P194, 及び同誌, 同年7月号, P292 いずれも読者の投稿)。「ニセモノ」の線は動かし難い、とする声も強い。たしかにフルトヴェングラーの他の3種類の「第8」(うち2盤はオーソライズ盤)と比較すると、本項の演奏は第2楽章のコンセプトがまったく異っており、第1楽章提示部の問題をなれても非フルトヴェングラーとの印象が極めて強い。筆者もまず間違いなく「非フルトヴェングラー」とする立場である。しかし上述の「クリュイタンス／ベルリンpo.」(盤)とする指摘には賛成しがたい。このコンビによる「第8」はモノラルとステレオの2盤があるが、ソースは同一で演奏は同じものである。たしかにクリュイタンス盤(国内盤ではたとえばT: A ●EAC30003)と本項の演奏は極めて酷似しており、同一との指摘も無理はないが、詳細に比較するとどうしても別物としが思えぬ部分がある。たとえばクリュイタンス盤では第1楽章131小節にコントラバス(或はチェロ?)奏者が一人、誤って弦をはじいている音がハッキリ入っているが、本項の録音にはまったく認められない。

エリーザベト夫人の指摘は本項の真疑をめぐり論争にとって重要な意味をもっており、1953年4月14日の「第8」の項でのべた通り、提示部反復はまず行われたことは無いと思われる。つまり「非フルトヴェングラー」は動かし難い。しかしクリュイタンス盤と本項の酷似も事実で、本項の真の演奏者がクリュイタンスであることも——上述のレコードとは別演奏の——動かし難いところだろう。

●シューベルト/交響曲第2番

ウィーンpo. 不詳。

⑨日C: DXMI65

⑩33/30: C: C ●DXMI65.

▶次項とともにレコードとしては上述の米グックス原盤のものしかないが、プライベート・テープとしては永らく有名だったもの。非フルトヴェングラー盤。エリーザベト夫人とウィーンpo.は巨匠の演奏では無いと賞明している。DXMI65の解説文(小林利之氏)にも同主旨の記載がある。

●シューベルト/交響曲第3番

●ワーグナー/楽劇「ジークフリート」②

RAIローマ放Or., ゼートハウス(T), メードル(S), フランツ(B), グラインドル(B)他, 11月10, 13, 17日, ローマ, RAIスタジオでの実況録音。

⑨“MRF”: MRF23⑩

⑩33/30: T: A ●AB9601-18, WF58-62.

⑩英HMV: RLS702

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」②

RAIローマ放Or., RAIローマ放da, ゼートハウス(T), メードル(S), グラインドル(B), ユリナッチ(S)他, 11月20, 24, 27日, ローマ, RAIスタジオでの実況録音。

⑨“MRF”: MRF34⑩

⑩33/30: T: A ●AB9601-18, WF63-7.

⑩英HMV: RLS702.

▶フルトヴェングラーの指揮した最後の「リング」の録音。「ラインの黄金」のみ一夜で全曲演奏されたが、それ以外の3曲は一夜に1幕ずつ演奏された。

フルトヴェングラーはこのRAIでの「リング」全曲演奏に先立ちEMIに手紙を送り、「EMIはRAIと一緒に(レコード用として)収録してはどうか」と提案したが、EMIは応じなかった。おそらくEMIは1952年3月にフルトヴェングラーと結んだ契約の中に、将来、フルトヴェングラー／ウィーンpo.による「リング」全曲の録音計画が含まれていた——衆知のようにこの計画は巨匠の死により「ワルキューレ」のみしか実現しなかった——ことを理由にしたと考えられる。RAIでの収録(ローマのフォーロ・イタリアーノの大ホールで行われた)はそれぞれについて前日の午前・午後、当日の午前と合計3セッションのリハーサルが行われ、本番は夜に「時間厳守と風邪をひいていない」という条件で招待された演奏者の聴衆を前にして演奏された。RAIの収録は放送用録音であったが、本番と同時にリハーサル・セッションも全部収録され、本番の翌朝、巨匠とディレクターがそれらの中から放送用テープを選んだ。現在、RAIローマ放送局に保存されている録音は放送終了後RAIがチェトラに依頼してメタル原盤にカッティングしたディスクで、収録されたテープはリハーサルの録音も含め、すでに全部消去されている。メタル原盤は1面当たり平均15分入っており、マトリックス番号TOM311から364までの合計53枚に収められている。巨匠の没後、EMIはRAIにこの録音のレコード化のための交渉を持ちかけたが、エリーザベト夫人によれば(→「週刊FM」, 昭和48年6月4-11日号, P96)当初EMIは「ワルキューレ」を除いた他の3曲のみのレコード化を提案したため、全曲レコード化を主張するRAIはこの申し出を拒否したという。1972年になってやっとEMIの手による全曲のレコード化が実現したが、すでにテープが消去されたあとだったためこのレコードのソースとなったものは上述のメタル原盤から再度音取り(いわゆる「板おこし」)されたテープにさらにロンドンのEMIスタジオでイコライゼーションをほどこしたものが用いられている。

●フランク/交響曲二短調②

ウィーンpo. 12月14, 15日, ウィーンでのスタジオ録音。

⑨英Decca: LXT2905

⑩33/30: K: L ●K15C5039※, LLA10018, LY9, ML1001, MR5035, MX9010, MZ5011.



▶仏デッカLXT2905. 1954年3月イギリス初発売だが、フランスでも同一番号で、ジャケット・デザインを変えて発売された。



▶ALP1324.

●ブルックナー／交響曲第8番④

ウィーンpa, 4月10日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの実況録音。

⑨伊Cetra: FE17※.

⑩33/30: K: SS●K20C191-2※.

▶初出盤が登場以来、はたしてフルトヴェングラーの指揮したものかどうかをめぐって、とくにヨーロッパで論議が沸騰しているのが本項の録音だ。

この録音は「オルセン」には記載が無く、1979年に没後25年の記念放送の一つとしてオーストリア放送協会(ORF)からオン・エアされるまでは、まったく存在が知られていなかった。収録日については同放送の際のアナウンスで上述の日付と場所が明言されており、これは10、11日の2日間おこなわれた同曲によるニコライ・コンサートの初日にあたる。その後、1982年に伊Cetra: FE17として初レコード化が実現したが、その直後にH. Forgelが米誌Fanfareで「使用譜(版)」が1955年出版のノヴァーク版(第2稿版)であるむね指摘、さらにいくつかの演奏上の特徴からみて、フルトヴェングラーでは無いとの見解を発表した。このフォーゲルの指摘は翌1983年2月の英フ協会報(1983年1号)に転載され、以降おもにこの英フ協会報上で各国の研究者が真偽をめぐって論争をくりかえしてきた。今までに同会報上に発表された見解は、上記のフォーゲルの提起を始めてとして、Goodwin, Jacquard(以上同年1号), Schipper, Schoenfelder, Forgel(以上同年2号), Dawson-Bowling, Kluge, Forgel(以上同年3号)の9編におよび、さらにこれとは別にハンブルクのH. Kühneが独Stereophonin(→同誌1983年6月号, p604)に非フルトヴェングラー論を展開、このキューネの見解は、わが国でもディスクリポート誌を通じて紹介され(→同誌, 昭和58年8月号, p3.), それに対する反応も同誌上に発表されている(→同誌, 同年9月号, p110, 読者投稿。及び同誌同年11月号, p114, 松山稿)。紙幅の都合でここでは各論者の見解にわくなく余裕は無いが、非フルトヴェングラーとする立場(フォーゲル, キューネ等)は、いずれも本項の演奏の内容が記録されている「原典版(ハース版)」とは異なり、ノヴァーク版(フォーゲル)あるいは改定版(キューネ)に依る演奏である点を最大の論拠としており、一方、フルトヴェングラーとする立場は使用版の問題をはなれても随所に見られる特徴から巨匠のものだと判断される、との点に立っている。論争の結着はまだに付いていないが、筆者は大勢として「フルトヴェングラー」の方向、とみており、個人的見解も「本物」とする立場である。しかしキューネは、昨年7月の独フ協会報上にその後の調査をも盛り込んだ9ページにおよぶ大論文を発表し、改定版による非フルトヴェングラー論をさらに展開している。

巨匠の指揮するブルックナーは、その評価をめぐってわが国でも大きく2つに分れているが、とくに「第8」は残されている録音のすべてにわたって使用譜が異っており、演奏評価に先立つ問題として、さらに本連載のクリティカル・ディスクグラフィとしての意味もあり、ここでは巨匠のブルックナー演奏に際しての使用譜(版)の問題を「第8」を例に少々立ち入って検討を加えておきたい。「第8」以外の使用版については、個々の録音のコメントを参照いただきたい。



界最初のLP化で、しかもつい最近まで、他のどの国からも発売されなかったため、相当量海外へ輸出された。

●グルック／歌劇「アルチェステ」序曲③

ウィーンpa, 3月8日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: XLP30090.

⑩33/30: T: A●AB8031, WF14-8, WF60037※, WF70032.

日フ協●NA96⑨



▶AB8031. 日本ではイギリスに4ヶ月遅れ1968年8月発売された。

●グルック／歌劇「アウリスのイフィゲニア」序曲②

ウィーンpa, 3月8日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: XLP30097.

⑩33/30: T: A●AB8036, WF14-8, WF60037※, WF70032.

日フ協●NA96⑨

●ワーグナー／楽劇「神々のたそかれ」より「夜明けとジークフリートのラインへの旅」②

ウィーンpa, 3月8日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALP1016.

⑩33/30: T: A●AA8269, AB8023, AB9121-4, AB9408-11, EAA153, EAC50066※, EAC70118, HA1032, WF24-7, WF60029※, WF70041, XLP5011-4.

●フルトヴェングラー／交響曲第2番③

南ドイツ放Or., 3月30日. シュトゥットガルトでの実況録音。

⑨仏フ協: SWF8301-2⑨

▶3種類ある巨匠の自演盤のうち、唯一の国内未発売盤。

▶SWF8301-2.

SOCIÉTÉ
WILHELM FURTWÄNGLER

Furtwängler

Concert de 30 mars 1954 à Stuttgart

●ベートーヴェン／交響曲第1番④

南ドイツ放Or., 3月30日. シュトゥットガルトでの実況録音。

⑨米Discocorp: RR511.

⑩33/30: C: WS●OZ7555, OZ7587※.

●ベートーヴェン／「レオノーレ」序曲第2番③

ベルリンpa, 4月4、5日, ベルリン, 高等音楽院での録音。

⑨英HMV: ALP1324.

⑩33/30: T: A●AB8031, AB8036, AB9116-20, AB9403-7, HA1048, WF1-9, WF60012※, WF70025, XLP5006-10.

●R・シュトラウス／交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」⑤

ウィーンpa, 3月3日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALP1208.

⑩33/25: T: A●HD1034.

⑩33/30: T: A●AA8263, AB9125-8, AB9412-5, EAA166, EAC50067※, EAC70119, HA1007, WF24-7, WF60031※, WF70043, XLP5015-8.

●リスト／交響詩「前奏曲」

ウィーンpa, 3月3日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALP1220.

⑩33/30: T: A●AA7356, AA8260, AA8322, AB7151, AB8122, AB9125-8, AB9412-5, EAA117, EAC50060※, EAC70113, HA1053, HA5060, WF14-8, WF60038※, WF70033, XLP5015-8.

▶「オルセン」第1版では収録日は3月4日とされている。「前奏曲」の巨匠による戦後の演奏記録は本項のみで戦前・中でもわずかな回数に過ぎない。この録音もW・レグの強い希望でおこなわれたものでフルトヴェングラーはのり気であったと言われているが、皮肉にも出来上がったレコードは「前奏曲」の決定盤と云われる名盤となった。



▶ALP1220.

●ワーグナー／歌劇「ローエングリン」第1幕への前奏曲③

ウィーンpa, 3月4日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨英HMV: ALP1220.

⑩33/30: T: A●AA8269, AB7151, AB7156, AB8103, AB8122, AB9121-4, AB9408-11, EAA153, EAC50066※, EAC70118, HA1053, HA5060, HA5093, WF70024-7, WF60028※, XLP5011-4.

▶「オルセン」第1版によれば収録日は翌日の5日とされている。

●ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲④

ウィーンpa, 3月5、6日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨米RCA: LHMV19.

⑩33/30: T: A●AA8264, AB7083, AB8093, HA5101, WF14-8, WF60037※, WF70032.

▶LHMV19.



●ウェーバー／歌劇「オリアンテ」序曲①

ウィーンpa, 3月6日, ウィーン, ムジークフェラインザールでの録音。

⑨米RCA: LHMV19.

⑩33/30: T: A●AB7083, AB8036, AB8093, HA5101, WF14-8, WF60037※, WF70032.

▶HA5101. 日本での初出盤。これは1937年の「運命」とカップリングされており、これが世



パーツブッシュの演奏とみるには大いに抵抗を感じる。むしろこの第1楽章の第1稿に由来するコンセプトこそ、フルトヴェングラーの刻印、と編者はみたい。なお、先に非フルトヴェングラーとする2人の主張がノヴァーク版、或は改定版、と異っていることを紹介したが第3楽章冒頭のビツィカート、第4楽章93〜98小節のカットからみて、ノヴァーク版とするフォーゲルの見解は誤りで、キューネの改定版が正解といえよう。

いずれにしても本項の演奏は、従来のフルトヴェングラーのそれとあまりにも違っている点に問題の発端があるが、実はこのニコライ・コンサートでの「第8」がかつての巨匠の演奏と違ったものであったという記録がさいわいにも残されているのだ。それは当時の高名なオルガン奏者アントン・ノヴァコフスキー——彼は1954年12月4日、ハイデルベルクの聖霊教会で行われたフルトヴェングラーの葬儀でオルガンを演奏している——が記しているもので「フルトヴェングラーを語る」(芦津・仙北谷訳、昭49年、白水社刊に収載)それによると「……このたびの音楽の作り方が以前とは趣が変わっていました。……緊張が和らげられ、……比類ない大いなる瞑想のよう……」(同書、p258)とあり、それが使用譜の違いにおよぶものであったかについては、定かではないが、明らかに聴く者に、従来の巨匠のアプローチとは異ったものであったことを、深く印象づけるものであったことは間違いないだろう。

冒頭に記したとおり本項は1979年にオーストリア放送協会(ORF)よりオンエアされており、それには演奏に先立って女性アナの「没後25年記念放送として……」のアナウンスがあり「4月10日、ムジックフェラインザールにてオーストリア放送協会が収録」と解説が続いている。これに対して先にあげたキューネは独協協会の論文の中で言及し、ORFが放送に際し別の演奏者のテープと取り違えたのではないかと、としている(因にこの際のエアチェック・テープと伊Cetra:FE17は完全に同じ演奏である)が、今のところORFからは何のコメントも発表されていない。

●バツハ/マタイ受難曲①

ウィーンpo、ウィーン・ジングアカデミーcho、ウィーン少年cho、デルモータ(T)、フィッシャー=ディースカウ(B)、グリュンマー(S)、ヘフゲン(A)、エーデルマン(B)、ハイラー(cem)、4月14、15、16、17日、ウィーン、ムジックフェラインザールでの実況録音。

伊Cetra:Lo508.

33/30:C:Ro●OP7556~8.

K:Cet●GT7048~50.

K:SSK19C9406~8※.

▶「オルセン」第2版によれば(→同書、p59)、この4日間の公演を収録した3種類のテープが、ケルンの独エレクトローラの資料室に保存されているという。この演奏では「マタイ受難曲」の全78曲のうち、19、23、29、38、40、41、48、49、50、51、55、61、64、70、75番、の計15曲がカットされている。とくに第2部は42曲のうち12曲と3割弱が省略されている。最近ではレコードではもちろんのこと演奏会でも省略されることは稀であるが、古くは本項程度のカットはとくに演奏会では普通であったらしい。「マタイ」のライブ盤中の白眉であるメンゲルベルク盤でも、23、29、38、41、48、49、50、51、52、53、55、61、65、66、70、75番と全部で16曲がカットされている。戦後の巨匠の「マタイ」は1950年にブエノスアイレスで4回、ウィーンで1952年に3回、1954年に4回の合計11回、演奏されているがカットされている曲はその都度、若干異っている。たとえば第1部ではウィーンでの7回はいずれも同じ部分がカットされているが、第23番のコーラルは1950年のブエノスアイレスでは演奏されている。なお、いささか余談めくが、このブエノスアイレスでの「マタイ」では通常チェンバロが用いられる福音書史家の伴奏に何とピアノが用いられている。

内にはその異なる部分がどの版に由来しているかを示してある。たとえば、最初の変更はハース版第1楽章239小節に楽譜には無い、ティンパニーのトレモロが挿入されており、これはノヴァーク第1稿版(NI)247小節に依った変更を意味し、この変更は3盤すべてに存在することを示している。(下の図参照)

1944年以前の細部については知るよしもないが、少なくとも残された録音でみる限りではハース版刊行(1939年)直後からハース離れとも呼べる現象が認められる。とくに第1楽章の2ヶ所の変更が現在ではまったく問題とされていない1887年の第1稿(もっとも最近インバル盤として初レコード化が成った)によってアイディアである点は、注目してよいだろう。それにしても1954年盤はそれ以前のものに比べてあまりに違いすぎており、非フルトヴェングラー論にそれなりの根拠を与えているのも無理はない。とくにフォーゲルは当時の巨匠の健康状態とスケジュールからみて、このような大幅な変更が出来るほどの時間的な余裕は無かったであろうとしている。事実、このニコライ・コンサートの前後は4月に入って4、5、6日とベルリンpoの定期とそれと平行しての「レオノーレ」序曲第2番の収録(4、5日。於ベルリン)、そのあとウィーンにおもむき10、11日のニコライ・コンサート、続いて14、15、16、17日と同地での「マタイ」と多忙を極めていた。

非フルトヴェングラーとするグループが挙げている本項の演奏者はクナッパーツブッシュだ。しかし、それとも使用譜が改定版であることを理由としたもので、具体的に特定したものではない。たしかに本項の演奏は第1楽章の2ヶ所の変更を除いては、完全に改定版と一致する。現在、耳に出来る「第8」のレコードで改定版に依っているものは、衆知の如く、クナッパーツブッシュのみで、他の指揮者でこの版を使用した演奏は、少なくとも編者はまったく知らない。しかし今までに聴けた2種類のクナッパーツブッシュ盤は、いずれも先の第1楽章の2ヶ所の変更はまったく無く、その他のコンセプト、たとえばフィナーレの最後の3つの音の大きなリタルダントなどからみて、編者は本項をクナッ

フルトヴェングラーの「第8」演奏記録については本誌別冊「フルトヴェングラー」(昭59年刊)の渡辺和彦氏編の演奏会記録(→同誌、表40)をご覧いただきたいが、本項の検討に関係するウィーンpoとの演奏で、同記録に未収録のものを追加しておく、①1929. 10. 27(於ウィーン)、②1939. 7. 5(於ウィーン)、③1942. 3. 29(於ウィーン)、④1944. 8. 14(於ザルツブルク)、⑤1944. 10. 17.(於ウィーン)の5回で、このうち②は問題のハース版の世界初演の演奏会、⑤は本連載第3回に挙げた録音と一致する——なお、先にふれたキューネは⑤の日付を10月15日としている——。

フルトヴェングラーはブルックナー演奏に際しては、原典版の使用を固守したように一般に信じられている——これには朝比奈隆氏が晩年の巨匠の言として紹介されている(たとえば→「ステレオ」、昭43年7月号、p88)ことも大いにあざかっていられる——が、個々の録音でも指摘したように、必ずしも厳密に原典版に沿ったものとは言い難い。とくに「第8」は原典版(ハース版)との相違が録音毎に異っており、それがひいては本項の真実問題にまで発展している。目下のところ確認されている巨匠の「第8」の録音はすでに記載した、①1944. 10. 17、②1949. 3. 14、③1949. 3. 15、そして本項の1954. 4. 10、の4点あるが、②と③(ともにベルリンpo.)は使用譜は細部にわたって、当然のことながら完全に一致しているので、検討の対象としては結局、1944年盤、1949年盤、1954年盤の3点にまとめられる。記録ではすべて「原典版(ハース版)」による演奏とされているが各盤がハース版とどのように違っているかを表でご覧いただきたい。アナリーゼに使用した譜は、ハース版はブライトコップ&ヘルテル版、ノヴァーク版は第1稿版、第2稿版とも音楽学出版社版、改定版はハスリナー版である。最後の改定版スコアは現在では入手がむずかしいが、さいわい、宇野功芳氏のご厚意で氏のご所有のものを拝借することが出来た。厚く御礼申し上げます。なお、表ではハース版と異なる部分の小節を左にかかげ、それぞれの盤の異なる内容を順次記してあり()

ハース版の小節	1944年盤	1949年盤	1954年盤
第1楽章			
●239小節	ティンパニーのトレモロ挿入(㉑、247小節)	左と同じ	左と同じ
●340小節	総休止挿入(㉑、350小節)	左と同じ	左と同じ
第2楽章			
●69→88小節	チェロをビツィカートに変更(㉑と同じ)	左と同じ	左と同じ
第3楽章			
●1→14小節	——	——	コントラバスをビツィカートに変更(㉑と同じ)
●209→218小節	カット(㉑、㉒と同じ)	左と同じ	左と同じ
●269→287小節	——	——	コントラバスをビツィカートに変更(㉑と同じ)
第4楽章			
●93→98小節	——	——	カット(㉑と同じ)
●223→226小節	——	Vソロをトゥッツィに変更	(カット)
●210→230小節	——	——	カットして別の4小節挿入(㉑、㉒と同じ)
●499小節	——	シンバル挿入(㉑と同じ)	左と同じ
●587→598小節	——	——	カット(㉑、㉒と同じ)

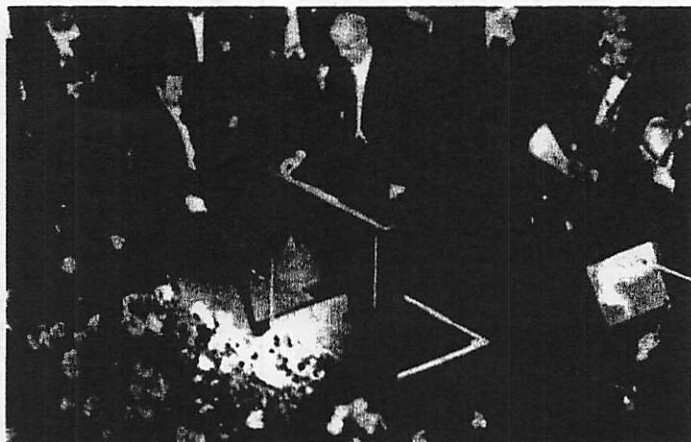
㉑:改訂版、㉒:ノヴァーク第1稿版、㉓:同第2稿版

名演奏家【クリティカル】

ディスコグラフィ

フルトヴェングラー

その⑩



忘れられた録音を追う

松山浩介

この一月号でフルトヴェングラーの未レコード化の録音のいくつかを紹介しておいたが、ここでは、かつてレコードとして登場しながら、今日ではまったく忘れられている録音についてふれておきたい。こう申すと多くの読者はきつと驚ろかれるだろうが、巨匠の

録音の中にはかつて一度は陽の目を見ながらそれ以降まったく話題にのぼらぬものがいくつかに在る。それはこの連載でも何度か指摘した七八回転盤（SP盤）の異マトリックス盤のうち「別テイク盤」とよばれるものである。

◇

SP時代の収録は現在のテープによる長時間の収録とは異なり、いかに長い曲でも七八回転の原盤一面を単位（四分強）としたこま切れ録音として行われていた。現在ではテープ編集が常識となり、不都合な部分を取り除いて別な収録テープを継ぐという手段で完全な形に仕上げられているが、SP時代は原盤の修正がきかぬため、演奏に不満のある場合は原盤一面を単位とした演奏→収録がくり返された。この、いわば同曲異演の個々の収録を「テイク」と呼び、普通はいくつかのテイクから最良の出来のものが市販用原盤として選ばれた。したがって多くの場合、市販用に使われた原盤とは異ったいわばオクラになった原盤（テイク）がいくつかに存在し、のちに廃棄されるか稀れにはそのままレコード会社の倉庫に保管されたりするが、普通はこれらの原盤は世間に姿をみせることは無い。

原盤には「マトリックス番号」という個々の番号が刻印されており、各社によってマトリックス・ナンバリング・システムは様々ではないが、通常、収録場所、収録方式、テイク番号、マザーやスタンパの製作データ等重要な資料が一連の符号として刻印されている。ところで、普通は世間に姿をみせぬオクラの原盤が、のちになつていくつかの事情から——たとえば、演奏者の不満や、製盤時のアクシデントなど——初出盤に用

いられた原盤とは異ったテイクの原盤を用いることが、稀れではあるが行われている。川合史暉氏が、かつて本紙上でワインガルトナーのそれについて詳しくふれておられたが、フルトヴェングラーも同様に、明らかに異ったテイクの原盤を使用したものが現在までに数点確認されている。これらはたとえ曲中のわずかに四分余りの部分であつたとしても、巨匠の全録音を問題とする場合は無視は出来ない。ところがSP盤として発売されているものは、たとえ別テイク原盤が使用されていても、そのむね明記されているような例はまず無い。LPに復刻された場合でも通常は使用原盤のマトリックス番号までは明らかにされていないし、仮りにいくつかのテイクが市販SP盤にあつても復刻に際してはそのうちのひとつが用いられるのみで、他のものはまったく忘れ去られてしまうのが普通だ（この復数テイクからの復刻の例として一九四七年十一月収録の「英雄」の項でふれておいた。しかも、今迄に巨匠のSP盤の別テイクについて系統的に記述した例は無く、さらにこれらの録音（とくに戦前の）がなされた当時の記録も今日ではほとんど残されていないので、別テイク探索はすべてのレコードをしらみつぶしに調査しなければならぬという困難をさけることが出来ない。

すでにお分りの様にこれらの調

査にはSP盤のマトリックス番号に関する資料が不可欠であるが、今までにフルトヴェングラーのそれについては「オルセン」1版、2版でまとめられたものが唯一のものであつたが、残念ながらいくつかの誤りと未調査が含まれていた。今回の連載で記載したものは前述の「オルセン」の欠陥を編者の調査によって得た資料でおぎなつたもので、別テイク盤についてもそれぞれの項で指摘しておいた。巨匠のSP盤のうち、別テイク盤は戦前のポリドール録音のものに未発見のものが残されている可能性があり（戦中、戦後のEMI系も皆無とは言えないが）、中でも英デッカより一九三〇年代にC Aシリーズとしてプレスされたものは多くの異マトリックス盤があるため徹底的な調査が必要と思われる。さいわいヨーロッパ——それに意外な穴場としてオーストラリア——には独ポリドール盤をはじめとして当時のSP盤がまだいくらか残っており、思いがけない掘り出し物をひろふことがある。

巨匠の全録音の調査は、もちろん未レコード化のものが当然その中心になるが、残念ながら日本に住むわれわれには、これらの探索に直接くかわることはむずかしい。しかし異マトリックス盤の調査は、日本からでも可能な仕事であるので、この方面にもぜひ関心を寄せたいものだ。



●ブラームス/交響曲第3番③

ベルリンpa, 5月14日, トリノでの実況録音。

⑨米Discocorp: RR418。

③3/30: C: WS●OB7289-92, OW7822。

Wilhelm Furtwängler ▶RR418

Brhms
the complete symphonies



●ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」

⑥

ベルリンpa, 5月15日, ルガノ, アポロ劇場での実況録音。

⑨伊Cetra: LO529。

③3/30: K: Cet●SLF5017-8。

K: SS●K17C9419※。

CD: K: SS●K35Y-44※。

▶すでに指摘したように(→松山:「ステレオ芸術」, 昭56年8月号, pl11.)本項第3楽章提示部とそのくり返しは、まったく同じテープがくり返して用いられている。

●モーツァルト/ピアノ協奏曲第20番

ベルリンpa, ルフェビュール(pf), 5月15日, ルガノ, アポロ劇場での実況録音。

⑨日フ協: NA95-6⑨

③3/30: T: A●AB8125, WF28-32, WF60041※。

K: Cet●SLF5017-8。

K: SS●K17C9424※。

日フ協: NA95-6⑨。



▶SWF XPM2273。これは仏フ協設立第1回頒布レコードで、黒ビロード地に金文字の豪華ジャケットにALBUM-1と銘打たれている。

●R・シュトラウス/交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」⑥

ベルリンpa, 5月15日, ルガノ, アポロ劇場での実況録音。

⑨伊Cetra: LO529。

③3/30: K: Cet●SLF5017-8。

K: SS●K17C9424※。

●ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」

⑦

ベルリンpa, 5月23日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨日フ協: TPR1159⑨。

③3/30: 日フ協●TPR1159⑨。

▶オーソライズ盤としては、この日フ協盤のみであるが、これ以外に日本製と思われるプライベート盤: GHE86125⑨がある。

●ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」

ウィーンpa, ウィーン国立Op, ch, ベール(B),

▶IGS008-10



③3/30: K: SS●K22C234※。

●ウェーバー/歌劇「オイリアンテ」序曲②

ベルリンpa, 5月4日, バリ, オペラ座での実況録音。

⑨独DG: 2535805。

③3/30: P: G●MG6009※。

K: Cet●SLL5001-2。

K: SS●K17C9421※。



▶DG2535805

●ブラームス/ハイ든の主題による変奏曲⑦

ベルリンpa, 5月4日, バリ, オペラ座での実況録音。

⑨伊Cetra: Lo519。

③3/30: K: Cet●SLL5001-2。

K: SS●K17C9421※。

●シュューベルト/交響曲第8番「未完成」

⑤

ベルリンpa, 5月4日, バリ, オペラ座での実況録音。

⑨日C: OZ7512。

③3/30: C: WS●OW7819, OZ7512, OZ7590※。

K: Cet●SLL5001-2

K: SS●K17C9418※。

日フ協●TPR1159⑨。

▶当日は、ハイデンの交響曲第8番が予定されていたが、直前になぜか「未完成」に変更された。



▶OZ7512

●ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

⑨

ベルリンpa, 5月4日, バリ, オペラ座での実況録音。

⑨伊Cetra: Lo519

③3/30: C: WS●OS7073。

K: Cet●SLL5001-2。

K: SS●K17C9418※。

CD: K: SS●K35Y-43※。

●ウェーバー/歌劇「オイリアンテ」序曲③

ベルリンpa, 5月14日, トリノでの実況録音。

⑨米Discocorp: RR413。

③3/30: C: WS●OZ7520, OZ7590※。



▶OZ7590

1954年(続)

●バッハ/マタイ受難曲②

ウィーンpa, ウィーン・ジングアカデミーch, ウィーン少年ch, デルモータ(T), フィッシャー・ディースカウ(B), グリュンマー(S), ヘフゲン(A), エーデルマン(B), ハイラー(ch), 4月14, 15, 16, 17日, ウィーン, ムジックフェラインザールでの実況録音。

⑨“FV”: FV12013-5⑨

▶驚くべきことに前項とはまったく別演奏。この十数年前に出たプライベート盤をお持ちの方は、幸運にも2種類の巨匠の「マタイ」をお聴きになることが出来る。さらに本項の録音では前項ではカットされている第64番の福音史家のレクティエーヴォがチャンと入っている。4日にわたる演奏でカットされた日と、演奏された日があったのかも知れない。いずれにしても極めて貴重なレコードと申せよう。

●ヘンデル/合奏協奏曲第11番(作品6-5)

ベルリンpa, 4月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨“P”: P1001⑨。

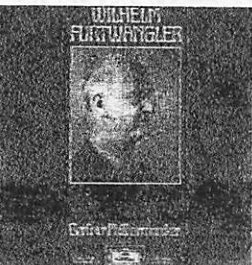
③3/30: P: G●MG6010。

●ブラームス/交響曲第3番②

ベルリンpa, 4月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨独DG: 2535163。

③3/30: P: G●MG6003※。



▶DG2535163

●ブラッヒャー/協奏音楽

ベルリンpa, 4月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨伊Cetra: FE26。

▶国内盤は未発売。

●R・シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」⑥

ベルリンpa, 4月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨独フ協: F668164-5⑨

▶レコードは上記独フ協盤のみ。



▶F668164-5

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕への前奏曲⑥

ベルリンpa, 4月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨伊Cetra: FE25※。

③3/30: K: SS●K22C234※。

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」⑤

ベルリンpa, 4月27日, ベルリン, ティタニアパレストでの実況録音。

⑨伊Cetra: FE25※。

「Wilhelm Furtwängler, Dokumente—Berichte und Bilder—Aufzeichnungen», p147, 1968, Berlin) に記載されているが、レオポルド・ルードウィヒ指揮、ベルリン国立 Op.Or. が正しい演奏者名である。問題のレコードは巨匠の指揮によるモーツァルト／セレナード第13番 (1936年録音、連載第2回収録) の独ポリドール盤第2版レコード (独 Pol: 67182-4, 1938年4月発売) の第6面にカップリングされている。フルトヴェングラーに依る本曲の録音は無い。

●ヘンデル／歌劇「クセルクセス」より「ラルゴ」

⑧英 HMV: DB6791.
▶フラグスターの独唱によるこのレコードが、かつて英国のレコード・カタログにフルトヴェングラー指揮として記載されたことがあったというが、真の演奏者名はワーウィック・ブライスワイト指揮のフィルハーモニア Or. によるものである。前項と同様、フルトヴェングラーによる本曲の録音は無い。

幻のレコード

巨匠の死去により実現をみなかった録音について若干ふれておきたい。死去当時フルトヴェングラーと契約を結んでいたのは EMI, DG, デッカの3社であるが、主要には EMI で、とくに同社と巨匠との間で更改された1952年3月の新契約にはウィーン po. とによるベートーヴェン交響曲全曲、「リング」全曲が含まれていたことはよく知られている。残念ながら前者については「第2」「第8」「第9」が、後者については「ワルキューレ」以外が——因に「ワルキューレ」の終了後、準備がととのいた第「ジークフリート」に取りかかることが予定されていた——未完に終わった。これら以外にフィルハーモニア Or. によるブルクナー／「第7」も予定されていたが、ファンとして痛恨の極みは、ホルトをソリストに迎えてシューマンのピアノ協奏曲とフランクの交響変奏曲が予定されていたが、遂に幻に終わったことだ。この録音計画については、ホルト自身が書き残しているもので間違いないと思われる (→「フルトヴェングラーを語る」(芦津・仙北谷訳), p29, 白水社刊, 昭49年) が、戦後は一度も両者の協演が実現しなかっただけに「氏の指揮のもとにあの演奏が実現できたら、わたくしの長い演奏生活のまなひとときになりましたらうにと、残念でなりません」(同書, p29) とのホルトの言葉はとりも直さず全フルトヴェングラー・ファンの声であろう。記録によれば1942年5月31日と6月1日の2日にわたってこの二人とベルリン po. によってシューマンのピアノ協奏曲が演奏されており、連載第2回でとり上げたシューベルト／「グレイツ」があるのはこの日のものであるかも知れないので、この折のシューマンも、ソ連にテープが残されている可能性は大いにあり得る。しかし、幻に終わった計画は、時宣を得た2つの曲と円熟の極みにあった両者の協演が繰りなす至高の調べは、レコード史に残る金字塔となり得たであろうことは想像に難くない。

巨匠の自作作曲レコード

フルトヴェングラーの演奏という本連載の主旨とは異なるが巨匠の自作作曲のレコードを全てここにかけおきたい。全作品については拙稿 (本紙別冊「フルトヴェングラー」または昭59年8月号) をご覧いただきたい。記載に際しては初出、国内、外国各盤は連載に準じ、一種類のみのものは国内・外国盤を問わずすべて⑨のみの扱いとした。

ウィーン po., 1953年8月30日, ザルツブルク音楽祭 (フェストシュピールハウス) での実況録音。

⑨日 R: RCL3336※.
⑨33/30: R: Le●RCL3336※.

疑問レコード

以下のいくつかのレコードは演奏者名としてはフルトヴェングラーの名は記されていないが、かつて何らかの資料で「フルトヴェングラー」として紹介されたものである。それぞれの出典、演奏者名などについては個々のコメントを参照いただきたい。

●ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」

⑨英 Allegro: 3113
⑨英 Allegro: ALL701
▶フルトヴェングラーの疑問レコードの中ではもっとも有名なもので、P・ミンチンが1969年1月の英フ協会報上で「フルトヴェングラー／BP0による戦中の演奏と思う」とのべて以来、フルトヴェングラーのエロイカと信じられているむきが今でも多い。上述の2点以外にはレコードは無いが、いずれも入手はむずかしく、昨今は「アレグロのエロイカ」と銘打ったプライベート・テープとしてすり取り引きされている。レコードにはフリッツ・シュライバー指揮、ドレスデン国立オーケストラと記載されているが、これらはいずれも偽名で、初出の米アレグロから1950年代初めにこれらの名前が出た約30枚のレコードはすべて別人の演奏の盗用であったことが判明している (このうちでもっとも有名なものは1954年3月に世界初の「リング」全曲として発売されたもので、のちになってこの演奏が、1953年8月のパイロイトでのカイルベルト指揮のものエアチェック・テープによったものであったことが、この時のウォータン役のH・ホッターの指摘で判明した)。したがってこの「英雄」も誰のものであるか永らく詮索が続けられて来たが、編者はかつてこの「アレグロのエロイカ」について論じ (→松山:「ステレオ芸術」, 昭56年6月号, p118), その中で第3楽章スケルツォの反復が省略されていることを主な理由として「非フルトヴェングラー」の見解を明らかにした。最近ではB. Lejay が仏フ協: SWF 8203-4 ⑨の解説文の中で編者と同じくスケルツォ反復省略を理由として非フルトヴェングラーとし、さらにアーベントロートに依るものの可能性が大きいことを指摘している。オルセンは彼のディスコグラフィ第1版の中でE・ヨッフムのものであるとしている (→同書, p90) が、この見解は同書第2版では削除されている。このように「アレグロのエロイカ」の正体は未だにはっきりしないが、演奏の内容は数ある「英雄」の中でも屈指の名演の1つに編者は数えたい。



▶英 Allegro ALL701

●モーツァルト／歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」序曲

⑨独 Polydor: 67184
▶藤田不二氏編の「フルトヴェングラーのディスコグラフィ」(→「フルトヴェングラー大全集」第7集解説書, p16, 東芝, 昭37年6月) およびヘッカーの著作 (→K. Höcker:

(1951.10.27, 北西ドイツ放Or.) など——を含む19点の録音が放送され注目を集めたが、この放送を聴いた多くの在欧の研究者の言によれば、この時の「英雄」は本項の演奏ではなく、現在1952年12月8日とされているものと同じものであったという。12月8日の「英雄」の項でものべたように同項の収録日についても伊テトラの初出の折から問題があり、先の放送による証言に誤りがなければ、本項と12月8日の2つの「英雄」は信じられている日付が逆である可能性すらあると思われる。因に12月8日収録もRIASの手に依っている。

●R・シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」⑦

ベルリン po., 1951年5月1日, ローマでの実況録音。
⑨伊 Cetra: FE44※.
▶国内盤は未登場。

●ハイドン／交響曲第88番③

ウィーン po., 1951年10月22日, シュトゥットガルトでの実況録音。
⑨日 R: RCL3337※.
⑨33/30: R: Le●RCL3337※.

FURTWÄNGLER ▶RCL3337



●ベートーヴェン／交響曲第1番

ベルリン po., 1953年1月15日, ハンブルク, ミュージックホールでの実況録音。
⑨日 R: RCL3333※.
⑨33/30: R: Le●RCL3333※.
▶発売予告では初めは上述の日付けであったがその後1954年9月9日ベルリンとされ、実際に発売されたものでは再び最初の日付けとなった。しかし、1954年9月19日の項でものべたように本項の演奏はかつてこの日付けで伊モヴィメントムジカから発売されたものとまったく同じである。因に、RVOが一度予告した1954年9月9日には巨匠の演奏会はなく、あるいはモヴィメントムジカの9月19日の意味であったのかも知れない。

本項の日付けとされている1月15日は同日から20日までの6回 (なんと連日だ!)、ベルリン po. とドイツ国内をベートーヴェン／第1とフルトヴェングラー／第2という同一プロで楽旅した際の初日にあたると、今まではこの6日間の録音は存在しないとされており、「オルセン」第2版にもまったく記載が無い。本項の日付が正しいか伊モヴィメントムジカの言う日付が正しいか目下のところ判断する資料は無いが、後者の録音は古くから存在が確認されており、プライベートテープとしても知られているものだけに1954年とする方が正しいのではなかろうか。なお、録音回数については本項は先の⑤ (1954.9.19) と同一であるのでここでは省いておく。

●シューベルト／交響曲第9番「グレイツ」⑤

FURTWÄNGLER ▶RCL3333



SM93314

WILHELM FURTWÄNGLER
VIOLINSONATE D-DUR



WOLFGANG MULLER-ROSE, VIOLONE
RUDOLF DENNINGER, KLAVIER

SM92814-5

WILHELM FURTWÄNGLER
KLAVIERQUINTETT



QUATUOR ELYSEEN

Mars: 307909 Z

aus eigenen Werken



●ヴァイオリン・ソナタ第1番

- ①ツァマー(vn), シュビーデル(pt).
②独Colosseum: 30057-8

●ヴァイオリン・ソナタ第2番

- ①ツァマー(vn), シュビーデル(pt).
②独Colosseum: 30057-8

- ②ミューラー=ニシオ(vn), デンネマルク(pf)
③独Da Camera Magna: SM93314
④33/30: Ph: Ph X7716

●ピアノ五重奏曲

- ①エリーゼン弦楽四重奏団, D・ベル
リク(pf)
②独Da Camera Magna: SM92814-5※

以上の諸レコード以外に自作曲のレコード
では無いが、巨匠の没後25年記念として下記
のレコードが作られている。

- Karla Höcker, liest aus eigenen Werken.
③独Mars: 307909Z

▶内容は題名通りK・ヘッカー女史の自作
品の朗読レコード。A面に“Die nie ver-
gessenen Klänge”, B面に“Ein Kind von
damals”のそれぞれ抜粋が入っているが、
A面の著作はフルトヴェングラーと女史
との交遊からの貴重な思い出が語られて
いる(未邦訳)。さらに両面の語りのあい
間にフリードリッヒ・セームの作曲した
巨匠にささげる小曲がイルマ・ホーフマ
イスターのピアノで弾かれており、セーム
の曲には巨匠の交響曲第2番よりのい
くつかのテーマが用いられている。

●交響曲第2番

- ①ベルリンpa, フルトヴェングラー(cond),
1951年12月, ベルリン, イェス・キリス
ト教会での録音。
②独DG: LVM72159-64
③33/30: P: G LGM1070-6, SMG
9020, SMG9022
日フ協 ●MI2431-2④
④独DG: 2721202

- ②ヘッセン放Or., フルトヴェングラー(cond),
1952年12月16日, フランクフルトで
の実況録音。
③伊Cetra: FE36※.
④33/30: K: SS K19C363-4※.

▶K19C363-4

FURTWÄNGLER
EDITION
Furtwängler
SYMPHONY No.2 IN E MINOR



- ③南ドイツ放Or., フルトヴェングラー(cond),
1954年3月30日, シュトゥットガルト
での実況録音。
④仏フ協: SWF8301-2④

- ④大阪po., 朝比奈隆(cond), 1984年7月2
日, 東京, 文化会館大ホールでの実況録
音。
⑤日V: VIC2397-8※.



▶VIC2397-8

●交響曲第3番

- ③バンベルクsa, カイルベルト(cond),
によるプライベート盤(おそらく1967年
のバンベルク聖ドミニコ教会での実況録
音)が在るというのが編者は未確認。

●テ・デウム

- ①ベルリンpa, ベルリンp.cho., E・マティ
ス(S), S・ワーグナー(A), G・フェ
ルデン(T), W・ドゥーリー(B), ハンス
・シェミン=プティ(cond), 1967年3月
12日, ベルリンでの実況録音。
②“MS”: 20875④

▶映画「フルトヴェングラー、その生涯の秘
密」の中に、この演奏の折のワンショットが
登場する。

●ピアノとオーケストラの為の交響的協奏曲

- ①ベルリンpa, フルトヴェングラー(cond),
E・フィッシャー(pf), 1939年8-9月,
ベルリンでの録音。
②独Electrola: DB4696-7
③33/30: T: A WF28-32, WF60
013※, WF70046,
日フ協 ●JP1101-2④
▶第2楽章のみ。

- ②ロスアンジェルスpa, メータ(cond), バ
レンボイム(pf), 1971年1月28日, ロスア
ンジェルスでの実況録音。
③米Phorion: LP9001
▶全曲録音

上記2点以外に1939年収録という全曲のプ
ライベート盤があるというが編者は未確認。



▶1948年4月17日プ
エノアイレスのテア
トロ・コロンの演奏会
のプログラム。ブル
クナーの第4番とワ
グナーが3曲。

Konzertdirektion Rönisch, Dresden-A.1
Weissenhofstraße 24

Donnerstag, den 29. Januar 1931, abends 8 Uhr
im Gewandhaus

KONZERT

des
Berliner
Philharmonischen Orchesters
Dirigent: Dr. Wilhelm Furtwängler

Vortragsfolge

1. Brandenburgisches Konzert Nr. 3 . . . Bach
Gdur für Streichorchester
2. Sinfonie Nr. IV E-moll Op. 98 . . . Brahms
Allegro non troppo
Andante moderato
Allegro giocoso
Allegro energico e passionato
3. Overture zu „Neues vom Tage“ Hindemith
(Konzertfassung)
4. Feuerwerk Stravinsky
Der Feuerkopf und sein Tanz
Reigen der Pantomimen
Militärischer Tanz des Königs Knätsch
Berceuse - Finale

Konzertflügel Rönisch, Weissenhofstr. 24

Diese und andere Plätze einzeln kaufen, die für Konzerte schließt nicht
geeignet. Die Plätze werden während der Vorträge
Aussagen vorbehalten

KONZERTDIREKTION RÖNISCHE, DRESDEN-A.

Mittwoch, den 8. Oktober 1930, abends 8 Uhr
im Gewandhaus

Beethoven-Abend

des
Berliner
Philharmonischen Orchesters
Dirigent: Dr. Wilhelm Furtwängler

VORTRAGSFOLGE:

- Sinfonie Nr. II D dur Op. 36
Adagio molto - Allegro con brio
Larghetto
Scherzo (Allegretto)
Allegretto
Leonoren-Ouverture Nr. II
Fasst
Sinfonie Nr. V e-moll Op. 67
Allegro con brio
Andante con moto
Allegro
Allegro

Einzelne Plätze einzeln kaufen, die für Konzerte schließt nicht
geeignet. Die Plätze werden während der Vorträge
Aussagen vorbehalten

▲1930年10月8日ドレスデンでのコンサート
のプログラム。

▲1931年1月29日ドレスデンでのコンサート
のプログラム。

名演奏家【クリティカル】 デイスコグラフィ フルトヴェングラー 最終回

フ協がSWF8504としてレコード化を予定している。

●ヘンデル／合奏協奏曲第16番(作品6-10) ②

ベルリンpa, 1944年2月7, 8日, ベルリン, 国立歌劇場での実況録音。
⑨Melodiya: M10-46005000.

●モーツァルト／交響曲第39番②

ベルリンpa, 1944年2月7, 8日, ベルリン, 国立歌劇場での実況録音。
⑨Melodiya: M10-46005000.

▶待望の録音の登場。連載第3回収載の同曲(DGオリジナル)と同演奏かどうか興味の焦点だ。当日は前項, 本項およびベートーヴェン／交響曲第5番の3曲が演奏されているが「運命」は未登場。

●ラヴェル／「ダフニスとクロエ」第2組曲

ベルリンpa, 1944年3月20日, 22日, ベルリン, 国立歌劇場での実況録音。
⑨Melodiya: M10-45949008.

▶今回のメロディア盤中で最大のよび物。当日の他の2曲——ウェーバー／魔弾の射手・序曲, ベートーヴェン／交響曲第5番——がすでにレコード化されている(→連載第3回)ので, このラヴェルの登場も間違いないとみられていた。これで同日の全演目がレコード化されたことになる。

レコード番号の訂正と補足

[10月号]

●p261, 右段, 上から22行目, K20C402-4※を追加。

●p262, 中段, 下から30行目, WF50011※を追加。

●p262, 中段, 下から29行目の下に, CD: T: A ●CC35-3170※を追加。

●p262, 左段, 下から22行目, WF50005※を追加。

●p262, 左段, 下から22行目の下に, CD: T: A ●CC35-3169※を追加。

[11月号]

●p273, 右段, 上から15行目, HJ5009を追加。

●p273, 右段, 上から32行目, AB9121-4を追加。

●p273, 中段, 下から22行目, HA5093を追加。

●p273, 中段, 下から11行目の下に, XLP5019-22を追加。

●p273, 左段, 下から23行目, WF50005※を追加。

●p273, 左段, 下から12行目, AB9408-11を追加。

●p274, 右段, 上から24行目, HJ1201→HJ1021。

●p274, 中段, 上から16行目, AB7158を追加。

●p274, 左段, 下から16行目, HA5073を追加。

●p275, 右段, 上から13行目の下に, 33/17: T: A ●AA4684を追加。

●p275, 右段, 上から15行目, AB7160を追加。

●p275, 右段, 下から20行目, HJ5010を追加。

●p275, 中段, 下から26行目, EAC35003→EAC35003(第4楽章のみ)。

●p275, 中段, 下から27行目, AB8092を追加。

●p275, 左段, 下から16行目, HJ5028を追加。

●p275, 左段, 下から3行目, HJ5028を追加。

●p275, 左段, 下から2行目, AB9129-32, HA1085を追加。

[12月号]

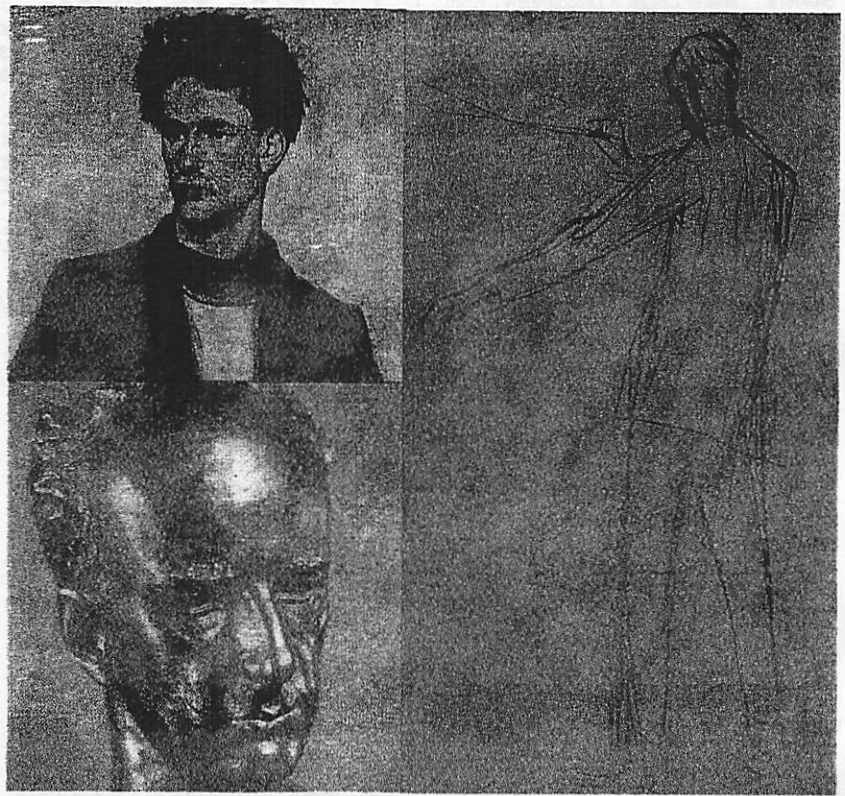
●p270, 中段, 上から12行目, AB9129-32を追加。

●p271, 右段, 上から20行目, HN1019→HN1009。

●p271, 右段, 下から9行目, HA5059→HA5058。

●p271, 左段, 上から36行目, AA9188-9, AB7154-5を追加。

●p272, 左段, 下から22行目の下に, ③33/



フルトヴェングラー・デイスコグラフィ

●デイスコグラフィ制作——桧山浩介

●シベリウス／交響詩「伝説」②

ベルリンpa, 1943年2月7, 8日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。
⑨Melodiya: M10-45909004.

▶同日のシベリウス／ヴァイオリン協奏曲は既にユニコーン系でレコード化されている(→連載第3回)が上述のメロディア盤にもヴァイオリン協奏曲がカップリングされている。ユニコーンのオリジナルは東放放送局に保管されていたテープで, 今回のメロディア盤のVn協が従来のユニコーン系とはたして同じ演奏かどうか興味深い。当日はこの2曲のシベリウスの他にブラームス／交響曲第2番が演奏されているが, レコードとしては未登場。なお, シベリウスの2曲については, 仏フ協がSWF8503として年内にレコード化を予定している。

●ブラームス／ピアノ協奏曲第2番②

ベルリンpa, A・エッシュバッハー(pf), 1943年12月12, 15日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。
⑨Melodiya: M10-45921009.

▶連載第7回の前文で紹介した録音がレコード化された。当日の他の2曲——ブラームスのハイドン変奏曲と交響曲第4番——はすでにレコード化されている(→連載第3回)ので, 今回のピアノ協奏曲の登場で全演目がそろったことになる。前項と同様, 本項も仏

補遺(続)

前月号執筆後, 次にかかげる新レコードのニュースに接した。ここ数年, 沈黙を守っていたソ連メロディアの待望の新盤で, いずれも今年に入って登場したもの。目下のところ以下の7曲(LP4枚分)が判明している。

●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より第1幕への前奏曲⑦

ベルリンpa, 1942年11月8, 10日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。
⑨Melodiya: M10-45949008

●ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」⑧

ベルリンpa, 1942年11月8, 10日, ベルリン, フィルハーモニーでの実況録音。
⑨Melodiya: M10-45949008.

▶前項とともにこの日付の定期演奏会の録音。当日はこれら以外に, フロネル／交響曲ホ長調(世界初演), ブラームス／ピアノ協奏曲第2番(既レコード化。→連載第3回)の2曲が演奏されている。



2月収録ではなく1954年3月収録である、と考へて間違いないと編者は考へる。なぜ、このようなことが起ったかについては現在のところ不明である。

●ブルームス/ヴァイオリン協奏曲①(→11月号, p274, 中段)

▶何故この曲が10月7日にルツェルンで収録されたのか、永らく不思議に思われていたが、この度発行されたレッグ・ディスコグラフィに本項は8月29日から31日までの3日間にわたってルツェルン・グントハウスで収録されたものの記述があり、さらに本項はテープによる録音が行われ、それぞれ78回転盤にカットされたものとされている。(→Sanders:「Walter Legge, A Discography」, p240, London, 1985) ルツェルン音楽祭Or.は衆知の如く同音楽祭のための臨時編成のオーケストラで、スミッソンによればこれは10月以前に解散しており(→英フ協会報, 1985年1号, p2), 従来10月7日収録では辻つまが合わない。さらにスミッソンによれば、EMIの録音記録はしばしば転写の記録を録音のセッションとして記録していることがあるというから、本項も先にテープに収録されたものを、10月7日に78回転盤にカットしたものと思われる。

初出のSP盤は連載でも紹介したように各面がわずかずつオーバーラップしているが、おそらくテープから78回転盤にカットした際に、このように手が加えられたのだろう。なお、上掲書には収録第1日目の29日に同オーケストラでワーグナー/ローエングリン・第1幕への前奏曲を録音しているという記録がある(マトリックス番号は2ZA61/62)。この録音は今までに報告されたことではなく、もちろん、レコード化もされていない。

●ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」⑥(→2月号, p198, 中段)

▶この1952年12月8日という収録日については疑問があるむね連載でも指摘したが、ハントは近著の中で伊テトラ盤, キング盤はすべて1950年6月20日としている。ただしハントは日RVO: RCL3334も同日同演奏としているが、連載でも指摘したように、テトラ系の3盤とRVO盤はまったく別演奏であるので、この点での彼の指摘は誤りである(→Hunt:「The Furtwängler Sound」, 2nd ed. p84, London, 1985)。

●シューマン/交響曲第4番(→2月号, p199, 中段)

▶初出のSP盤のマトリックス番号はオルセは不明としているが、調査の結果、04866/04867/04868/04869/04870と判明した。ただしオリジナル録音がテープであるため、このマトリックス番号も単に整理用の符号以上の意味はない。

●モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」②(→2月号, p199, 左段)

▶浅里公三氏が1954年録音の抜粋盤として仏Rudolphe: RPI2707を紹介されているが(→本誌昭59年12月号, p242), 同盤の内容は従来から知られている録音(編者のいう「モルガン系」と同じものである。

●ブルックナー/交響曲第8番④(→3月号, p197, 左段)

▶この録音の信ぴょう性をめぐって余震が続いているが、最近ハントから編者に寄せられた私信でシェンツェラー(3月号前文でふれたフルトヴェングラー伝の執筆者。ブルックナー研究者としても高名で、その著作:「Bruckner」はブルックナー研究の必読書)のこの問題についての見解が伝えられている。それによるとシェンツェラーは本項の録音は、いくつかのフルトヴェングラーの録音と多くの、典型的なフルトヴェングラーのブルックナー演奏ではない複数の演奏から出来上っているのでは、とみているらしい。とくに彼は第2楽章に非フルトヴェングラーの印象を強めているように見受けられるが、編者はこのシェンツェラーの見解は受け入れ難い。宇野功芳氏は明確にフルトヴェングラーとしておられる(→音楽現代, 昭60年3月号, p65)。

収録日・収録場所の補足

先にご紹介した「レッグ・ディスコグラフィ」によって巨匠の戦後のEMIへ

されている。

●ワーグナー/歌劇「タンホイザー」序曲①

●ワーグナー/舞台神聖祝典劇「パルジファル」より第1幕前奏曲②

●ワーグナー/楽劇「ジークフリート」第2幕(断片)

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」第1幕(断片)(→以上いずれも8月号, p267, 右, 中段)

▶これら独アカンタ: 4023520の信ぴょう性をめぐって最近、重要な見解が発表された。

J. Francisが米誌 Fanfare 1984年第6号に発表

したもので、それによると上述の4点の録音は

既出のフルトヴェングラーのレコードと同じ

で、「タンホイザー・序曲」は1952年のスタジオ

録音盤、「パルジファル・前奏曲」は1938年の

スタジオ録音盤、「ジークフリート」は1953

年のローマ・リング、「神々のたそがれ」は1950

年のスカラ・リングとそれぞれ同一としている

。編者も早速、比較してみたが、「神々のた

そがれ」についてはフランスの指摘のとおり

アカンタ盤とスカラ・リングは完全に一致、

「ジークフリート」についても同一の可能性

が大きい。しかし、「パルジファル」は明らかに

別演奏、タンホイザーも別物である可能性

が極めて大きい。フランスはこの4点以外に、

1936年の「神々のたそがれ」がピーチャム

であるという編者と同じ指摘と、もう1つ、

1931年バリオイトの「トリスタン前奏曲」が

1938年のスタジオ録音盤と同一であるという

指摘も行っているが、この「トリスタン前奏

曲」についても明瞭にフランスの誤謬である。

ただハントはフランスのタンホイザー、パ

ルジファル、トリスタンに関する見解に同意

する記述を彼の近著の中で行っている(→

J. Hunt:「The Furtwängler Sound」, 2nd ed. p117,

p118, p121, London, 1985)。

●ワーグナー/歌劇「ローエングリン」第1

幕への前奏曲②(→10月号, p260, 左段)

▶本項の収録を1947年8月30日、ルツェルン、

エズイト教会堂での実録録音としたが、最近

出版された資料(→Sanders:「Walter Legge,

A Discography」, p186, London, 1985, この

書物はEMIのプロデューサーであったワルター

・レッグがプロデュースした全録音——19

31年から1979年まで——の詳細な記録集で、

452ページにおよぶ大冊である)によれば、収

録場所がルツェルン・グントハウスで

あり、レコード用の収録であったことが判

明した。原盤のマトリックス番号は、2ZA42

/43。同書によれば各面とも3テイクずつ収

録されていたがSWF7801⑩にはどのテイクが

使用されたかは不明である。

●ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」

第2, 第3幕(→10月号, p261, 右段)

▶本項レコードのうちK: SS・K22C234に

含まれている2点の断片が仏フ協盤の該当部

分とは別演奏であり、その正体については不

明としたが、Jacquardによれば(→仏フ協

会報, 1983年9月号, p18)この2つの断片

はリハーサル時の折の収録であるという。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」より

「ジークフリートの葬送行進曲」②(→11

月号, p273, 右段)

▶本項の録音に関して広島県の一読者から、

1954年3月2日収録のスタジオ録音盤と同一

ではないか、という重大な指摘が編者のもと

に寄せられた。精査の結果、編者もこの指摘

を確認したので、そのむね昨年末に仏フ協事

務局に連絡を行った。同協会会報最新号(→

1985年1号, p1)にSWF8001の「葬送行進

曲」に編者から収録日についての疑問が提起

されたので、同協会として同レコードの再版

は行わないむね紹介されている。本項は市販

盤はなく、仏フ協: SWF8001⑩に含まれて

いるだけであるが、幸い同盤は日フ協を通じて

同協会会員に頒布されたので相当数の方が

ご所有と思われる。ぜひこの指摘のご確認を

お願いしたい。両盤に共通する明瞭なマ

ーカーが数ヶ所存在するので比較は容易と思

われる。問題は収録年はどちらが正しいのか、

という点であるが、1949年盤にマトリックス

番号を刻印した市販のSP盤が無いので、従

来から1954年収録と信じられていたものが、

実は1949年収録であったという可能性を全

面的に否定することは出来ない。しかし、ク

オリティからみても、従来からの1954年収録

というデータに、間違いは無いと思われる。つ

まりSWF8001に収められているものは1949年

30: R: Le・RCL3335※を追加、同項コメン

トを削除。

[1月号]

●p267, 右段, 上から6行目, 18行目にSLC

2335を追加。

●p267, 右段, 上から27行目, SLC2334を追加。

●p270, 右段, 上から18行目, AA4688を追加。

●p270, 左段, 上から31行目, AA8117(第1

楽章のみ), AB7060を追加。

[2月号]

●p198, 右段, 下から1行目, AB7156を追加。

●p188, 中段, 上から3行目, HA5063を追加。

●p198, 左段, 上から2行目, 世界初演の前

日の→世界初演は前日の。

●p198, 中段, 下から16行目, SS・K20C13

→Cet・K20C13。

コメントの訂正と補足

以下は連載に付した編者のコメントに対して寄せられた読者からの指摘と、それに関する編者の見解、その後の調査により判明した事実、あらたに発表された見解等をまとめたものである。

●R・シュトラウス/交響詩「ティル・オイ

レンシュビーゲル」の愉快ないたずら①(→

7月号, p259, 右段)

▶この録音のLP復刻盤の使用原盤のマトリ

ックス番号が、ロココ系は「1093」、その他は

「1095」としたのに対し、独DGもロココ系

と同じ原盤を使用しているのではないかと、

というご指摘をいただいた。SP盤の録音の

異同の検討は、当時の録音システムの感度が

現在のもののようなハイレベルでは無いので、

とくに本項のようなスタジオ録音の場合は容

易ではない。比較の基本は聴きとれるノイズ

や演奏のニュアンスの差をスコアと首っ引き

でつき合わせることにするが、ノイズは現実

にスタジオ内で起った音をマイクがひろった

ケースは、比較のためのマーカーとなるが、製

盤の過程で発生したノイズは当然のこととし

て比較のためのマーカーには利用できない。

とくに後者のノイズは同一原盤から出発して

も、SP盤をプレスするスタンプが異なると、

同じマトリックス番号であってもノイズの位

置が異なってくる場合がある。実は先のご指

摘をいただいて編者も再度、精査してみたが本

項の場合、ロココ系と独DGの原盤関係につ

いては、幾つかのプレスの異なるSP盤を参照

しても上述の性質の異なるノイズが錯綜して

速断し難い状態である。さらに本項のsd.1の

マトリックス異番号盤(1093)が日polydor: 60188,

仏polydor: 95410にも存在する事があるとの

調査で判明したので(この両盤は1093でもス

タンプ番号は異なっている)本項の復刻盤の使

用原盤については、さらに調査を続けることに

したい。

●モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序

曲(→7月号, p260, 右段)

▶戦後の日本ポリドール盤(復刻盤)のうち

MG1449以降もMG6017以外は未確認ながら非

フルトヴェングラー、とした点について浅里

公三氏からSMG9020に含まれているものはMG

6017と同じもののご指摘をいただいた(→

本誌別冊「フルトヴェングラー」表17, 昭59

年)。連載執筆時の時間的制約からの編者の確

認もれであり、氏のご指摘どおり非フルト

ヴェングラー盤はLGM1105以前の4点の復刻盤

と訂正いたしました。

●ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」第2

幕(断片)(→8月号, p265, 右段)

▶本項のコメントの中で、1936年にフルト

ヴェングラーはコヴェントガーデンで「トリ

スタンとイゾルデ」は指揮したが「神々のた

そがれ」は指揮していないと記述したが、その

後の調査の結果、巨匠の1936年のコヴェント

ガーデンでの演奏は無く、「トリスタンとイ

ゾルデ」は、1935年5月20日と24日の両日であ

ったことが判明したので訂正いたしました。こ

の時のキャストは、トリスタンがメルヒオー

ル、イゾルデがライダー、マルケ王がキブニ

ス、クルヴェナールはヤンセン、モロートは

セールである。なお、連載中に指摘した本項

の録音が1936年5月14日のピーチャムのもの

である点はその後、多くの研究者により確認

●チャイコフスキー／弦楽セレナードより「ワ
ルツ」(→11月号, p275, 左段)
▶2VH7215-1A(2日)。
●チャイコフスキー／弦楽セレナードより「終
曲」(→11月号, p275, 左段)
▶2VH7218-1A(2日)／7219-1A(2日)。前
項とともに弦楽セレナードよりの2曲はムジ
ックフェラインザールでの収録となっている。
●シューベルト／劇音楽「ロザムンデ」よりバ
レー音楽第2番②(→11月号, p275, 左段)
▶2VH7220-1A(2日)。
●シューベルト／劇音楽「ロザムンデ」より
間奏曲第3番③(→11月号, p275, 左段)
▶2VH7221-1C(2日)。前項とともにこの2
曲のシューベルトも収録場所はミュージックフ
ェラインザール。
●J & J・シュトラウス／ピチカート・ボル
カ(→11月号, p276, 右段)
▶2VH7222-1A(3日)。
●モーツァルト／歌劇「魔笛」より「ああ、
おそれおののくなくともよいのです」, 「地獄
の復讐が私の心の中に煮えかっている」
(→11月号, p276, 右段)
▶2VH7224(3日)／7223(3日)。
●シューベルト／劇音楽「ロザムンデ」序曲
②(→12月号, p270, 中段)
▶2VH7233-4(17日)／7234-4(17日)／7235
-4(17日)。
●チャイコフスキー／交響曲第4番(→12
月号, p270, 中段)
▶今回のレグのデータは従来の発表されて
いたものと大きく違っている。編者の手許に
初出のSP盤が無いので確認は出来ない。
2VH7240-2(9日)／7241-7(9日)／7242-
1(10日)／7243-1(10日)／7244-3(10日)／
7236-2(4日)／7237-2(4日)／7238-5(8日)
／7239-2(8日)／7245-2(10日)／7246-1
(10日)。
●ケルビーニ／歌劇「アナクレオン」序曲
(→12月号, p270, 左段)
▶2VH7247-2(11日)／7248-3(11日)。
●ハイドン／交響曲第94番「驚愕」②(→
12月号, p270, 左段)
▶2VH7249-2(11日)／7250-2(12日)／7251
-2(12日)／7252-2(12日)／7253-1(12日)
／7254-2(17日)。
●ニコライ／歌劇「ウィンザーの陽気な女房
たち」序曲(→12月号, p270, 左段)
▶2VH7255-3A(18日)／7256-2B(18日)。
●メタナ／交響詩「モルダウ」(→12月
号, p271, 右段)
▶2VH7257-3(24日)／7258-3(24日)／7262
-3(24日)。
●シューマン／劇音楽「マンフレッド」序曲
②(→12月号, p271, 右段)
▶2VH7263-2(24日)／7264-2(24日)／7265
-2(24日)。
●ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番「皇
帝」(→12月号, p271, 右段)
▶2EA15407-3C(19日)／15408-4C(20日)／
15409-3B(19日)／15412-5A(20日)／15413
-2B(19日)／15414-4A(19日)／15415-2B
(20日)／15416-2B(20日)／15417-2C(20日)
／15421-3B(20日)。収録場所はロンドン、
アビー・ロードのEMIスタジオNo.1である。

おわりに

昨年7月号より11回にわたったフルト
ヴェングラー・ディスクグラフィは、今
回をもって終了といたします。永年、巨
匠を熱愛してきた1ファンとして没後30
年という記念すべきときに執筆できたこ
とは、文字通りファン冥利につきるもの
でした。幾多の不充分を残したことが
いささか心残りではありますが、もし将
来、稿を改める機会でもありましたら
ば補いたいと考えます。最後に、ジャケ
ット写真を御提供いただいた岡田又彦氏
およびご指摘・ご援助を賜りました多く
の方々に、厚く御礼申し上げます。

〈松山浩介〉

ただきたい。
●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」より
「夜明けとジークフリートのラインへの旅」①
(→11月号, p273, 中段)
▶2VH7135-1(23日)／7136-1(23日)／71
37-1(23日)。
●ワーグナー／歌劇「さまよえるオランダ人」
序曲(→11月号, p273, 中段)
▶2VH7128-4(4月4日)／7129-1(3月30
日)／7130-1(3月31日)。
●ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲
③(→11月号, p273, 中段)
▶2VH7157-1(3月30日)／7158-2(3月30
日)／7164-1(4月2日)／7165-1(4月2
日)／7166-2(4月2日)。
●ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」より「ワ
ルキューレの騎行」(→11月号, p273, 中
段)
▶2VH7131-1(31日)。
●ベルリオーズ／劇物語「ファウストの幼
罰」より「ラコツィ行進曲」②(→11月
号, p273, 左段)
▶2VH7132(31日)。
●モーツァルト／セレナード第13番「アイネ
・クライネ・ナハトムジーク」②(→11月
号, p273, 左段)
▶2VH7159-2(1日)／7160-1(1日)／7161
-1(1日)／7162-1(1日)。
●ワーグナー／楽劇「ニュールンベルクのマ
イスタージッガー」第1幕前奏曲①(→11
月号, p273, 左段)
▶2VH7163-1(1日)／7169-2(4日)／7170
-2(4日)。
●ブラームス／ハンガリー舞曲第3番(→
11月号, p273, 左段)
▶2VH7167-2(4日)。
●ブラームス／ハンガリー舞曲第10番②
(→11月号, p274, 右段)
▶2VH7167-2(4日)。
●ブラームス／ハンガリー舞曲第1番②
(→11月号, p274, 右段)
▶2VH7168-1(4日)。
●ワーグナー／楽劇「ニュールンベルクのマ
イスタージッガー」より「徒弟たちの踊り」
(→11月号, p274, 右段)
▶2VH7171-2(4日)。
●ブラームス／ヴァイオリン協奏曲①(→
11月号, p274, 中段)
▶本号「コメントの訂正・補足」をご参照い
ただきたい。
●シューベルト／交響曲第8番「未完成」②
(→11月号, p275, 右段)
▶2VH7190-1A(19日)／7191-1A(20日)／71
92-1A(20日)／7193-1A(21日)／7194-1A
(21日)／7195-1A(21日)。
●R・シュトラウス／交響詩「死と変容」②
(→11月号, p275, 右段)
▶2VH7196-1A(24日)／7197-1A(23日)／71
98-1A(23日)／7199-1A(23日)／7200-1A(24
日)／7201-1A(24日)。
●J・シュトラウス／皇帝円舞曲(→11月
号, p275, 右段)
▶2VH7202-1A(24日)／7203-1C(24日)。
●ベートーヴェン／交響曲第4番③(→11
月号, p275, 右段)
▶2VH7207-1A(25日)／7208-1A(30日)／72
09-1A(30日)／7204-1A(25日)／7205-1A
(25日)／7206-1A(25日)／7210-1A(30日)／
7211-1A(30日)／7212-1A(30日)／7213-1
B(30日)。
●ベートーヴェン／交響曲第7番③(→11
月号, p275, 中段)
▶2VH7180-1A(18日)／7181-1A(18日)／71
82-1A(18日)／7183-1A(18日)／7184-1A
(18日)／7185-1A(18日)／7186-1A(19日)／
7187-1A(19日)／7188-1A(19日)／7189-1
B(19日)。
●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」より
「ジークフリートの葬送行進曲」④(→11月
号, p275, 中段)
▶2VH7133-4A(31日)／7134-4A(31日)。
●ワーグナー／楽劇「ニュールンベルクのマ
イスタージッガー」より第3幕への前奏曲
(→11月号, p275, 左段)
▶OVH475(1日)／476(1日)。
●ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲(→
11月号, p275, 左段)
▶2VH7216-1A(1日)／7217-1A(1日)。

の録音のうち78回転盤に収録されたもの
の詳細が判明したので、同書より各マト
リックス番号ごとの収録日、収録場所に
ついてのデータをお目につけよう。なお、
収録場所については連載の記述と同じ場
合は以下の補足では省略してある。デー
タの整理については川合史氏にご多忙
の中、長時間にわたってご苦勞をおかけ
した。氏のご協力に厚く御礼申し上げます。

●ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲②
(→10月号, p260, 中段)
▶収録場所はルツェルン・クンストハウス, 2
ZA31-4(29日)／32-3(28日)／33-2(28
日)／34-1(28日)／35-2(28日)／36-2(28
日)／37-1(29日)／38-2(29日)／39-1(29
日)／40-3(29日)／41-1(29日)。
●ワーグナー／歌劇「ローエングリン」第1
幕への前奏曲②(→10月号, p260, 左段)
▶本号「コメントの訂正・補足」をご参照い
ただきたい。
●モーツァルト／セレナード第10番(13管楽
器のための), (→10月号, p261, 中段)
▶収録場所はミュージックフェラインザール(M)
とブラームスザール(B)の2ヶ所で行われて
いる。2VH7062-1(12月3日:B)／7063-1
(12月3日:B)／7064-1(12月3日:B)／71
04-1(11月26日:M)／7051-3(11月26日:
M)／7090-1(11月19日:M)／7103-1(11
月26日:M)／7071-1(11月11日:M)／7072
-1(11月11日:M)／7089-2(11月19日:M)。
●ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」②
(→10月号, p261, 中段)
▶2VH7068-1(10日)／7069-1(10日)／7070
-4(11日)／7073-2(11日)／7074-2(11
日)／7075-2(11日)／7074-2(11日)／7075
-2(11日)／7076-1(11日)／7077-1(11
日)／7078-1(12日)／7079-2(12日)／7080
-1(12日)／7081(12日)／7082-4(17日)。
なお7074-5の再録音場所はブラームスザ
ール(他は連載記載どおりのミュージックフ
ェラインザール)。
●ブラームス／交響曲第1番②(→10月号,
p261, 左段)
▶2VH7083-1(17日)／7084-2(17日)／70
85-1(17日)／7086-2(17日)／7087-2(18
日)／7088-2(18日)／7091-1(19日)／709
2-1(19日)／7093-1(19日)／7099-1(20
日)／7100-1(20日)。
●ベートーヴェン／序曲「コリオラン」②
(→10月号, p261, 左段)
▶2VH7101-2(25日)／7102-1(25日)。
●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」より
「ブリュンヒルデの自己犠牲」①(→10月号,
p262, 右段)
▶2EA12850-2(26日)／12851-1(26日)／12
852-1(26日)／12853-1(26日)／12854-1
(26日)。収録場所はロンドン、アビー・ロ
ードのEMIスタジオNo.1である。
●モーツァルト／交響曲第40番①(→10月
号, p262, 左段)
▶2VH7110-2(7日)／7111-2(7日)／7112
-4(1949年2月17日)／7113-6(1949年2月
17日)／7114-1(8日)／7115-1(8日)。
●メンデルスゾーン／序曲「フィンガルの洞
窟」②(→11月号, p273, 右段)
▶収録場所はブラームスザール。2VH7108-
4(15日)／7109-5(15日)。
●ワーグナー／ジークフリート牧歌(→11
月号, p273, 右段)
▶ブラームスザール(B)とミュージックフ
ェラインザール(M)の2ヶ所で行われている。2V
H7121-1(16日:B)／7122-1(16日:B)／7
123-1(17日:M)／7124-2(17日:M)。
●ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲②
(→11月号, p273, 右段)
▶各面とも3テイクずつ収録されているが、
「レグ・デ・ス・コグラフィ」にはSWF 8001®
に使用されたのはどのテイクかの記述は無い。
2VH7125(17日)／7126(22日)／7127(22日)。
●ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」より
「ジークフリートの葬送行進曲」②(→11月
号, p273, 右段)
▶本号「コメントの訂正・補足」をご参照い



フルトヴェングラー：ピアノ五重奏曲八長調
フランソワ・ケルドンクフ(p)シネ・ノミネSQ
[仏ティンパニ©IC1018]

松山浩介(音楽評論)

作曲者はもちろん、かの大指揮者フルトヴェングラーその人。指揮者よりも作曲家として後世に評価されることを願いながらも、あまりにも巨大な指揮者の姿ゆえ、今だにその望みをみだされないうまま今年で没後四十年を迎える。それでもここ数年、毎年一点ぐらいつつその作品の録音もすすみ、耳にできるものもけっこう多数にのぼってきた。「作曲家」フルトヴェングラーには目のない筆者にとつては、「指揮者」フルトヴェングラーの新収穫もあり期待できなくなった昨今、このCD登場も見逃がすわけにはいかないと。このピアノ五重奏曲はかつてアナログ時代にドイツでLPが出たことがあったので(タ・カメラ・マグナ SM九二八四/五)、これが二度目の録音にあたる。

「作曲家」フルトヴェングラーが生涯に書き残した作品は幼年期の習作を含めるとおびただしい数にのぼるが、今日、何らかの機会に演奏されるのは一九三〇年代後半から没年までの十数年あまりの間に作られたものに限られており、それ以前の作品は研究会やシンポジウムなどの学術的な場で演奏されているにすぎない。このピアノ五重奏曲は一九一〇年代はじめに着手され、三四年に完成したとみ

られているので、習作期から晩年(円熟期というべきか)への移行の時期にあたる作品といえる。完成後約半世紀を経て八〇年一月六日にミュンヘンでサヴァリッシュのピアノ、ブスル弦楽四重奏団によって初演された。

この曲を一聴して感じるのには、これに続いて作曲されたピアノ協奏曲——正確には、ピアノと管弦楽のための交響的協奏曲——との類似性だ。調性の違い(ハ長調とロ短調)はあるが、全体をつらぬく曲想はまったくのうりふたつだ。四重の力から四重の力までのデュナーミクや総休止の多用など、なまじ器用なメロディ・メーカーでなかっただけに、小細工を弄せず正面から力で切り切ろうとしているのはむしろ小気味いいくらいだ。もつともそれが成功しているかどうかは別だが、それでも、たとえば緩徐楽章にしばしば顔を見せる下降音形の旋律線は回想的な雰囲気を感じさせてすこぶるノスタルジックだ。かつて柴田南雄氏はフルトヴェングラーの作品にしばしば登場するこの下降音形のパターンはナチス時代という背景と不可分のものと述べられているが、筆者はむしろ時代を越えたフルトヴェングラーの人生観そのものの表象のように感じる。つまり「指揮者」フルトヴェングラーの演奏論が古典への限らない回想とその擁護にあることを、はからずも「作曲家」フルトヴェングラーが描き出してみせているというわけだ。

ケルドンクフとシネ・ノミネ四重奏団による演奏はルーアン大学のドーディエレスの校訂になるスコアを使用しており、演奏不能とさえ思えるような部分も鮮やかに弾き切っていて、そのエネルギーには舌をまく。

フルトヴェングラーの作曲作品一覽および解説

は じ め に

今年に入って、朝比奈・大フィルによる交響曲第2番の日本初演(4月24日・大阪)、同曲の新レコードの登場(ヘッセン放響盤、国内盤はテトラ K 9 C 3 6 3 4)、さらにピアノ五重奏曲の世界初レコード化(独ダ・カメラ 9 2 8 1 5)など、没後30年にしてようやく「作曲家」フルトヴェングラーにスポットがあてられだした感じが深い。

フルトヴェングラー・ファンなら誰しも一度は必もどく「書簡集」には、巨匠自身の言葉として、指揮者としてよりもむしろ作曲家としての苦悩を語る場面が随所に見られる。指揮者としてよりも作曲家として後世に評価されることを願う多くの作品を残したこの今世紀最大の芸術家も、指揮者としての光芒のあまりにも巨大なるが故に、エリザベット夫人の回想録が「作曲家」と題する章で始められているという事実はあるにせよ、自らの望んだ姿を周囲に認められないうちに今日に至っている。

作曲過程の追体験にこそ再現芸術の真の意義を認めたフルトヴェングラーにあつては、フルトヴェングラーの作品をみるに当つては、もちろん、曲そのもののへの評価と同時に、この追体験そのものの過程を解きほぐす鍵としてその作品をみることに、とくにいくつかの自作自演の録音の綿密な分析が「指揮者」フルトヴェングラーの本質にせまる点で大いに有用であるはずである。フルトヴェングラー作品の研究に今まで見るべきものが無かつた——もちろん、W・リッツラーの「W・フルトヴェングラーの精神的な世界」(フルトヴェングラーを語る)、白水社、昭和49年刊、に収載)のようにきわめてすぐれた作品論もあつたが——原因の一つは、この追体験というフルトヴェングラーの指揮芸術の重要なモメントとして分析するという視点が希薄であつた、という点にあるのではないだろうか。最近も英国の著名な評論家R・オズボーンが「The other side of Furtwängler」と題して英誌「Radio Three Magazine」に論評をのせているが、筆者の率直な感想をのべればこれとても指揮者の余技ととらえている印象をぬぐい切れない。むしろ今までの経過から見

松山浩介

るならば、同時代に同じような試みを企てた指揮者達、クレンペラー、ショルティ、やや古くはワインガルトナーなどと比べて楽譜の出版にしても、その作品のレコード化にしても、フルトヴェングラーの場合は異常なまでに豊富な資料が我々に提供されているのが実状であり、この没後30年を期に一步ふみ込んだ作品論の上に豊かなフルトヴェングラー論が築かれるのを願うのは筆者のみではあるまい。ここではわが国でもいずれば手がけられるであろう本格的な「作曲家フルトヴェングラー」論のための予備的な試みとして、巨匠の全作品をご紹介しておきたい。

フルトヴェングラーの作品の自筆手稿類、写譜類は現在、チューリヒ中央図書館に収蔵されているが、去年十月に東京で開かれた「フルトヴェングラー展」にそのうち十三点(うち六点は写真版)が展示された。1975年8月、イギリスのJ・エリスが当時クラランのエリザベット夫人の許に保管されていたこれらについて調査を行い、これをもとにして作製された作品目録がこのたび刊行された新グローブ音楽辞典の「フルトヴェングラー」の項の末尾に付けられている。この目録は曲名だけの簡単なものではあるが、従来のいくつかの書物に記されているものがどれも不完全なものであつただけに作品の全ぼうを知るには唯一の貴重な資料である。エリスはこの調査のあり、前述の目録とは別にややくわしい覚書を作製しており、これはフルトヴェングラー協会会報1982年10月号に発表されているが、内容は若干検討を要する部分が含まれている。ここではこれらの資料を参考に、「書簡集」などをあわせ検討してフルトヴェングラー作品を鳥瞰することにした。なお、配列はジャンル別、年代順として曲名の次の(一)内は作曲年を示す。

オーケストラ作品

序曲(1899)

1899年の日付の入った自筆のフルスコアが存在し、冒頭に「作品三」との記入がある。14歳から15歳にかけては、オー

ケストラの序曲を一曲と、……(フルトヴェングラーの手紙、仙北谷晃一訳、白水社刊、P317、以下「手紙」と略記する)とあるものに相当すると思われる。リッツラーは1900年にミュンヘンでフルトヴェングラー自身の指揮で演奏されたとしている(フルトヴェングラーを語る)、芦津・仙北谷共訳、白水社刊、P68、以下「語る」と略記する)。

交響曲二長調(1903)

1903年5月の日付の入った鉛筆書きのフルスコアが存在する。1902・6・23付の父宛手紙から作曲開始はほぼこの頃と推定される(「手紙」P39)。完成後、G・ドールンの手でブレスラウで初演されたが不評に終わった。なお、この二長調の交響曲を従来から交響曲第一番と呼んでいたが(たとえば「語る」P95。その他「手紙」の中の註釈も全て二長調交響曲を第一番としている)、エリザベット夫人の回想録では後述の口短調交響曲を第一番としており、エリスもこの見解をとっている。

ラルゴ 口短調(1908)

1908年の日付の入った自筆フルスコアが残されており、1906年2月19日にミュンヘンで自身の指揮で初演されたアダージョと同一のもの。交響曲第一楽章とされているが当時その他の楽章が作られたかどうかは不明。1938年から40年にかけて作曲された口短調交響曲——第一交響曲と呼ぶべきものの——の第一楽章と調、主題、テンポが酷似しており、おそらくこのラルゴを基本として作られたものと思われる。

ピアノとオーケストラのための交響的協奏曲(1924・36)

2種類のスコアが残されている。一つは自筆鉛筆書きで、第一楽章力デンツァに多くの訂正・加筆が加えられている。もう一つはH・ウォルハイム(ベルリン国立歌劇場の人で、ユダヤ系であったウォルハイムの救出にフルトヴェングラーが尽力したこともあり、フルトヴェングラーの作品の写譜はほとんどこのウォルハイムが引き受けている)の手になる1937年7月

付の写譜。こちらの方はおそらく1937年10月26日のミュンヘンでの初演の際に使用されたものと思われる。残されているスケッチでもっとも古いものは1924年の日付のもので、1930・7・27付クニッテル宛の手紙(「手紙」P80)からもおそらくこの頃からとりかかったものだろう。1954年にヴィスバーデンのブルックナー社より2台のピアノ用の編曲譜が出版されている。

交響曲第1番、ロ短調(1938-41)

主要部分は1940年前後に作曲されているが、不満足のまゝ一時中断の後、第2交響曲完成後にふたたび手を入れているが、遂に演奏されることは無かった。前述のように1908年のラルゴに加筆のうえ、アダージョのスケルツォ、フィナーレが付け加えられた。アダージョの冒頭には1941年8月の日付がある。演奏用パート譜も作製されており、エリザベツト夫人の回想録によれば、1943年春には第1楽章のリハーサルにも着手している。なお、最終的にフルトヴェングラーが意図したスケルツォはトリオが含まれていないが、トリオを含んだスケルツォの楽譜も残されており、おそらく初期の稿と思われる。

交響曲第2番、ホ短調(1944-5)

鉛筆書きの自筆フルスコアがあり、第1楽章には1944年8月及び1945年10月6日、おそらく開始と完了の日付と思われる。アンダンテには1945・5・18、スケルツォには1945・8・14、9・20、フィナーレには1945・10・17のそれぞれ日付が入っている。これとは別にウオルハイムの手になる写譜も在るが、1947・7・14付シュトラウベ宛の手紙(「手紙」P97)からこの年の夏にパート譜を含めた写譜が完了したと思われる。初演は1948年2月22日に自身の指揮によりベルリン・フィルの定期演奏会が行われ、この時のリハーサルは収録されている。存命中の自身の手による演奏回数は全部で21回、これとは別に1951年にDGへの録音が行われており、レコードは現在のところこのスタジオ録音盤と2種類の実況録音盤がある。楽譜の出版は1952年にヴィスバーデンのブルックナー出版社から行われた。

交響曲第3番、変ハ短調(1947-54)

巨匠最後の作品。自筆フルスコアが存在するが第1楽章は曲の配列が不規則で判読困難であるという。スケルツォには1952・10、アダージョには1948・6・30及び1949・4・22、フィナーレには1953・6・13の日付がある。ウオルハイムの手になる全曲写譜(1954年5月付)が在り、死の

歌曲「動物の小曲」の自筆譜。作品1とある

Opus I. *Carl Hüffner, 1861-1911* 30.6.91.

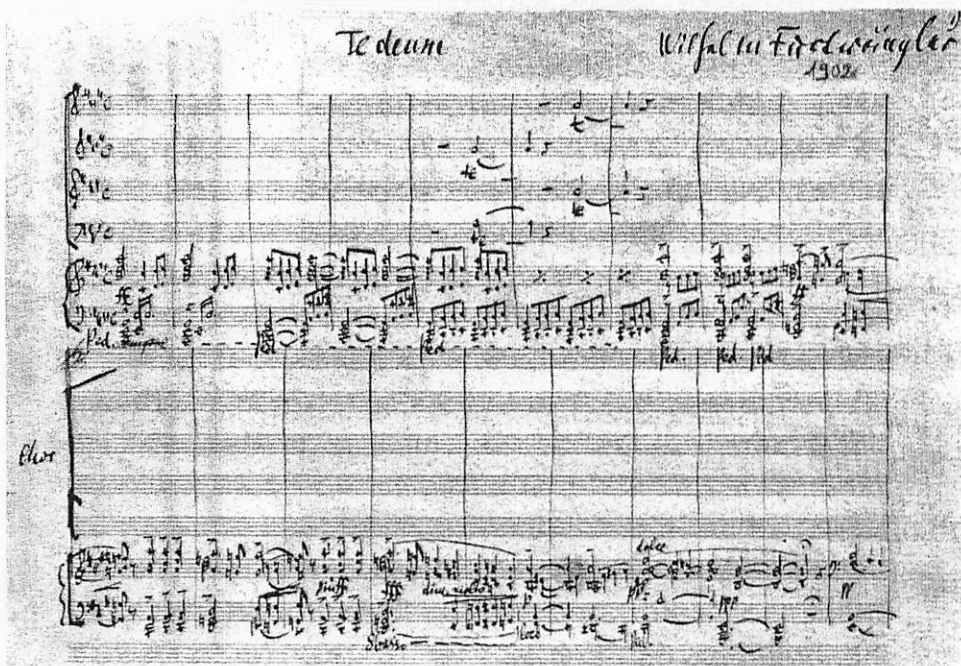
歌曲「乾いた涙」の自筆譜

声 楽 曲

数週間前に1、2、3楽章の冒頭に“Verhängnis, Leben, Jenseits”と記入している。死の直前の1954・11・9付ウオルハイム宛の手紙(「手紙」P313)に“11月末ごろには今度こそ音楽のための交響曲をお渡しできるまでにこぎつけられると思います”とあることから、おそらくフルトヴェングラーはこの曲の最終楽章に音楽を加えて再度書き直すつもりであったと思われる。したがって1956年1月26日のカイルベルト、ベルリン・フィルによる初演以降、3楽章の未完の形で演奏されて来たが、昨年7月10日、ブライアン・ライト指揮のBBC響の手で始めて全曲版の演奏が行われた。

Die erste Walpurgisnacht (1867-8)

ゲテのファウスト第一部のワルブルギスの夜より歌詞がとられている。S、A、Bのソロと2部のコーラス、器楽伴奏のカンタータ。フルート、ヴァイオリン、チェロ、第2ピアノ以外の器楽パート譜は紛失している。フルスコアも無いが、声楽パートはフルトヴェングラー及び父親の手による完全譜があり、フルートパート譜にはアドルフ父へ、1898・1・27、70回目の誕生日の記入がある。



「テ・デウム」ヴォーカル・スコアの冒頭部分の自筆譜

Ich wandelte unter den Bäumen (1898)

S、Aソロ及び4声女声コーラス、ピアノ伴奏による声楽曲。
1898年4月付の自筆フルスコア、パート譜がある。

Geisterchor (1902)

ゲーテのファウスト第一部よりテキストがとられている。オーケストラ伴奏。1902年8月付の自筆フルスコアがあるが、多くの訂正が施されている。

Religiöser Hymnus (1903)

S、Tソロ、合唱、オーケストラ伴奏。テキストはファウスト第二部より。1903年の日付入り自筆フルスコアがある。

Te Deum (1902-10, 1915)

何種類かのスコアが残されている。一つは1902年付けで、おそらく声楽部分の最初稿と思われるもの。ピアノ伴奏で、同パートは全部書かれているが声楽パートは若干未完部分がある。2つ目はオーケストラ伴奏の自筆フルスコアで冒頭に1909年の日付があり、おそらく1910年秋プレスラウでG・ドールンにより初演された際の形を示すものと考えられる。この後、翌1911年12月6日にフルトヴェングラーの手にによりシュトラスブルグで演奏された。1915・3・24付シュトラウベ宛の手紙(手紙、P52)によれば、これら一連の演奏の経験をふまえて改作に着手をしたと考えられる。没後ではハンス・シェミン・プティ指揮のベルリン・フィルによる演奏があり、録音も残されている。

器楽曲・室内楽曲

チェロとピアノのための小ソナタ(1896)

1896・5・21-6・21付の自筆スコアとチェロ・パート譜がある。

ピアノ三重奏曲、ヘ長調(1896)

1896・7・27付自筆スコアとパート譜。

弦楽四重奏曲(1896)

1896・10付の自筆パート譜。リッツラーの語る「その少し前」(1897-8年の。松山註)ミュンヘン最高の弦楽四重奏団であるヴァルター・クワルテットがこの家でこの10歳児の手になる弦楽四重奏曲を演奏していた(「語る」、P64)に対応するものと考えられる。

2つのヴァイオリンとチェロのためのトリオ(1896-7)

1896-7年付自筆パート譜。

弦楽四重奏のための変奏曲(1897)

テーマと3つの変奏、コードからなる。1897年付の母親アーデルハイトの手になるスコアとパートの写譜が残されている。

ヴァイオリン・ソナタ、イ短調(1898-9)

1898・12・21付の祖母クリスティアーネ宛の手紙(手紙、P19)によればマンハイムで作曲を始めたもので、1898-99年新年の日付入りの自筆譜がある。

ピアノ四重奏曲(1899)

1899・5・8付、祖母クリスティアーネと伯母ミンナに宛てた手紙(手紙、P21)に出てくる「ピアノ四重奏曲を一つ仕上げ、目下清書中です」と書いているもの。また同年に宛てた同年6月付の手紙にある弦楽四重奏曲(同書、P23)は、おそらくフルトヴェングラーの書き違いでこのピアノ四重奏曲のことと思われる。現存する1899・4付自筆スコア及びパート譜によればスケルツォが4拍子で、上述の6月付の手紙の内容と一致する。

ピアノ三重奏曲、ホ長調(1900)

2組の自筆スコアとパート譜があり、一方のヴァイオリン・パート譜に1900・4の日付けがある。「13歳にして」すばらしいピアノ三重奏曲」を書き……(手紙、P317)と書かれている曲。

ヴァイオリン、チェロ、ピアノのためのファンタジー(1900)

1900年付自筆スコアとパート譜。

弦楽四重奏曲嬰ヘ短調(1901)

母親アーデルハイトの手になる写譜スコアのみで自筆譜は残っていない。1900・1・27付、祖母クリスティアーネに宛てた手紙(手紙、P25)で言及しているホ短調の四重奏曲が残

っていないので、あるいは嬰へ短調のこの曲が手紙に書かれているものではないかと想像されている。またガイスマールの回想録に出てくる1901年マンハイムでガイスマールの父親らが演奏したのもこの曲であると思われる。

ピアノ五重奏曲(1912? - 1934)



〈ピアノ五重奏曲〉スケッチ

1915・3・24付、シュトラウベ宛の手紙(「手紙」、P52)からみて、1915年には作曲が始められていたと考えられるが、今回の展覧会に展示された1912年7月24日の日付のあ

る「五重奏」と題されたスケッチは、現在の「ピアノ五重奏曲」の第2楽章の冒頭とはほぼ同じ内容で、あるいはすでにこの頃に着手していたのかもしれない。全体の完成はリッツラーの証言(「語る」、P92)から判断して1934年と考えられる。1979年にミュンヘンで初演され、最近レコード化も実現した。

ヴァイオリン・ソナタ第1番二短調(1935)

スケッチの日付は1916年。鉛筆書き自筆譜には第1楽章1935・8・2、第3楽章1935・7、第4楽章1935・7・17の日付けがある。1937年にコルベルクのヴァイオリン、作曲者の伴奏で初演されたが、楽譜出版前にさらにソロパートに変更が加えられた。出版は1938年にライプツヒのブライトコップ&ヘルテル社より行われたが、再版時にさらに若干の変更が加えられている(たとえば第1楽章のソロパートの64小節目など)。

ヴァイオリン・ソナタ第2番二長調(1938)

鉛筆書き自筆譜のみで写譜は無い。第1楽章から順に1938・9・28、1938・9・22、1938・9・12の日付けがある。出版譜(1940年、ベルリンのポルト&ボック社)とこの自筆譜のソロパートに若干の違いがあるが、これも初演後の手直しと思われる。1940年2月19日、ミュンヘンでクルンカンフとフルトヴェングラーにより初演された。

以下の曲は10歳台半ばまでのいわば習作の類であるが、楽譜が現存するものをかかげる。

ピアノのための習作(1894 - 5)

母親の筆跡の一冊のノートにまとめられている。1894年付の祖母クリスティアーナ宛の手紙(「手紙」、P15)にある新しいピアノ曲も含まれているのだろう。

8曲のピアノ・ソナタ(1896 - 8)

全て自筆譜。1896・12・17付の手紙にある二長調ロンドも含まれている。

2曲のピアノのための幻想曲(1898)

日付け無しの複写譜のみ。形式から見て1898年頃の作品とみられる。

2曲のピアノのためのフーガ(1898)

自筆譜でそのうちの1つに1898年の日付がある。1898・12・21付の手紙で「最新作」とのべているものだろう。

ピアノ連弾のための幻想曲(1898)

日付けの無い複写譜のみ。1898・12・21付の手紙にある「このあいた連弾用の幻想曲を作りましたので……」とあるものだろう。

ピアノのための2つの幻想曲(1900)

14歳から15歳にかけては……ピアノの幻想曲を2曲と……とあるものに相当すると思われるが、現存するものは第2番と記された1900年3月付の自筆譜しか残っていない。

ピアノのための2つの小曲(1902)

第1番は1902・5・30付、第2番は1902・8付。

ピアノのための3つの小曲(1903)

フルトヴェングラーで無い筆跡の写譜で1903・4・4の日付けがある。

歌曲集(1895 - 1900)

ピアノ伴奏で全部で18曲あり、うち3曲は未完成。大部分は自筆譜で1895 - 1900年の日付け入り。

以上のほかに1901年頃に作曲され、演奏された記録も残されている弦楽六重奏曲があるが、現在残されているものの中にはこれに該当する作品は見当たらない。